松本市文化財調査報告No.239

長野県松本市

殿村遺跡

—発掘調査報告書（第1・9次・総括）—

虚空蔵山城跡

—岩屋社周辺測量調査報告書—

2020.3

松本市教育委員会

例　言

1　本書は、殿村遺跡第１・９次発掘調査、第１～９次発掘調査の総括、虚空蔵山城跡岩屋社周辺測量調査に係る報告書である。

2　本報告書刊行に係る一連の作業は、平成 30・31 年度（令和元年度）国庫補助事業として実施した。

3　本書の構成は、上記１に係る報告書本編と、既刊の報告書 PDF データを格納した付録 DVD からなる。

4　本書の執筆は以下の分担で行ったが、各章中の節・項の執筆については記述ごと文末に氏名を記載した。
第１章：事務局、第２章：栗田　愛・廣田早和子・宮島義和、第３章：伊藤蔵之介・植田弥生・栗田　愛・竹原　学・原田健司・廣田早和子・宮島義和、第４・５章：竹原　学

5　本書作成に係る作業分担は以下のとおりである。

遺物整理	荒井留美子、草間恵美、久根下三枝子、裏　理恵、中澤温子、洞沢文江、百瀬二三子	
遺構図整理	荒井留美子・伊藤　愛（１次）、栗田　愛・廣田早和子（９次）、竹原　学（岩屋社）	
木製品樹種同定	試料採取：伊藤蔵之介、植田弥生、富岡享子、廣田早和子、丸山　恵、壬生量子	
	分析：植田弥生	
ガラス製品分析	田村朋美（奈良文化財研究所）	
遺物実測	焼物：久保田瑞恵、竹内直美、竹平悦子、八板千佳	
	石器・石製品：白鳥文彦、原田健司	
	金属製品：栗田　愛、洞沢文江	
	木製品：荒井留美子、久根下三枝子	
	その他：栗田　愛	
遺構写真撮影	宮嶋洋一・山本紀之・横井　奏（１次）、栗田　愛・廣田早和子（９次）	
遺物写真撮影	宮嶋洋一	
航空撮影（委託）	地図測量（株）	平成 20 年度　殿村遺跡周辺
遺構測量（委託）	地図測量（株）	平成 20 年度　殿村遺跡 A 区石積写真測量
	（株）協同測量社	平成 21 年度　殿村遺跡 A 区石積三次元測量
		平成 30 年度　虚空蔵山岩屋神社周辺地上三次元測量
トレース・版組	遺構図：荒井留美子、伊藤　愛、栗田　愛、廣田早和子	
	焼物：久保田瑞恵	
	石器：白鳥文彦、原田健司	
	金属製品：栗田　愛	
	木製品：竹内直美、廣田早和子	
	その他遺物：栗田　愛	
総括・編集	竹原　学	

6　焼物（土器・陶磁器）実測図における断面の塗り分けは以下のとおりである。
白：土師器・土師質土器、黒：炻器（須恵器）・陶磁器、灰：瓦質土器

7　焼物の器種分類は、本書で独自の設定したもの以外は下記の基本文献に従った。鑑定は調査指導委員の小野正敏・水澤幸一氏から全体的な指導を得、金子健一氏・河合君近氏・藤沢良祐氏には瀬戸製品についての指導を依頼した。その他、赤澤徳明氏、阿部来氏、市川隆之氏、降矢哲男氏からも教示を受けた。

上田秀夫　1982「14～16 世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2
小野正敏　1982「15～16 世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』2
1985「出土陶磁よりみた一五、一六世紀における画期の素描」『MUSEUM』416
小平和夫　1990「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書４総論編』

藤沢良祐　2002　「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯
2008　『中世瀬戸窯の研究』
水澤幸一　2009　『日本海流通の考古学』
2014　「戦国期武家の日常使いの貿易陶磁の実像～十五世紀中葉－十六世紀中葉を中心に」『国立歴史民俗博物館研究報告』182
森田　勉　1982　「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2
横田賢次郎・森田　勉　1978　「大宰府出土の輸入陶磁器について～型式分類と編年を中心にして」『九州歴史資料館研究論集』4

8　1次調査では土層注記を記号化している。記号の示す内容は以下のとおりである。

土色		しまり	混入物		量	堆積
記号・説明		記号・説明	記号・説明		記号・説明	記号・説明
1　校庭造成土	19　灰オリーブ色土	A　あり	1　炭化物粒・塊	19　灰色土粒・塊	a　10%以下	N　自然堆積
2　旧耕作土	20　にぶい黄色土	B　なし	2　木質遺物	20　暗灰黄色土粒・塊	b　11～20%	無　人為堆積
3　暗渠暗土（現代）	21　オリーブ黒色土		3　鉄分	21　漆喰	c　21%以上	P　柱痕
4　黄褐色土	22　にぶい黄橙色土		4　焼土粒・塊	22　石灰		
5　褐色土	23　褐灰色土		5　礫	23　粘土		
6　暗灰黄色土	24　にぶい黄色土		6　黄褐色土粒・塊	24　褐灰色土粒・塊		
7　明黄褐色土	25　灰黄色土		7　褐色土粒・塊	25　茶褐土粒・塊		
8　灰黄褐色土	26　灰色土		8　暗黄灰色土粒・塊	26　赤褐色土粒・塊		
9　暗褐色土	27　浅黄色土		9　明黄褐色土粒・塊	27　青色土粒・塊		
10　黒褐色土	28　暗オリーブ灰色土		10　灰黄褐色土粒・塊	28　青色砂粒		
11　白色土	29　黄色土		11　暗褐色土粒・塊	29　泥岩		
12　青灰色土	30　オリーブ褐色土		12　白色土粒・塊	30　地山粒		
13　緑灰色土	31　暗灰色土		13　黒褐色粘質土粒・塊	31　腐植物		
14　赤褐色土（焼土）	32　暗青灰色土		14　青灰色粘質土粒・塊			
15　暗黄褐色土	33　暗オリーブ褐色土		15　緑灰色粘質土粒・塊			
16　黄灰色土	34　黒色土		16　灰白色土粒・塊			
17　暗灰褐色土	35　明緑灰色土		17　橙色土粒・塊			
18　にぶい黄褐色土			18　褐色土粒・塊			

9　図中で使用した方位は真北を示す。また、殿村遺跡では図中に示した国家座標値（世界測地系・第8系）は、平成23年3月11日に発生した東北太平洋沖地震以前の値で、地震変動に対する補正は行っていない。

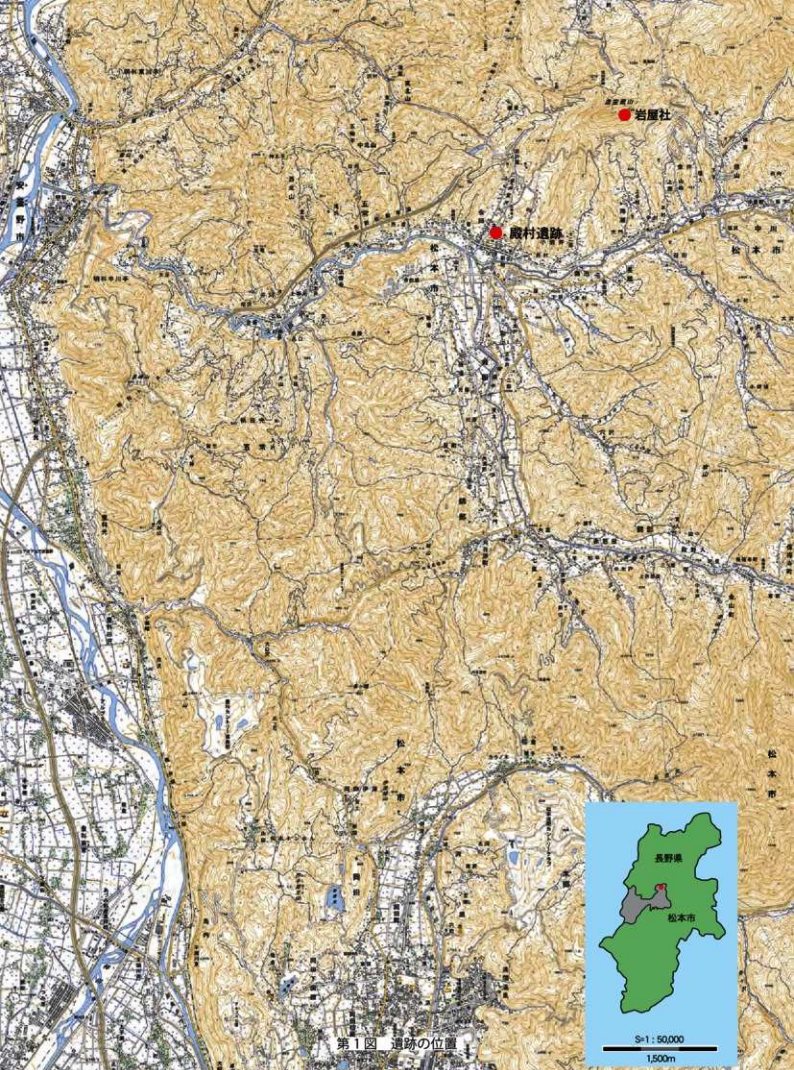
10　平成20年度以降、本調査事業の実施にあたり、以下の方々から指導・助言・協力を得た。なお、調査指導委員等関係者については第1章に記した。

会田　進、会田能久、青木教司、青木秀貴、赤澤徳明、阿部　来、石川安司、市川惠一、市川隆之、伊藤　愛、伊藤一義、稲垣　勉、井原今朝男、岩淵世紀、岩淵伸子、植田弥生、牛山佳幸、遠藤公洋、大河内忠則、大沢慶哲、大塚利彦、近江俊秀、小口倬郎、小口正治、織田顕行、尾見智志、河西克造、加藤理文、金子健一、金子　孝、上條信彦、上條治徳、川久保福美、川畑　純、神澤昌一郎、北垣聰一郎、木下辰男、草間伊知郎、久保智康、久保安俊、久保田恵美子、久保田佳弘、熊谷道応、栗田　愛、小椋　敏、兒玉学雄、後藤芳孝、小林有人、河合君近、桐原　健、五味盛重、坂井秀弥、狭川真一、櫻井秀雄、佐々木邦博、真田忠昭、下高大輔、白沢勝彦、鈴木地平、関沢　聡、田村朋美、高橋卓志、高橋順之、滝沢正行、武川　靖、谷川光昭、田村朋美、土屋和章、寺内隆夫、時枝　務、内藤喜章、中川律子、中原勝元、西沢功太、野村宗芳、萩原さちこ、橋口定志、畑　大介、浜野安則、原　明芳、伴在琴恵、坂西深志、引地節子、平澤　毅、平林　彰、藤岡英礼、藤澤良祐、降旗和雄、降旗恒明、降旗紀子、降矢哲男、北條芳隆、堀内　健、堀内美代子、祢津宗信、松本建速、馬淵和雄、宮島義和、宮田　毅、宮武正登、宮本長二郎、望月道彦、森　まどか、両角弥惠子、柳澤　亮、矢花増治、山下徹静、山下泰永、山本　茂、横内文人、吉井　理、吉田恵二、若林　卓、会田宿町並み委員会、会田地区各町会、小岩井町会、廣田寺、静岡県埋蔵文化財センター、神宮寺、（財）瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター、東海大学考古学研究室、（財）長野県埋蔵文化財センター、（株）パレオ・ラボ、奈良文化財研究所、松本城管理事務所、松本市立博物館、無量寺（敬称略）

11　本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒390-0823松本市中山3738-1　TEL0263-86-4710　FAX0263-86-9189）に保管している。

目　次

例言
目次
第１章　調査事業の概要
　第１節　事業の経緯と経過 ……7
　第２節　調査体制 …… 13
第２章　虚空蔵山と殿村遺跡周辺の環境
　第１節　自然環境 …… 15
　第２節　周辺遺跡と歴史的環境 …… 18
第３章　殿村遺跡の調査
　第１節　殿村遺跡Ａゾーンの調査（第１次調査）
　　１　遺跡の現況 …… 35
　　２　調査の目的と方法 …… 36
　　３　調査成果の概要 …… 37
　　４　層序と平場の構造 …… 40
　　５　遺構
　　⑴　概要…… 42
　　⑵　地山面（５面）の遺構…… 42
　　⑶　４面の遺構…… 42
　　⑷　３面の遺構…… 45
　　⑸　２面の遺構…… 47
　　⑹　１面の遺構…… 50
　　⑺　１面より新しい遺構…… 55
　　６　遺物
　　⑴　焼物…… 159
　　⑵　石器・石製品…… 178
　　⑶　木製品…… 184
　　⑷　金属製品…… 196
　　⑸　鍛冶関係資料…… 196
　　⑹　ガラス製品…… 196
　　⑺　骨製品…… 197
　　⑻　自然遺物…… 197
　　７　調査のまとめ …… 199
　第２節　殿村遺跡Ｅゾーンの調査（第９次調査）
　　１　調査の方法と概要 …… 200
　　２　層序 …… 200
　　３　遺構
　　⑴　概要…… 201
　　⑵　竪穴状遺構…… 201
　　⑶　ピット…… 201
　　⑷　土坑…… 201
　　⑸　溝状遺構…… 201
　　４　遺物
　　⑴　焼物…… 202
　　⑵　石器・石製品…… 203
　　⑶　金属製品…… 203
　　５　調査のまとめ …… 203
　第３節　殿村遺跡出土木質遺物の樹種同定（植田弥生）…210
第４章　虚空蔵山城跡岩屋社周辺の測量調査
　第１節　虚空蔵山城跡及び周辺遺構の概要 …… 241
　第２節　調査の方法と概要 …… 242
　第３節　岩１の概要
　　１　岩屋社の歴史的経過 …… 242
　　２　岩１の位置と周辺の景観 …… 242
　　３　岩１の構造 …… 243
　　４　岩１に伴う周辺の遺構 …… 245
　第４節　調査のまとめ …… 246
第５章　調査の総括
　第１節　殿村遺跡発掘調査の総括 …… 257
　第２節　虚空蔵山における調査の総括と
　　「虚空蔵山宗教遺跡群（仮称）」…… 267
写真図版
報告書抄録
奥付
付録 DVD-ROM（既刊調査報告書、1次調査科学分析報告）



第１図　遺跡の位置

第１章　調査事業の概要

第１節　事業の経緯と経過

１　第１次調査と保存に至る経過（第１表）

殿村遺跡は、松本市大字会田字殿村 536 外に所在する縄紋時代～中世の複合遺跡である。平成 20 年に松本市教育委員会が実施した四賀地区統合小学校（四賀小学校）建設に係る第１次発掘調査において、石積を伴う室町時代の大規模な造成遺構が検出され、しかも 15 世紀から 16 世紀にかけて度重なる改修により遺構面が複雑に重層する状況が確認された。遺跡地は中世の在地武士である会田氏の居館跡との伝承もあるため、調査が進むに従いこれらの遺構が居館に関わるものではないかとの期待が高まるとともに、石積をはじめ複雑に重層する遺構の調査に予想以上に膨大な時間を要することが判明した。そこで、文化財課と学校教育課の間で再三協議を重ね、さらに建設部住宅課等庁内関係課との協議も加わって、２度にわたり調査期間の延長を図った。一方、調査成果に対する各界の反応は日増しに大きくなり、市民グループ、市議会会派、日本考古学協会、長野県考古学会等から保存や活用を求める要望が相次いで寄せられる事態となった。最終的に、平成 21 年７月に提出された四賀地区町会連合会の「殿村遺跡保存及び四賀小学校早期建設に関する要望書」を受けて、松本市は遺跡の現地保存と学校建設地の移転を決定した。これら一連の経過と調査成果について文化庁からも指導助言を受けたうえでその後の調査を記録保存から保存目的へと方針転換し、遺構の保護措置を講じて、平成 22 年１月に第１次調査が終了した。

２　調査指導委員会の発足と総合調査の計画

保存決定により、市教育委員会は文化庁及び長野県教育委員会の助言を受け、平成 22 年度から専門家による殿村遺跡調査指導委員会を発足させ、その指導の下で遺跡の範囲や内容を明らかにし、性格を究明するための確認調査を継続的に実施していくことになった。第１回調査指導委員会（平成 22 年４月開催）では、各委員から殿村遺跡を取り巻く歴史的景観について、中世以前の虚空蔵山麓一帯には宗教空間が広がっていた可能性が高いこと、殿村遺跡を会田氏居館跡とする根拠は現時点では薄く、むしろ宗教空間の拠点となる寺院等山麓の宗教施設であった可能性が高いとの指摘を受けた。それを踏まえ、以後の調査は殿村遺跡の発掘調査だけでなく、宗教空間全体を対象とした総合調査を実施することとなった。

３　殿村遺跡調査事業

調査指導委員会の指導を受け、松本市教育委員会は、総合調査として「殿村遺跡調査事業」を計画した。（第２図）そこでは、遺跡（点）から地域・背景（面）へと視点を拡大させ、殿村遺跡の発掘調査を軸に、周辺の城館跡、景観、社寺・信仰資料等の調査を幅広く実施していくこととなった。事業の柱となる殿村遺跡の調査については、遺跡の内容確認に加えて将来保護すべき範囲を把握することを目的に、次の３点を主眼に進めることとした。

①　１次調査で検出された石積を伴う造成遺構の全体像の把握
②　中世の造成遺構の分布範囲と保存状況の確認
③　遺構群の時間的・空間的位置付けと性格の解明等

第１表　殿村遺跡の保存と調査事業の経過

＜平成 20 年＞

３月　学校教育課から四賀統合小学校（四賀小）建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地照会
予定地が殿村遺跡に含まれることを確認、保護協議を経て発掘調査の実施を決定

５月　試掘調査実施、校舎建設予定地である旧会田中学校校庭を対象に試掘トレンチ７カ所を掘削、縄文・平安の遺物に加え、盛土層や礎石を発見（この時点では近世以降の遺構と推測）

９月　発掘調査開始、11 月末終了を予定し校舎南棟・昇降口棟を対象に 1A 調査区設定
遺構面が重層する中世の造成遺跡であることを確認、第１面の調査に着手
Ａトレンチ脇から 15 世紀の石積（石積Ａ・Ｂ）を検出し精査開始

11 月　第２面の調査開始、並行して石積の調査継続

12 月　第１回現地説明会開催、四賀地区住民多数参加（122 名）
地区内小中学校（５校）児童・生徒対象の見学会開催（４日間・309 名）
四賀地域審議会に調査状況を報告

＜平成 21 年＞

１月　石積写真測量、第２面航空撮影実施
会田地区町会長会から石積の移築復元、出土遺物の展示公開に係る要望書提出
調査状況とその後の方針について、県教委、学校教育課、文化財課による３者協議実施

２月　調査方針について文化財課内で協議（方針決裁）
中井　均氏現地指導
調査区周辺部のトレンチ調査実施、中世造成面の範囲が概ね判明したことにより調査範囲を見直し

３月　庁内関係課協議の結果６月末までの調査延長を決定
殿村遺跡保存活動グループ（発起人：宮川清治氏ほか）から地区住民 438 名の署名と保存要望書提出

４月　遺跡の形成過程把握のためのトレンチ調査開始

５月　校舎設計に基づき調査範囲を修正、拡張区第１・２面の調査開始
庁内関係課協議の結果 10 月末までの調査延長を決定、学校建設の主体工事入札を取り止める
日本考古学協会埋文保護委員橋口　徹氏、馬淵久雄氏視察
第２回現地説明会開催（137 名）

６月　文化庁に調査状況を報告
四賀地域審議会に調査状況を報告
市長現地視察
長野県考古学会（会長：会田進氏）から保存要望書提出

７月　市議会一会派より保存要望書提出
四賀地区連合町会長会に調査状況を説明、遺跡保存の意見が多数を占める
四賀地区連合町会長会から保存要望書提出
臨時教育委員会において殿村遺跡保存方針を決定
市長が連合町会長会に遺跡の現状保存および学校建設予定地の移転を回答
市議会教育民生委員会に遺跡保存と学校建設地変更を協議
保存決定により調査方針を見直し、全面調査から確認調査へ方針転換

８月　文化庁に保存決定と以後の方針について報告

９月　遺跡の埋め戻し方法について建設部と協議
山形村史談会による見学（30 名）
石積の保護と現場の埋め戻し方法について奈良文化財研究所平澤　毅氏に相談

10 月　文化庁近江調査官現地視察
瀬戸市文化財センターにおいて河合君近氏より瀬戸産陶器の鑑定指導
辻誠一郎氏・水澤幸一氏現地指導
発掘調査がほぼ終了する
石積の三次元測量実施

11 月　小野正敏氏・中澤克昭氏現地指導
遺構・トレンチの埋め戻し作業開始（人力作業）
整地土層剥ぎ取り標本作製開始
石積および調査区埋め戻し方法についてコンサルタントに委託
12 月　現場埋め戻し第 1 期作業開始（人力作業による石積埋め戻し）
現場埋め戻し第 2 期作業開始（工事発注による保護層形成・表土埋め戻し）

＜平成 22 年＞
1 月　表土埋め戻し工事竣工し 1 次調査完了（2 月 1 日付で終了報告書・発見届提出）
3 月　四賀化石館において発掘速報展開催
第 1 次発掘調査概報刊行
4 月　第 1 回遺跡調査指導委員会開催、笹本正治氏を委員長に 6 名を委嘱、調査結果・調査方針の説明と指導
8 月　第 2 次調査開始（2C1・2A1）
11 月　第 2 回調査指導委員会開催、2 次調査現地指導と事業方針協議
12 月　第 2 次調査終了

＜平成 23 年＞
3 月　平成 22 年度発掘報告会・講演会「殿村遺跡とその時代 1」開催（講演会講師：中井　均氏）
7 月　第 3 次調査開始（3A1）
10 月　第 3 回調査指導委員会開催
11 月　第 3 次調査終了

＜平成 24 年＞
4 月　平成 23 年度発掘報告会・講演会「殿村遺跡とその時代 2」開催（講演会講師：中澤克昭氏）
3 月　第 2 次発掘調査報告書刊行
7 月　虚空蔵山城跡第 2 次調査開始
10 月　第 4 次調査開始
11 月　第 4 回調査指導委員会開催
虚空蔵山城跡第 2 次調査終了
12 月　第 4 次調査終了

＜平成 25 年＞
3 月　平成 24 年度発掘報告会・講演会「殿村遺跡とその時代 3」開催（講演会講師：笹本正治氏）
第 3 次発掘調査報告書刊行
7 月　虚空蔵山城跡第 3 次調査開始
9 月　第 5 次調査開始
10 月　平成 25 調査報告会・講演会「殿村遺跡とその時代 4」開催（講演会講師：辻　誠一郎氏）
11 月　第 5 回調査指導委員会開催
虚空蔵山城跡第 3 次調査終了

＜平成 26 年＞
1 月　第 5 次調査終了
3 月　殿村遺跡発掘 5 周年記念シンポジウム開催
第 4 次発掘調査報告書刊行
8 月　第 6 次調査開始
11 月　第 6 回調査指導委員会開催
12 月　第 6 次調査終了

＜平成 27 年＞

3 月　平成 26 年度発掘報告会・講演会「殿村遺跡とその時代 5」開催（講演会講師：小野正敏氏）
　　第 5 次発掘調査報告書刊行
5 月　第 7 次調査開始
10 月　第 7 回調査指導委員会開催
11 月　第 7 次調査終了

＜平成 28 年＞

3 月　第 6 次発掘調査報告書刊行
　　平成 27 年度報告会・講演会「殿村遺跡とその時代 6」開催（講演会講師：水澤幸一氏）
5 月　虚空蔵山城跡第 4 次調査開始
10 月　第 8 次調査開始
　　虚空蔵山城跡第 4 次調査終了
11 月　第 8 回調査指導委員会開催

＜平成 29 年＞

1 月　第 8 次調査終了
3 月　平成 28 年度報告会・講演会「殿村遺跡とその時代 7」開催（講演会講師：小野正敏氏）
　　第 7 次発掘調査報告書刊行
7 月　第 9 次調査開始
10 月　第 9 次調査終了
12 月　平成 29 年度発掘報告会・講演会「殿村遺跡とその時代 8」開催（講師：時枝　務氏）

＜平成 30 年＞

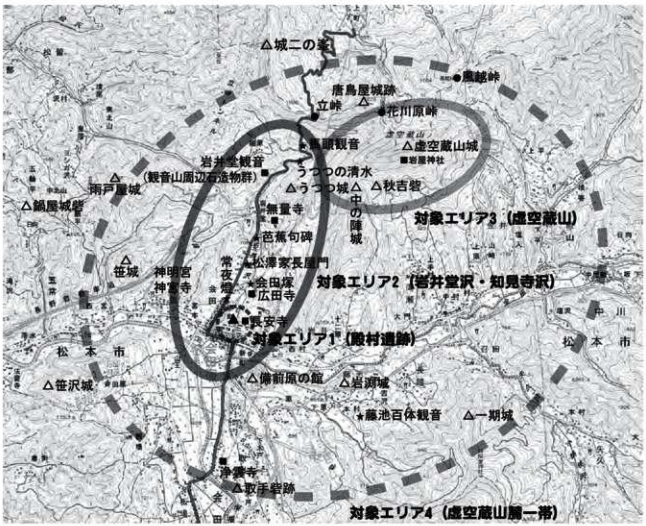
3 月　第 8 次発掘調査・虚空蔵山城跡第 2・3・4 次発掘調査報告書刊行
9 月　虚空蔵山岩屋神社周辺詳細測量開始
12 月　第 9 回調査指導委員会開催

＜平成 31 年（令和元年）＞

1 月　発掘報告会・講演会「殿村遺跡とその時代 9」開催（講演会講師：久保智康氏）
3 月　虚空蔵山岩屋神社周辺詳細測量調査終了、現地におけるすべての調査完了

＜令和 2 年＞

3 月　第 10 回調査指導委員会開催
**　　第 1・9 次発掘調査報告書刊行**



第２図　総合調査対象範囲

4　計画に基づく調査の実施（第２表・第３図）

調査計画では、南北約 400 m・東西約 300m に及ぶ遺跡推定範囲を A ～ E の 5 ゾーンに分割し、毎年、A ゾーンで検出された石積を伴う平場跡の内容確認調査と、平場群の分布を把握するための他のゾーンを対象とした範囲確認調査を組み合わせて行うこととした。また、調査報告書は各次調査単位で調査の翌年度末に刊行し、最終年度に概報にとどまっている第 1 次調査成果を加えた総括編報告書を刊行することを目標とした。

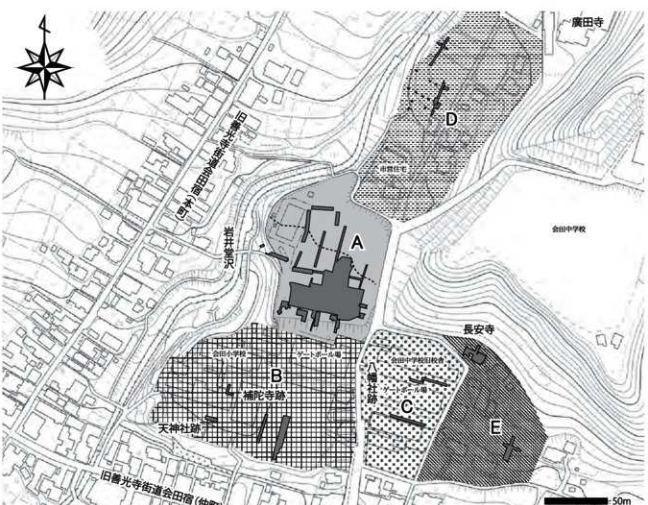
この計画に基づき、平成 29 年度に本調査事業としては最後となる遺跡東部の 1 カ所（9E1）の発掘調査を実施した。また、平成 30・31 年度は第 1・9 次調査の整理作業と本報告書の作成を進めた。

5　虚空蔵山城跡の発掘調査

調査事業の進展に伴い、殿村遺跡と密接な関係を有すると考えられる虚空蔵山城跡についても、宗教遺跡の観点から発掘調査による確認が必要との判断に達し、平成 24 年度から 3 回の計画で寺院跡を前身とする可能性の高い十二原沢川上流の平場群の発掘調査に着手、平成 28 年度に 3 回目となる第 4 次調査を実施した（平成 26・27 年度は未実施）。また、これと並行して虚空蔵山中の広範囲に分布する平場や石積、堀等の遺構の正確な形態や所在を把握するための詳細地形測量を実施した（平成 23 ～ 25 年度）。調査がほぼ完了したことを受け、平成 29 年度は整理作業と報告書作成を行った。さらに、調査指導委員会の指導を受け、平成 30 年度は虚空蔵山一帯に所在する寺院跡以外の特徴的な宗教施設である岩屋神社周辺の巨岩・洞窟について、詳細測量により様相を把握する測量調査を実施した。

第２表　殿村遺跡調査計画

ゾーン	予想される検出遺構等	土地利用状況		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
				２次	３次	４次	５次	６次	７次	８次	９次		
A	中世遺成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	空地	市有地	１次調査区周辺									
B	旧補陀寺関連遺構（中・近世） 旧天神社関連遺構（近世） 中世遺成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	学校 住宅 GB 場	市有地、 一部民有地				校舎 校庭			校舎 校庭			
C	長安寺関連遺構（中・近世） 八幡社関連遺構（近世） 中世遺成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	旧校舎 GB 場	市有地	旧校舎周辺		旧校舎周辺				旧校舎周辺			
D	廣田寺関連遺構 中世遺成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	畑地 宅地	民有地 一部市有地					休耕田荒地					
E	長安寺関連遺構（中・近世） 縄紋・古代～中世遺構面	畑地 宅地	民有地						長安寺跡地		畑地		
虚空蔵山城跡 十二原沢上流平場群		山林	市有地 民有地			２次	３次			４次			
虚空蔵山岩屋社周辺巨岩・洞窟		山林	地区 共有地									測量	
調査報告書刊行				１次概報	２次報告	３次報告	４次報告	５次報告	６次報告	７次 遺跡域 ２～４ 報告	８次報告	整理	１・９次 岩屋社 総括編 報告



第３図　殿村遺跡ゾーニング

第２節　調査体制

＜平成 20 年度＞

調査団長　伊藤　光（松本市教育長）

調査担当　三村竜一（主査）、宮島義和（嘱託）、福沢佳典（同）、横井　奏（同）、石井祐樹（同）

調　査　員　三村　肇、宮嶋洋一、森　義直

発掘協力者　井口方宏、石川一男、今井太成、入山正男、大滝清次、折井完次、加藤朝夫、猿楽あい子、塩原甲助、清水陽子、下条ちか子、曽根原　裕、高山知行、茅野信彦、中嶋　健、中村恵子、西村一敏、古屋美江、待井敏夫、待井正和、道浦久美子、宮澤昭敬、宮澤文雄、宮島智広、百瀬二三子、矢萩睦美、矢満田伸子、渡辺順子

事　務　局　松本市教育委員会文化財課

小穴定利（課長）、大竹永明（埋蔵文化財担当係長）、直井雅尚（主査）、櫻井　了（主事）、柳沢希歩（嘱託）

＜平成 21 年度＞

調査団長　伊藤　光（松本市教育長）

調査担当　三村竜一（主査）、竹原　学（同）、福沢佳典（事務員）、山本紀之（嘱託）、宮島義和（同）、石井祐樹（同）、石川真理子（同）

調　査　員　宮嶋洋一

発掘協力者　井口方宏、市川重一、大滝清次、加藤朝夫、猿楽あい子、清水陽子、下条ちか子、杉浦隆俊、坪田勝夫、中村恵子、長岩茂雄、成澤　輝、西村一敏、深澤聡志、古屋美江、堀内　隆、待井敏夫、待井正和、道浦久美子、宮澤文雄、召田和男、山崎幸房、矢満田伸子

整理協力者　荒井留美子、石川一男、柏原佳子、久根下三枝子、白鳥文彦、洞沢文江、前沢里江、村山牧枝、百瀬二三子、八板千佳、山口明子

事　務　局　松本市教育委員会文化財課

小穴定利（課長）、大竹永明（埋蔵文化財担当係長）、直井雅尚（主査）、小山高志（主任）、柳沢希歩（嘱託）

＜平成 29 年度＞

調査団長　赤羽郁夫（松本市教育長）

調査担当　竹原　学（課長補佐・史跡整備担当係長）、山村里佳（主査）、宮島義和（研究専門員）、廣田早和子（嘱託）、栗田　愛（同）

調　査　員　直井雅尚

発掘協力者　鳥井和幸、長岩千晴、待井正和、古屋美江、矢満田伸子

事　務　局　松本市教育委員会文化財課

大竹永明（課長）、三村竜一（課長補佐・埋蔵文化財担当係長）、百瀬耕司（同　主査）、吉見寿美恵（同　嘱託）

殿村遺跡調査指導委員会

委員長　笹本正治（信州大学副学長）

委　員　小野正敏（国立歴史民俗博物館名誉教授）

辻　誠一郎（東京大学大学院教授）

中井　均（滋賀県立大学教授）

中澤克昭（上智大学教授）
水澤幸一（新潟県胎内市教育委員会生涯学習課参事・文化財係長）
指導・助言　柳澤　亮（長野県教育委員会文化財・生涯学習課指導主事）

＜平成30年度＞

調査団長　赤羽郁夫（松本市教育長）
調査担当　竹原　学（課長補佐・史跡整備担当係長）、石田あい（事務員）、宮島義和（研究専門員）、
廣田早和子（嘱託）、栗田　愛（同）
調　査　員　市川恵一
整理協力者　荒井留美子、内田和子、柏原佳子、久保田瑞恵、竹平悦子、三澤栄子
事　務　局　松本市教育委員会文化財課
大竹永明（課長）、竹原　学（課長補佐、史跡整備担当係長）、吉見寿美恵（同　嘱託）
殿村遺跡調査指導委員会
委員長　笹本正治（長野県立歴史館長）
委　員　小野正敏（国立歴史民俗博物館名誉教授）
辻　誠一郎（東京大学名誉教授）
中井　均（滋賀県立大学教授）
中澤克昭（上智大学教授）
水澤幸一（新潟県胎内市教育委員会生涯学習課参事・文化財係長）
指導・助言　柳澤　亮（長野県教育委員会文化財・生涯学習課指導主事）

＜平成31年度（令和元年度）＞

報告書担当　竹原　学（課長補佐・史跡整備担当係長）、原田健司（主任）、廣田早和子（嘱託）、
白鳥文彦（同）、伊藤蔵之介（同）
調　査　員　宮嶋洋一
整理協力者　荒井留美子、久保田瑞恵、竹内直美
事　務　局　松本市教育委員会文化財課
大竹永明（課長）、竹原　学（課長補佐・史跡整備担当係長）、石田あい（同主事）、
吉見寿美恵（埋蔵文化財担当　嘱託）
殿村遺跡調査指導委員会
委員長　笹本正治（長野県立歴史館長）
委　員　小野正敏（国立歴史民俗博物館名誉教授）
辻　誠一郎（東京大学名誉教授）
中井　均（滋賀県立大学教授）
中澤克昭（上智大学教授）
水澤幸一（新潟県胎内市教育委員会生涯学習課参事・文化財係長）
指導・助言　石丸敦史（長野県教育委員会文化財・生涯学習課主任文化財専門員）

第２章　虚空蔵山と殿村遺跡周辺の環境

第１節　自然環境

1　会田盆地の地形

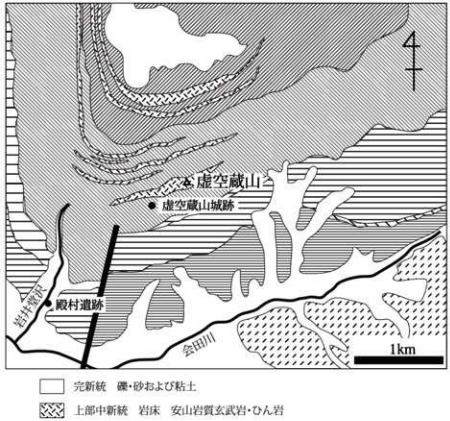
松本市の北東部にある会田盆地は、嶺間地方とも呼ばれるように周囲を標高 1,000 ～ 1,600m 前後の筑摩山地の山々に囲まれ独立した小盆地である。北は立峠や風越峠を介して筑北盆地と、南～西は会田川の河谷や刈谷原峠、稲倉峠を介して松本盆地と、そして東は保福寺峠や青木峠を介して上田盆地（小県）と結ばれている。

会田盆地をはじめとする松本市北部一帯は、糸魚川－静岡構造線東側のフォッサマグナ地域にあたり、広く新第三系中新統（約 2,300 万年前～ 500 万年前）の別所層、青木層、小川層の堆積岩が分布することが知られる。これらは軟質の砂岩や砂質泥岩、黒色頁岩等からなる厚い堆積層で、クジラや貝類、魚類を中心とした動物化石を豊富に含む。会田盆地を開析した主河川は大洞山や御鷹山、入山等から水を集めて西流する会田川と、保福寺峠付近からの水を集めて北流する保福寺川である。会田盆地は主河川である会田川と保福寺川がこれらの堆積岩層を浸食して形成されたもので、盆地を囲む低位山地も大半がこれらの層から形成されている。両河川が合流する会田付近は最も氾濫原が発達した地域である。河川流域には砂・礫などの堆積物が厚い層をなし、その両側には数段の河岸段丘が形成されている。氾濫原に面した微高地や段丘上には集落が発達し、低地面を中心に水田が分布している。河川の両岸は盆地を囲む山々の崖錐性斜面であり、その末端が河川の浸食を受け、段丘崖として氾濫原に接している。この崖錐性堆積物のうち、特に質の良い粘質土は古墳時代末から平安時代にかけて須恵器生産の原料土として利用され、反町から斎田原一帯を中心に分布する窯跡群は松本平に供給される須恵器生産の一翼を担った。また、会田地区は近年まで瓦の産地としても知られ、周辺には粘土採掘坑も残る。一方、筑北盆地との境をなす盆地北部の山塊は、海底火山に由来し浸食から取り残された輝石安山岩や安山岩質玄武岩からなる弧線状の幾筋もの貫入層が骨格をなし、険しい稜線を形成している。（栗田）

2　虚空蔵山の地形と地質（第４図）

会田盆地の北を画す稜線の一つ、虚空蔵山（標高 1,139m）は別名を会田富士と称し、会田盆地と筑北盆地を分ける峰々の中においては、唯一の独立峰である。先述のように盆地境の峰々の形成は、貫入岩である輝石安山岩が、陸地化に従って風化浸食が進んだ周囲の柔らかい小川層堆積岩類とは対照的に、残丘状に取り残されたことで形成され、さらに東に風越峠、西に花川原峠の深い鞍部が形成されたことによって、独立した山としてひと際目を引く存在となった。

この山は眺望する方向によってその姿を変化させる。まず、正面の中川地区から見ると山頂の稜線が幅広い台形を呈し、やや西に寄って殿村遺跡がある会田から見上げると稜線幅が狭く富士山の形に近い山容となる。さらに西の五常地区や地区内を通過する長野自動車道からはほぼ真横から見た姿となり、山頂に向かうほど急峻で稜線が馬の背のように細く尖った峻険な山容となる。一方、裏側の筑北村乱橋から見上げると、手前（北側）の唐鳥屋城がのる稜線や風越峠を介した東の稜線に視界を阻まれ、山頂部しか眺望することができない。この見かけの変化は本書で報告する殿村遺跡の成立背景となった虚空蔵山の宗教的景観に深く結びつく重要な要素であり、北麓の乱橋側からの姿はこの山に対する特別に意味をもたらす存在とはなり得ず、「城日影」と呼ばれる地名にもそのことが端的に表れている。



殿村遺８次調査報告書 pp141（図５）を再掲

第４図　虚空蔵山周辺の地質

虚空蔵山の骨格をなす輝石安山岩の貫入層は、東北東から西南西の方向に約 1.3 ㎞程直線的に延びており、これが山頂の鋭い稜線を形成している。貫入岩周囲の軟弱な堆積岩は新第三系中新統の堆積物で、下位より中部中新統の別所層、中部中新統の青木層、上部中新統の小川層で構成される（加藤 1980）。別所層は黒色の頁岩を主体とする地層であり、会田川の左岸側に広く分布する。青木層は灰色～暗灰色の砂質泥岩や砂岩質泥岩互層が優勢な地質であり、虚空蔵山の南から東の山裾を構成している。小川層は砂岩や礫岩から構成され、差切部層および重部層に分けられている。虚空蔵山の山腹は差切部層から構成され、山頂部は差切部層に迸入した安山岩質玄武岩からなり、西南西～東北東に伸張している。

山頂の輝石安山岩は荒々しい岩肌を露出し、岩屋社から頂上に向かう道筋では斜行する柱状節理の露頭を観察することができる。その直下は、砂岩や礫岩からなる小川層が取り巻き、とりわけ貫入岩に接する標高の高い地域では切り立った露頭をなし、岩屋社から西に連なる砂岩の岩壁や、知見寺沢から西の稜線付近に連なる「長岩」にその姿を見ることができる。こうした高い壁面をなす小川層の露頭は、他にも中ノ陣城から西の平場群の尾根南斜面や、やや離れて岩井堂沢右岸の岩井堂観音周辺にも見られ、後者は古代に遡る開山伝承を有し近世においては善光寺街道沿いの霊場として賑わった。

小川層と下位の青木層との境界は、足ノ入沢付近を南北に走る会田断層により東西で高度差があり、断層

の西側では廣田寺付近まで下るのに対し、東側では高度が高く林道虚空蔵線直下で境をなしている。これらの軟質な堆積岩層を開析する谷の一つに岩井堂沢があり、小扇状地を形成する堆積物には小川層に由来する粘砂質の土壌に山頂部の輝石安山岩の転石が多く含まれている。殿村遺跡ではこの輝石安山岩礫が石積等の用材として多用される。

岩井堂沢から東側一帯の虚空蔵山系の沢の中で、知見寺沢や十二原沢、両瀬沢等山麓に一定の河谷を開析するものは、その最高点の標高が 800 ～ 900m 前後に達する。その上方は節理に沿って風化破砕した山頂部の輝石安山岩が多量に崩落して形成されたガレ沢に接する。ガレ沢はその中心部では巨大な礫が累々と重なり植物の繁茂を許さず、立ち入ることすら難しい。ガレ沢と谷の接点にはしばしば湧水が伴う。岩屋社参道入口のオゲ水や十二原沢上流の平場群にある湧水点（虚空蔵山城の水の手といわれる溜め井戸）、知見寺沢最上流部等が代表的な存在である。それぞれの沢はここから明確な流れとなって河谷を形成する。（栗田）

3　殿村遺跡周辺の地形と地質

殿村遺跡は、虚空蔵山から流下する会田川支流の中で最大かつ最西端にある岩井堂沢の左岸に所在する。標高 630 ～ 660m、南は会田川の浸食で形成された段丘崖に面し、眼下に街道と宿場、会田川を隔てて盆地南部を眺望できる絶好の高台である。

岩井堂沢一帯は広く青木層と小川層が基盤層として広がり、沢を遡った岩井堂観音堂付近では石炭も産出する。大正年間まで採掘が行われ、索道を介して西条駅に運ばれていた。岩井堂観音堂には今でも採掘坑と排出された多量のズリが残る。岩井堂沢の河床礫や崖錘堆積物には虚空蔵山に由来する輝石安山岩の転石が多量に含まれるが、一方で基盤岩である青木層由来の砂岩・泥岩は軟質のため礫の体裁をなさない。従って河床礫のみの観察からは一帯の正確な岩相は見えにくい。

遺跡ののる斜面の地質構造は、学校建設計画に伴う事前の地質調査で確認されている。第 1 次発掘調査による所見も加えて概観すると、対象地南部（1A 調査区南壁付近）では現地表下 1.2m までグラウンド整地土が覆い、以下 2.8m まで中世の整地土（石積前空間堆積土・2 ～ 1 面整地土）が続く。それ以下は岩井堂沢の押し出し物が厚く堆積し、現地表下 7 ～ 8m で基盤の青木層に到達する。これらの地層はすべて北から南へ、また東から西へと下降し、調査地北～東部では表土直下で顔を出す。なお、岩井堂沢の押し出し堆積物には相当数の輝石安山岩礫が含まれており、大きいものでは長さが 2m を超える。これらは、岩井堂沢や会田川の河床礫とともに石積や石列等の用材として利用されたと考えられる。

なお、第 1 次発掘調査に際し、岩井堂沢の押し出し層上部は透水層となっていることが確かめられた。特に調査区東部において顕著で、報告文中で石積前空間（池状遺構）とした掘り込みの底面が同層に達しており、調査中も地下水の浸み出しが観察された。この透水層付近にはかつて自然流路が存在していたと考えられる。実際に 1A 調査区の北、6D2 調査区では南に下る流路状の透水層が捉えられた。この透水層の影響によるものか、雨季には地下水量が増し、延長上にある調査地南の会田ゲートボール場外便所裏手の法面でも浸み出しが観察された。（栗田）

4　植生

四賀地区の植生は、落葉広葉樹林帯のやや上部に位置し、一部亜高山の針葉樹林帯に属する地域にあたる。会田盆地の大部分は山地で、平地の植生は田畑等の作物に伴う植物であり、山地は伐採が進み自然林はほとんど残されていない。二次林はアカマツと植林のカラマツが主で、他はクリ・クヌギ・ナラ等の雑木林から成っている。また、他にスギ・ヒノキ・モミ・サワラ等も少量植えられている。

この地域の気候は温帯に属し、垂直分布からは太平洋側と日本海側の接点に位置すると考えられる。かつ

ては太平洋側のモミ・アカマツ・クリ・ナラ類帯とその上のウラジロモミ帯、日本海側のアカマツ・クリ・ナラ類帯とその上のブナ帯との混交林からなっていたものと考えられるが、現在に至るまでにこれらの自然林に人の手が入り、御鷹山の一角に古相をとどめるものの、大部分の山林は自然の姿を失いカラマツの人工林となっている。また、アカマツ林は長年人々の生活の基盤として、一部は古くよりマツタケ山として知られていたが、近年マツクイムシによる松枯れ被害が深刻なものとなっている。(栗田)

【参考文献】
四賀村　1995 『四賀村誌』
㈱アルプス調査所　2008 『松本四賀地区統合小学校建設予定地地質調査業務委託報告書』
松本市教育委員会　2011 『殿村遺跡第１次発掘調査概報』
松本市教育委員会　2012 『殿村遺跡第２次発掘調査報告書』
松本市教育委員会　2018 『殿村遺跡第８次発掘調査報告書・虚空蔵山城跡第２・３・４次発掘調査報告書』

第２節　周辺遺跡と歴史的環境

1　縄紋～弥生時代（第３表・第５図）

四賀地区における原始・古代の状況はまだ未解明の部分が大きく、発掘調査もほとんど行われていない。遺跡の分布やわずかな発掘調査の状況からみて、この地域における本格的な開発や居住活動は古墳時代後期を待たねばならないようである。

まず、『長野県史』所載の遺跡一覧表によると、四賀地区内の縄紋遺跡は 34 カ所が記載されている。そのほとんどは会田川や保福寺川の段丘上や支流が形成した河谷に所在する小規模な遺跡で、石鏃の単独採集地点が多く、集落遺跡とは言い難い状況である。虚空蔵山麓では殿村、岩井堂、小岩井口、山伏畑、小岩井、才の神等の遺跡が知られ、そのうち殿村遺跡では今回の一連の調査により、広い範囲で早期末を中心とした遺物の散布が認められ、３次調査 3A1 トレンチで住居址と思われる掘り込み、５次調査 5B1 トレンチでは土坑の検出をみた。小岩井の才の神遺跡では中期後半の土器も得られている。その他、隣接する会田川対岸の斎田原では中期後半の遺物が採集され、昭和 33 年に調査された五常地区の井刈遺跡では低地帯から中・後期の集石・配石とともに土偶・土版や石棒等の祭祀遺物を含む土器・石器類が多量に出土した。このような状況から、縄紋時代には川に沿い峠を介して幾筋かの交易路があったと推定され、そのルート上に点々と遺跡が認められる状況を窺うことができる。続く弥生時代の遺跡は冷涼な気候で可耕地も限られるためか遺跡は激減し２遺跡を数えるに過ぎない。そのうち盆地南部、保福寺川流域の赤怒田遺跡は昭和 51 年に発掘調査が行われ、後期の土器が出土している。(栗田)

2　古墳～平安時代

弥生時代に遺跡が激減する状況は古墳時代に至っても変わらない。現在のところ集落跡と呼べる遺跡は知られておらず、この時代においてもまだ本格的な開発は未着手だったことを示唆している。集落のなさに加えてこれまで古墳の存在も皆無とみられてきた。今回、本調査事業に際し踏査を行った人埋堂（ニゴミ堂、ミウミ堂）は、あたかも古墳を思わせる墳丘上の地形に中世墓が営まれ、その中央部において幕末に人骨を大量に伴う石室が調査された記録が残る（第６図右上）。この遺構が古墳の石室なのか、あるいはそれ以降の産物なのか不明だが、仮に古墳の横穴式石室だったとすれば、会田盆地で唯一の古墳となり、近在に集落

の存在も想定されることとなる。

また、もう一つ驚くべきこととして、立峠の登り口にある岩井堂観音堂の裏山、青木層の砂岩が切り立った岩壁を見せる旧炭鉱坑道前において、古墳時代前期の台付甕の脚台が１点採集されている（第６図左上・土屋和章氏採集）。周辺は岩場でおよそ居住に適する場ではなく、しかも一帯が行基伝説や弘法大師伝説を伴う古い観音霊場であることから、既に古墳時代前期の段階にも何らかの宗教的行為が行われた可能性を示す重要な資料である。

会田盆地の本格的な開発は、まず古墳時代後期末（７世紀）において窯業生産という形で開始されたようである。それは８～９世紀を中心に、松本市北部の芥子坊主山から安曇野市東山、会田盆地西部にかけての一帯は松本平最大の窯業生産地となったことで、この地域において生産の比重が高まった第一の要因は第三紀層の風化に起因する良質な粘土と燃料のための森林資源が豊富に得られる地域的特質に他ならない。会田盆地では反町から板場、斎田原に至る丘陵上に窯跡群の中心があり、会田川流域と保福寺川流域に窯跡の分布が知られている。その最も古い例は７世紀に遡る斎田原窯跡で、発掘調査によるものではないが当該期の遺物が多数採集されている（第６図）。続く８世紀には生産が本格化し、９世紀中葉には食器類の生産が終焉を迎える。会田盆地では、保福寺川左岸の板場窯跡やムジナカワ窯跡等で発掘調査も行われているが、多くは表面採集による資料であり、窯跡群個々の実態は不明である。先述の斎田原窯跡は、開拓に際し11基以上の窯跡が見つかっている。会田川右岸でも西宮の八王子窯跡や会田新町の知見寺沢の河谷に３基の存在が報告されるほか、殿村遺跡においても、会田小学校校庭拡張に際し２基の窯跡が見つかったという（横内文人氏教示）。

古代の会田盆地ではもう１つ重要な点がある。それは令制東山道の通過で、岡田から稲倉峠を越えて錦部に至り、東進して保福寺峠を越え小県に至るルートが想定されている。錦部には錦織駅が置かれ近在に定額寺である錦織寺があったとされるが、関係する遺跡はまだ見つかっていない。錦織寺の所在地は真言宗の古刹洞光寺に求める見方もある。東山道は、錦織から分岐して越後に抜ける支道があった。これは反町から板場を経て直進し会田（現在の本町）を抜け、筑北境の古峠に至る推定ルートであり、文禄３年絵図にその名残をみることができる。後の善光寺街道はほぼこれを踏襲するが、会田宿を鍵の手に構える関係上、板場から立町までは東寄りの段丘直下に新道を通している。このように、古代の会田盆地は須恵器生産や交通の要衝として非常に重要な位置にあった。そのため、奈良・平安時代の遺跡は増加に転じ、15遺跡を数えるまでに至る。虚空蔵山麓では後に報告するように殿村遺跡から奈良時代末～平安時代の住居址や包含層が検出されており、確実な居住活動の痕跡を捉えることができる。

このように、会田盆地は古くは縄紋時代、古代以降は令制東山道に象徴されるように各時代において交通の要衝であった。その重要性は中世以降も変わることがなく、東西南北の主要路の交差点であり最も広い可耕地を有する会田を中心に、道筋や支谷単位で現在に至る集落の原型が次第に成立していった。またこうした交通路とその周辺に形成された町や村とも密接に関わりながら、峠や山の祭祀を起源とする古代末以降の信仰空間も次第に発展をみるに至ったと考えられる。（栗田）

3　中世

(1)　会田御厨と会田氏（第４表・第７図）

会田御厨　鎌倉時代から室町時代にかけて会田には伊勢神宮内宮の御厨がおかれた。御厨は神への捧げものである神饌を調達する場で、地方の御厨から特産物が奉納された。信濃の御厨は仁科・麻績・富部・藤長・内布施・長田・保科・村上・矢原・会田・芳美の11カ所がある。これまでの調査で会田御厨に関する文献は確認されていないが、建久４年（1193）神宮の『神鳳鈔』に「内宮　会田御厨　七十町」の記述があり、

同じく神宮の『建久己下古文書』の中の建久３年の文書には会田についての記述がないため、会田御厨の成立は建久４年以降と推測される。

会田御厨の範囲と上納品については記録がなく不明だが、範囲については『諏訪大社文書』に登場する永禄８年（1565）諏訪神社大宮御門造宮に関わった「會田五ヶ條」に属する「苅谷原（刈谷原）・明科・塔原（塔ノ原）・會田（会田）・多澤（田沢）」が想定されている。

会田氏　会田氏は中世に会田の地を治め、旧会田小学校および殿村遺跡のある地域にその居館があったと江戸時代から伝承されてきた。しかし、現存する中世の文書には会田姓を名乗る当主は登場しない。会田を治めた人物を知ることのできる最初の史料は、嘉暦４年（1329）の『鎌倉幕府下知状案』で、諏訪社上社の祭の頭役として「會田御厨海野信濃權守入道以下」の記載がある。海野氏は小県郡の滋野氏の系統をひくとされる一族で、14 世紀前半には東信地方から海野氏が会田に勢力を拡大していたことが分かる。

続く資料は、享徳４年（1455）の『諏訪御符禮之古書』で、「會田、岩下入道沙弥重阿」が登場する。そして、15 世紀後半には「岩下海野」「海野岩下」が会田の当主として記述される。天正９年（1581）の『信濃国道者之御祓いくばり日記』（以後、『御祓いくばり日記』）には「岩下殿」をはじめ岩下を名乗る７名が会田の住人の筆頭に記載されている（第７図上）。当主は海野氏から同族の岩下氏に変わり、岩下氏は天文 22 年（1553）、信濃に侵攻してきた武田信玄に下り、信玄に起請文を出している。武田氏の滅亡後、信濃を奪回した小笠原貞慶に対抗し、岩下氏は越後の上杉氏に内通する。天正 10 年（1582）小笠原氏に攻められて、上杉氏の援軍を待ちながら矢久城（一期城跡）に立て籠もるが、敗北し滅亡する。したがって、江戸時代以降の文書に見られる会田氏は海野氏、岩下氏ら会田を治めた在地領主を指すものと思われる。（廣田）

(2)　城館遺跡の分布

会田、中川、五常地区には会田氏の本城や支城に位置づけられる城跡が、殿村遺跡のある会田を取り囲むように川や街道に沿って濃密に分布している。

虚空蔵山城跡　会田富士とも呼ばれる虚空蔵山の山頂部および中腹に築かれた山城で、山頂の峯ノ城跡、南側中腹にある中ノ陣城跡や秋吉砦跡などの平場群で構成される。会田氏の本城といわれ、天文 22 年４月３日に武田軍との戦いで放火された記録が残る。虚空蔵山は岩肌のむき出しになった険しい山頂、直下の巨大な岩壁や洞窟、ガレ沢などの景観や山名から古来信仰の山であったと考えられる。既報告のとおり、平成 24 年から３回にわたって調査し、①竪堀や土塁を伴う城郭的な平場群（中ノ陣城跡・秋吉砦跡など）、②磐座や大岩を背後に控えた行場を連想させる平場群、③谷間に整然と並ぶ平場群、の３種類の性格の異なる平場群が確認された。特筆すべきは調査で新たに確認された③の十二原沢上流の平場群で、石積を伴う広い平場が６段連続して並ぶ。発掘調査では礎石建物跡や中国産の青磁碗や白磁皿、瀬戸産の茶碗・茶壷などの高級な舶載品や茶道具、硯が確認された。石積は松本平の山城によくみられる平石積みを基本とし、控積、アゴ止め石、要所への大石の使用などさまざまな技術が採用されている。それらのことから、十二原沢上流の谷間には 15 世紀前半から 16 世紀第１四半期まで宗教施設（山の寺）があった可能性があり、その後に城郭へと変化したと考えられる。また、城の主体部は従来考えられていた中ノ陣ではなく、十二原沢上流の平場群であることが判明した。

会田氏館跡　江戸時代から殿村の地には会田氏の居館があったと伝承されてきた。所在地は殿村遺跡地内に比定されたが、本報告までの一連の調査でも明らかにできておらず、今後も調査を要する。

唐鳥屋城跡　本市と筑北村の境に位置し、虚空蔵山城とは花川原峠をはさんで対峙する。尾根上に主郭を構え、北側斜面に平場が展開し、石積を伴う。花川原峠を介して会田側の岩井堂と筑北側の乱橋を結ぶ道筋や城の西側の立峠を押さえるとともに、筑北側の見張りを目的としたと考えられる。虚空蔵山城跡と一体関

係にある需要な城である。

うつつ城跡　虚空蔵山の尾根筋を西に下った無量寺背後の尾根先に位置し、岩井堂沢筋に立峠へ北上する善光寺街道を眼下に望む。この城も虚空蔵山城跡の構成要素の一つと捉えられる。

一期城跡　会田川を挟んで虚空蔵山の南、矢久に位置し、召田城・矢久城ともよばれる。『信府統記』には会田氏家臣の召田氏の城とある。天正10年(1582)、松本を奪回した小笠原氏と交戦して同年11月に落城。会田氏が最期を遂げた城として知られる。

岩渕城跡　会田川左岸の高低差のある段丘上、藤池にある台地城で、背後に堀跡が残る。

備前原館跡　備前原という字名から、会田川と穴沢川に挟まれた丘陵の突端上に会田（岩下）備前守の居館が想定されているが、実態は不明である。

取出砦跡　取出地区の保福寺川右岸、善光寺街道を見下ろす段丘上にある台地城。付近には上木戸という字名と近世の高札場が残る。

笹沢城跡　会田川左岸の斎田原の丘陵西端に位置する。会田氏家臣笹沢氏の砦とされる。笹沢城跡や岩渕城跡は標高が低く、会田川に隣接する台地城で、街道筋に睨みを利かせる役割があったとみられる。

雨戸屋城跡　五常地区北山の尾根上に位置し、会田氏家臣小玉氏の在番の城と伝わる。標高は下るが東の虚空蔵山城に対し、会田の町の西の守りを固める城と見られる。近辺には五本峠から西進すると鍋山城砦跡が、南側直下には笹城跡がある。

笹城跡　会田川右岸、五常地区西の宮の尾根に位置する。『信府統記』には会田氏の城とある。(廣田)

(3) 殿村遺跡周辺の中世寺院（第7図）

「信濃国道者之御祓いくばり日記」は中世の会田を知る数少ない文献の一つで、会田の住人のほかに寺院の存在を知ることができる（第7図下）。天正9年に伊勢神宮の御師が御祓（神札）を配った会田、明科、青柳、仁科など筑摩・安曇郡の在家信者と、持参した土産物の種類や量の記録で、「あいだ分」には「氽け寺　知見寺　長安寺　ふた寺（補陀寺）　むれう寺（無量寺）」が記される。

無量寺　弘法大師による開基伝承を持つ寺で、寺伝では弘仁10年（819）、仁科氏5代城主和泉守と空海を開祖とする。治承4年（1180）に木曾義仲の出兵により伽藍と宝物が消失し、その後無住が続いたが、天正2年に仁科氏25代武田五郎盛信により中興された。大沢寺6世舜嶺和尚を開山とし、この時に曹洞宗に改宗したようである。岩井堂沢の谷の奥寄り、うつつ山の南麓に立つ。「御祓いくばり日記」に記載された会田の寺院のなかで唯一、現在まで存続する。

長安寺　山号鷲峯山、臨済宗の寺。近年に無住となり、平成25年（2013）に老朽化が進行し、本堂が解体された。殿村遺跡の東に隣接し、平成27年度に長安寺本堂跡を調査（殿村遺跡第7次発掘調査）した結果、中世の礎石建物跡や池跡などが確認された。池跡からは15世紀前半から中ごろの花筏双鳥鏡（擬漢式鏡）が出土している。寺関係者への聞き取りでは、かつて旧会田中学校のグランド（殿村遺跡第1次調査地点）や校舎敷地は長安寺の所有地で本堂が建っていたといわれ、かなりの寺勢を誇ったことが推察される。寺伝によると神亀元年（724）創建と古く、文永3年(1266)に大覚禅師（蘭渓道隆）による中興開基とされ、室町時代前半の製作とみられる伝木造大覚禅師倚像が伝来している。現在は臨済宗の禅寺だが、本尊は虚空蔵菩薩である。虚空蔵山の中腹に虚空蔵菩薩を祀る岩屋社は長安寺の奥の院であること、虚空蔵求聞持法で用いられる真言や午王宝印の版木を所有していること、その刷物を巻き付けた田の神を配布していたことから、臨済宗開基以前は真言修験にかかわる寺院であった可能性がある。

廣田寺　会田氏（岩下氏）によって開かれた知見寺を前身とし、永正年間（1504～1521）に里山辺廣澤寺の四世雪江玄固を迎えて創建したと伝わる。小笠原氏菩提寺の廣澤寺の末寺ではあるが、境内に小笠原

氏に滅ぼされた会田氏の武具など遺品を埋葬した会田塚があり、会田氏の菩提寺である。会田氏滅亡後に山号、寺号を改め、その菩提を弔うため現在地に移されたと考えられる。知見寺を伝える資料は残っていないが、『信府統記』には移設前の場所に知見寺の名前が残るとある。近世の絵図には、廣田寺の北東方向、寺の東の山を越えた知見寺沢筋に「字知見寺」の名が見られ、沢筋のどこかに所在したとみられる。

補陀寺　真言宗寺院で、山号を岩井山といい、高野山龍光院の末寺であった。開基は不明だが『御祓いくばり日記』に記載され、16 世紀後半にはあったことが分かる。廃仏毀釈により明治初年に廃寺となり、旧会田小学校の前身である思誠館に改修された。岩井堂観音堂を奥院とし、長安寺に安置されていた木造阿弥陀如来立像は補陀寺より伝わったといわれるが詳細は不明である。

糸け寺　『御祓いくばり日記』に名前があるものの、寺の来歴について資料がなく、詳細は一切わからない。しかし、『御祓いくばり日記』では会田の寺の筆頭に名が挙げられ、土産物に「上の茶十袋」をもらっており、他に並ぶ寺よりも格上の存在であったことが推測される。これまでの調査で、江戸時代には現在の廣田寺を含む地域が「糸け」と呼ばれていたことが分かり、糸け寺のあった場所に比定されている。

会田神宮寺　山号を拝領山という天台宗の寺で、会田神明宮の別当。『御祓いくばり日記』には名前がないが、寺伝によれば弘仁年中（810 ～ 824）の開創と伝わり、天永 3 年（1112）の中興ともいわれるが詳細は不明である。昭和 59 年（1984）に公民館建設に伴い神宮寺の建物は廃され、会田神明宮の敷地内にある宮本公民館の中に神宮寺伝来の仏像が安置されている。（廣田）

⑷　信仰関係の遺跡と文化財（第 6・8 ～ 10 図）

斎田原経塚　会田川左岸、段丘上に斎田原経塚がある。かつて一字一石経が出土したとの記録もあるが、遺構、遺物などの詳細は不明である。（廣田）

ニゴミ堂　善光寺街道会田宿の裏手、尾根が半島状に突き出した小丘上にある。文禄 3 年（1594）の『会田郷往古之略図（写）』には人理堂の名と堂の絵が描かれ、軍人や百姓の死体を埋めると説明が付される（第 8 図）。また、堀内家には、安政 2 年（1855）に横穴式石室のような石積と人骨を確認した発掘記録が伝わる（第 6 図）。さらに、16 世紀の板碑が出土していること、現在もニゴミ堂のある墓域には宝篋印塔や五輪塔などの部材が残存していること（第 10 図）から、中世に墓地として使用された可能性が高い。（廣田）

長居原遺跡　知見寺沢沿いのゆるい尾根斜面に広がる。平成 22 年度から 4 年間、東海大学考古学研究室によって学術調査が実施され、15 世紀前葉から 16 世紀の天目茶碗の底部や土師質皿の破片などがわずかに出土している。『会田郷往古之略図（写）』では軍（いくさ）の稽古場とある。殿村遺跡と虚空蔵山を結ぶ道筋の途中にあり、殿村遺跡との関係性や中世の信仰遺跡群の可能性もある。（廣田）

旗塚　殿村遺跡や会田の町を囲むように三方の尾根上に旗塚とよばれる小塚がある。うつつ城から下った無量寺下の旗塚、岩井堂川を挟んだ対岸の三峯社上の旗塚、廣田寺上の旗塚がそれぞれの尾根上に一列に並ぶ。旗塚の名はあくまで後世に付けられたもので、性格や成立時期は不明である。民間信仰に見られる十三塚のように宗教的性格をもつ可能性も考えられる。（廣田）

中世石造物　平成 27・28 年度 2 年間をかけ会田盆地を中心に中世石造物（特に信仰塔）の悉皆調査を行い、調査報告書を刊行した。松本平では決して数多くは見られない中世石造物が会田川・保福寺川あるいは古道に沿った地域に濃密に分布することがわかった。石塔の種類も豊富で無縫塔・宝篋印塔・五輪塔・多宝塔・板碑などがある。ここでは時代順に石造物の部材の様子を見ていくこととする。

14 世紀前半は出現期である。錦部地区保福寺の単制無縫塔、会田地区板場沢屋の多宝塔（常楽寺型）、両瀬地区中原家墓地の五輪塔と散在するが、石造物信仰が流入してきた様子がわかる。この時期以前に遡るものは稀だが、原山川窪の薬師如来像は姿勢や衣文の表現などに古相が窺え、今後詳細な調査が必要である。

14 世紀後半は宝篋印塔が出現する。五常地区中北山五輪平の宝篋印塔と明科地区塔原法音寺の宝篋印塔に代表される大型のものである。その他、板場沢屋の多宝塔、中川地区矢久本村の五輪塔がこれにあたる。特徴的なのはこの段階で全て石材が安山岩（多孔質安山岩）となることである。また会田地区廣田寺墓地出土といわれる武蔵型板碑（第10図）も14世紀のタイプである。石材は緑泥片石で搬入品であると考えられる。

15 世紀前半は発展期である。錦部地区赤怒田の宝篋印塔、会田地区板場沢屋の宝篋印塔・五輪塔、中川地区矢久本村の宝篋印塔、両瀬上手の宝篋印塔、会田ニゴミ堂の宝篋印塔・五輪塔、五常地区西宮の宝篋印塔、西宮和合堂墓地の五輪塔、同じく西宮伴在家墓地の宝篋印塔、井刈の宝篋印塔、錦部地区保福寺町の宝篋印塔、錦部地区七嵐中村の五輪塔、中川地区両瀬大門の宝篋印塔、両瀬中原家墓地の五輪塔、明科地区塔原上手屋敷の宝篋印塔など、中型の宝篋印塔を主体としてその範囲を広めている様子が分かる。

15 世紀後半は最盛期である。会田地区板場沢屋の五輪塔・宝篋印塔、板場小口家御塚堂の五輪塔・宝篋印塔、廣田寺墓地の宝篋印塔、無量寺墓地の宝篋印塔、会田ニゴミ堂の宝篋印塔、宮本の宝篋印塔、長安寺跡の五輪塔、中川地区矢久本村の宝篋印塔、両瀬上手の宝篋印塔・多宝塔・五輪塔、原山塩沢の宝篋印塔、両瀬大門の宝篋印塔、横川日向の宝篋印塔、矢久公民館の多層塔、五常地区西宮の宝篋印塔、西宮和合堂墓地の宝篋印塔、西宮伴在家墓地の宝篋印塔・五輪塔、中北山五輪平の宝篋印塔、明科大足清水光久寺の宝篋印塔、明科光宗林寺の宝篋印塔など、非常に多量に存在する。特に宝篋印塔は量産期に入ったとみられ、小型のもので、規格がよく似たものが見られるようになる。石材はほぼ安山岩である。

16 世紀は終焉期である。16 世紀前半のものとしては会田ニゴミ堂の宝篋印塔、中川地区両瀬上手の「天文二天（1533）」と紀年銘のある宝篋印塔、五常地区西宮の宝篋印塔があり、石材に硬質砂岩も混じるようになる。16 世紀後半のものとしては会田地区岩井堂無量寺の無縫塔があるのみである。なお、会田ニゴミ堂の墓地跡から出土した板碑も 16 世紀に含まれる。

以上みてきたように中世の会田盆地においてはいかに石造物信仰が浸透していたかがみてとれる。特に宝篋印塔に対する信仰は絶大で、中世石造物の 64％を占める。その素材である安山岩は東信地方の浅間山の溶岩と推定され、すでに 14 世紀前半から流入している。特に宝篋印塔はつくりが複雑であり、地元に石工が存在したとは考えにくい。おそらく製品として運搬されてきたものと思われる。東信地方は海野氏の地元であり、石造物信仰の出現・隆盛・衰退は会田氏の動向に重なる点で非常に興味深い。（宮島）

4　近世以降

まず会田氏滅亡直後の様子をみると、滅亡の年である天正 10 年（1582）の 12 月には会田五ヶ條に対しての支配権を青柳氏が継承している。それは青柳伊勢守頼長が 12 月 16 日付けで伊勢神宮氏七郎右衛門に対して苅屋原の内にて 10 貫文、塔原・明科にて 20 貫文、田澤にて 10 貫文、合計 40 貫文の地を寄進しており（「青柳頼長寄進状案」伊勢古文書集 2 上）、さらに同じ月「会田の地において、堀内与三兵衛の分十貫文、本町の彦六の分十貫文、合わせ二十貫文永代のところなり」と同様に宇治七郎右衛門に寄進をしている（「青柳頼長寄進状案」青柳文書）ことからも窺える。しかし青柳氏は小笠原貞慶に滅ぼされてしまい、この地は小笠原氏と上杉氏の麻績争奪の舞台となる。信濃国の国人で上杉家の家臣であった鳴津忠直は小笠原との麻績の争奪戦について述べた天正 12 年（1584）の書状の中で「会田口大切所の儀候條」と記しており、ここが大きな勝負所という認識を示している（「鳴津忠直書状案」覺上公御代御書集 10）。会田氏滅亡後の会田の地はまさに激戦の要所であったことがわかる。

江戸期の会田は会田町村として松本藩領となった。戸田氏（前期戸田氏、戸田康長）が元和 3 年（1617）に松本に入封した後に、領地の支配制度を整えて組村制度を導入した。会田を含めて旧四賀村全域と旧坂北村・本城村までに及ぶ会田組が組織された。水野氏が寛永 19 年（1642）に入封し城下町および各街道の

整備が行われ善光寺街道も完成された。善光寺街道は当時関西方面から善光寺参詣に行く人々の主要道路となり、さらに松本平と善光寺平の間の物資交流に大きな役割を果たした。会田宿はすでに天正９年の段階で町化していた様子が窺え（「信濃国道者之御祓いくばり日記」会田堀内家文書）、近世においては宿所の利用度がかなり高かったものと思われる。

会田町村の産業の様子は文久３年（1863）の「松平丹波守御領所信濃国筑摩郡會田町村明細書上帳」（会田堀内家文書）に詳しい。総高は637石２斗２升６合でその内田方は353石６斗９升６合、畑方は283石５斗３升１合である。家数は177軒で内160軒が本百姓、17　　。この中には修験が２軒と４ヶ寺が含まれている。寺は４ヶ寺となっているが無量寺・廣田寺・普陀寺（補陀寺）・長安寺は除地を受けている。宮本の明神免・明神屋敷・伊勢免は神明宮の除地と思われる。

農業以外にどのような職業があったのかを上納役から見てみる。伯楽役（獣医か）は正保年中（1644～1647）水野出羽守の代から納めていたとする。この段階では持ち主がいないため村高割りにしているという。問屋役は旧来２軒の問屋が上納している。鍛冶役は鍛冶屋株を持つ者の上納金でいつのころから分からないが存続しているという。大工役も鍛冶役と同様であるという。楮役は慶安年中（1648～1651）水野出羽守の代から上納してきた。楮に関わって紙漉舩役というものがあった。寛文年中（1661～1672）水野隼人正の代から課せられたがこの段階ではすでにいないという。鉄砲二挺役は猟師に対して課せられた上納金である。これに関わって山幸猟実代というものがあり、正徳年中（1711～1715）以来猟実のある年は上納してきた。水車運上は水車で粉ひきなどして利益を上げていた者にかかる上納金である。質屋冥加は質屋を商う者に課された上納金である。紺屋冥加は紺屋を営む者に課された上納金である。酒造冥加は酒造業を行うものに課された上納金である。

以上主な産業に関わる上納金を羅列したが、会田町村は農業が主であることは当然としても思った以上に第３次産業が存在する。伯楽・問屋・質屋は町には欠かせない当時の商売である。また上納金には出てこないが本陣・脇本陣を含め宿屋が隆盛を極めていたことは言うまでもなく、運送業も盛んにおこなわれていたことも念頭に入れなければならない。また第２次産業としては鍛冶・大工・紙漉きなどがあり、第１次産業としての楮や狩猟と関わっていた。

畑で収穫される具体的な作物としては大麦・小麦・大豆・粟・稗・蕎麦・煙草・野菜が挙げられている。おそらく換金作物も多く含まれていたことだろう。特に近代に会田で目立つ煙草産業が近世より受け継がれたものであることがわかり畑作物としては重要な位置を占めていたのではないだろうか。宿場を中心に発展した会田町村は多種の産業に支えられていたようである。

近世の宗教は会田町村に限れば先ほどの無量寺・廣田寺・補陀寺・長安寺４ヶ寺を中心に展開していたであろう。寺請制度は特に無量寺・廣田寺を中心に執り行われ、本城村の乱橋でも両寺の檀徒になっていた家が数多く確認される。長安寺は檀徒のいない寺で、祈祷札や田の神という午王宝印札を巻き付けた斎串状のまじない物などを配り収入を得ていたようである。先述の「明細書上帳」には長安寺に虚空蔵免という免畑があり、虚空蔵山信仰と関わりの深い寺であるという認識があったようだ。同じ書上帳には町南入口に十王堂、北入口に地蔵堂、峠下に観音堂、町中に糸ん ま堂（閻魔堂）があると記されている。村（町）の固めの守り神であったのだろう。また神社の祭礼日も決められており、天満宮・天王宮・氏神宮本神明宮・大神宮についての記述がある。また「小宮の儀は山の神様その外小祠所々勧請つかまつり、年々お神酒など差し上げ申し候」と各所にある祠についての祭りの記述がある。さらに宮本神明宮には貴重な文書が残っており、檀那の無量寺に対し今後は神道祭で葬儀を行い無量寺の檀家から離脱する旨が書かれている（会田神明宮文書）。

また修験がいたことも見逃せない。書上帳には３人の修験がいたことになっているが、詳細は分からない。

やや範囲を広げて会田組を見てみると、享保10年（1725）の「会田組書上帳」（降幡家文書）には「山伏六人　坂南」として天台宗本山行蔵院（宮本村）・天台宗本山円行坊（井刈村）・天台宗本山教学坊（藤池村）天台宗本山覚了坊（宮本村）・真言宗當山宝聖院（召田村）・真言宗當山大宝院（井刈村）の名が挙げられている。会田町村に関わりがありそうなのは宮本村の2名であるが、6名の内天台系の本山派と真言系の當山派の両方の山伏が存在している。当時の山伏が中世と比較してどのような宗教活動を行っていたかは不明であるが、藤池の岩淵伸子氏が所蔵する文書の中に教学坊が入山する際の寄付金を集めた記録があり、山に入って修行をしていた様子が想起される。山伏は基本的に修験宗という宗派として宗門人別帳に記され、檀那寺をもたないが、その家族は寺の檀家となっている。

享保11年（1726）松本藩に戸田氏（後期戸田氏、戸田光慈）が入封した後、会田組全村は幕府預領となり松平丹波守預所として支配を受け明治に至ることになる。（宮島）

【参考文献】

信濃史料刊行会　1973『新編信濃史料叢書』第六巻　信府統記下

東筑摩郡・松本市・塩尻市郷土資料編纂会　1973『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌』第2巻上

四賀村誌編纂会　1978『四賀村誌』

長野県史刊行会　1981『長野県史考古資料編』遺跡地名表

原　嘉藤　1983「井刈遺跡」『長野県史考古資料編』主要遺跡（中信）

市川恵一　1991『会田菩提寺　曹洞宗　福聚山廣田寺』福聚山廣田寺

宮坂武男　2008『図解山城探訪』第五集　改定　松・塩・筑資料編

松本市教育委員会　2011『殿村遺跡第1次調査概報』

松本市教育委員会　2012『殿村遺跡第2次発掘調査報告書』

東海大学文学部歴史学科考古学専攻　2015『長野県松本市長居原遺跡発掘調査報告書』

松本市教育委員会　2015『殿村遺跡とその時代Ⅳ』

QOPV　V

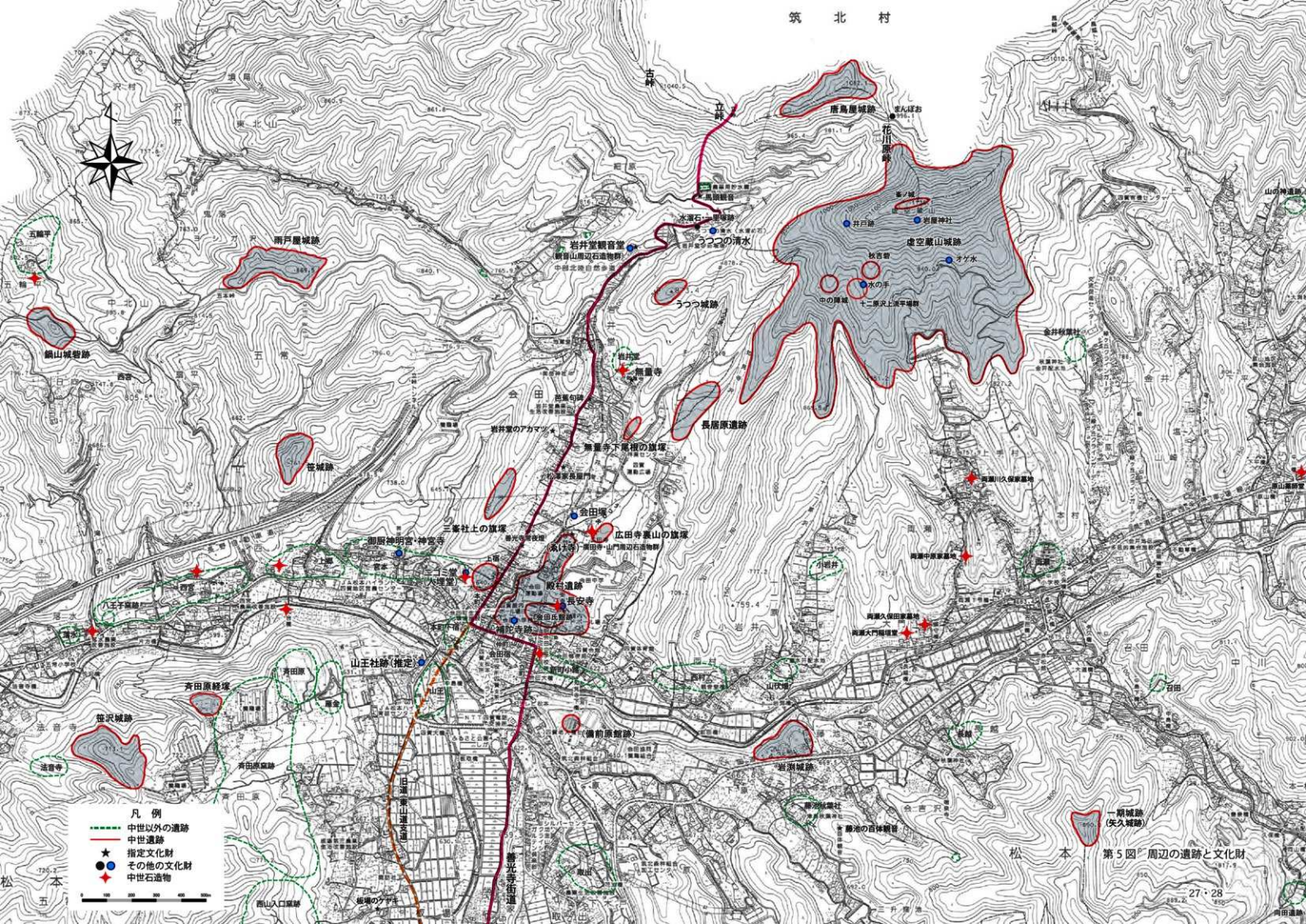
QOPV　♣　♣

QOPW　W　Q R S

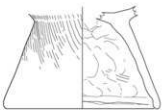
QOPW　珣

第 3 表　周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	性格	時代	摘要
1	五輪平	散布地	縄紋	
2	落水	散布地	縄紋・中世	
3	西宮	散布地	縄紋・平安	
4	八王子窯跡	窯跡	平安	
5	上郷	散布地	平安・中世	
6	宮本	散布地	平安	
7	上宿	集落	中世	平成 20 年試掘
8	本町下宿	散布地	縄紋	
9	殿村	社寺跡	縄紋・奈良・平安・中世	
10	新町小路	散布地	縄紋	
11	岩井堂	散布地	縄紋	
12	長居原遺跡	散布地	平安・中世	平成 24 年試掘（東海大学）
13	法音寺	散布地	平安	
14	斉田原経塚	経塚	中世	
15	斎田原	散布地	縄紋	
16	山王	散布地	縄紋	
17	雁金	散布地	縄紋	
18	斉田原窯跡	窯跡	奈良・平安	7 世紀代～・既出遺物あり
19	西山入口窯跡	窯跡	奈良・平安	
20	山伏畑	散布地	縄紋	
21	小岩井	散布地	縄紋	
22	両瀬	散布地	縄紋	
23	金井秋葉社	散布地	縄紋	
24	藤池秋葉社	散布地	縄紋	
25	長越	散布地	縄紋	
26	召田	散布地	縄紋	
27	鍋山城砦跡	城跡	中世	
28	雨戸屋城跡	城跡	中世	伝小玉氏居城（会田氏家臣）
29	笹城跡	城跡	中世	伝山笹氏居城（会田氏家臣）
30	笹沢城跡	城跡	中世	伝笹沢氏居城（会田氏家臣）
31	会田氏館跡	城跡	中世	殿村遺跡内に伝承
32	唐鳥屋城跡	城跡	中世	伝岩下氏持城
33	虚空蔵山城跡	城跡	中世	峯ノ城、秋吉砦、中ノ陣城
34	うつつ城跡	城跡	中世	虚空蔵山城の支城ともいえる
35	備前原館跡	城跡	中世	伝岩下備前守館、消滅
36	岩渕城跡	城跡	中世	伝岩渕氏居城（会田氏家臣）
37	一期城跡	城跡	中世	天正 10 年対小笠原戦で急遣と伝承
38	三峯社上の旗塚	塚	中世	性格不明、8 基の土塚
39	無量寺下尾根の旗塚	塚	中世	性格不明、5 基の土塚
40	広田寺裏山の旗塚	塚	中世	性格不明、6 基の土塚

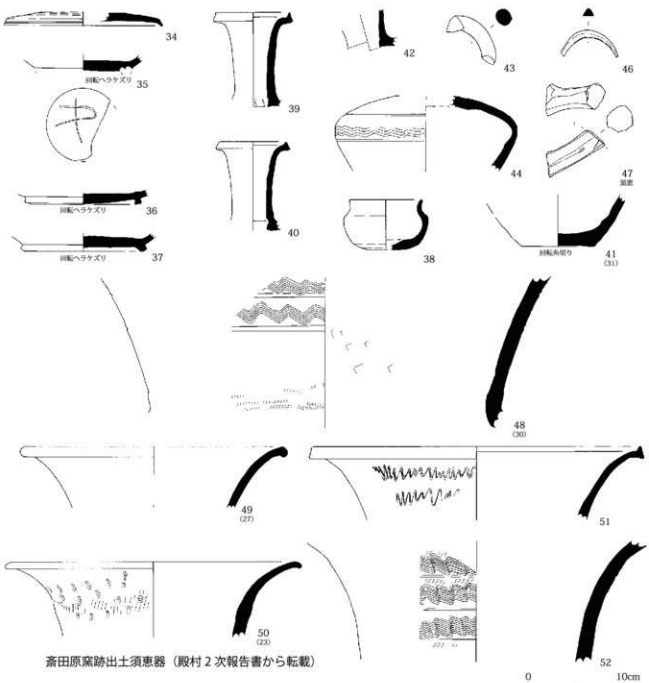


第5図　周辺の遺跡と文化財



岩井堂坑道前採集土師器
（土屋和章氏寄贈 S=1/2）

ニウミ堂（ニゴミ堂）発掘記録（堀内家所蔵安政２年７月２日日記）

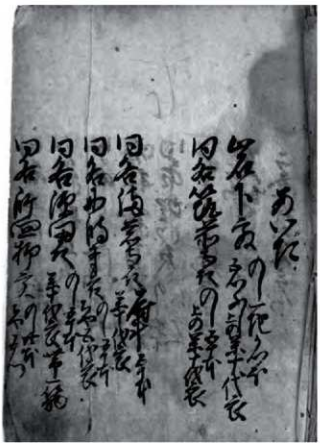


斎田原窯跡出土須恵器（殿村２次報告書から転載）

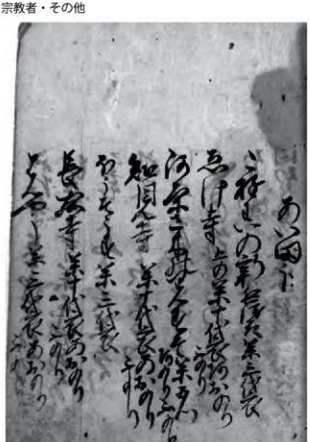
第６図　既出資料

会田当主岩下氏と一族

表紙



会田の寺・宗教者・その他

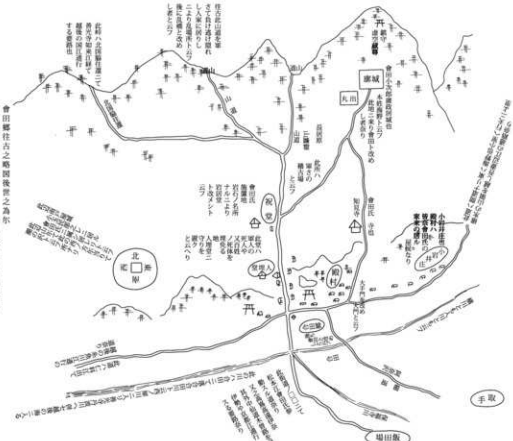


第７図　『信濃国道者之御祓いくばり日記』（松本城管理事務所蔵）

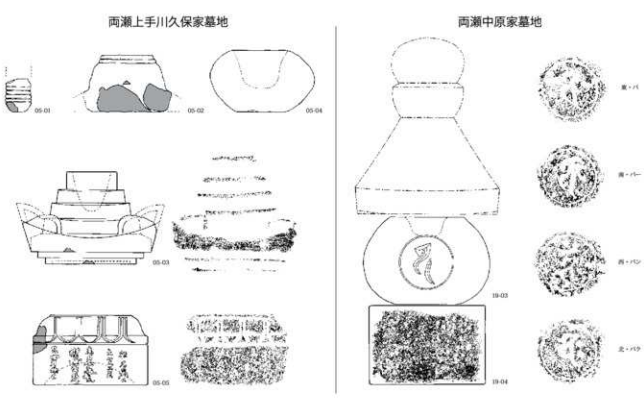
第４表　中世を中心とする会田周辺の動き

西暦	和暦			会田・四賀地区の動き	会田氏	出典	信濃の動き	戦国的な動き
1193	建久	4		この年以降 1360 年まで加筆された『神鳳抄』に會田御厨（70 町）の記事あり		神鳳抄		
1268	文永	5		會田氏が大覚禅師（蘭渓道隆）を招き保福寺を創建したという説あり		嶺間郷土資料 東筑摩郡村誌　刈谷原村		
1278	弘安	1		蘭渓道隆、長安寺創建の説あり		嶺間郷土資料 東筑摩郡村誌　會田村		7・24　蘭渓道隆没
1323	元亨	3	10 月 26 日	合田（會田か）左衛門尉、北条貞時十三回忌の供物として銀剣 1 と馬 1 疋を捧げる	合田左衛門尉	円覚寺文書	北条貞時十三回忌に信濃の御家人ら種々の供物を捧げる	
1326～1329	嘉暦年間	1～4		海野信濃守幸氏の孫會田小次郎、會田領を伊勢神宮に奉るという	會田小次郎	嶺間郷土資料（東京岩淵文書）		
1329	嘉暦（元徳）	4（1）	3 月	諏訪上社の十番五月会分の頭役を會田御厨海野信濃權守入道以下に課す	海野信濃權守入道	守矢文書	幕府、諏訪社上社五月会御射山祭等の結番を定める	
				諏訪上社宝殿御門戸屋造宮を海野・會田に課す		諏訪大社上社文書	幕府、諏訪社上社造営役を信濃諸郷に課す	
1331	元弘	1		元弘の変で討死したという海野信濃權守幸康を海野信濃權守入道とする説あり		信濃史源考	笠置城攻撃、信濃国御家人多く加わる	後醍醐天皇の倒幕計画発覚（元弘の変）
1400	応永	7		大塔合戦において、海野宮内少輔幸義に随い、会田岩下以下大草・飛賀留・田澤・塔原一党が参戦する	會田岩下	大塔物語 信州大塔軍記	村上満信・大文字一揆など、守護小笠原長秀に反して挙兵（大塔合戦）	
1406	応永	13		錦部洞光寺の真言八祖像、長賢により描かれる				
1455	享徳（康正）	4（1）	7 月 30 日	諏訪上社、會田、岩下入道沙弥重何に御符之礼一貫八百文を課す	岩下入道沙弥重何	諏訪御符禮之古書		
1459	長禄	3					小笠原宗清、林館に移る	
1462	寛正	3	7 月 29 日	諏訪上社、明年の御射山祭上増二十貫を會田、岩下入道三河重阿に課す	岩下入道三河重阿	諏訪御符禮之古書		
1464	寛正	5	8 月	伊勢神宮禰宜荒木田永量、麻績・會田御厨半分を權禰宜永尚・備後守永家神主に譲る		頼古帖　二		
1467	応仁	1	7 月 30 日	諏訪上社、明年の御射山祭下増二十貫を會田、岩下治（海）野満幸に課す	岩下海野満幸	諏訪御符禮之古書		応仁の乱始まる
			10 月 18 日				村上頼清が小県郡海野を攻める	
			12 月 14 日	岩下治（海）野満幸、海野で討死、子息が二歳で頭役を勤める		諏訪御符禮之古書		
1474	文明	6	7 月 30 日	諏訪上社、明年の御射山祭下増二十貫を會田、海野岩下増寿丸に課す。	海野岩下増寿丸	諏訪御符禮之古書		
1479	文明	11	7 月 30 日	諏訪上社、明年の御射山祭下増を海野下野守氏貞に課し、小岩井郷一郷で負担する。他の四郷は負担せず	海野下野守氏貞	諏訪御符禮之古書		
1485	文明	17	3 月	岩下殿母死去	岩下殿	諏訪御符禮之古書		
			7 月 29 日	諏訪上社、明年の御射山祭下増を會田に課す、代官海野下野守氏貞	海野下野守氏貞	諏訪御符禮之古書		
1486	文明	18		山家林の龍雲寺（廣澤寺）の四世雪江玄固和尚、會田に知見寺を開くという		四賀村誌		
1502	文亀	2		小笠原長棟、掻揚城を築き弟信益斎を置く		嶺間郷土資料 東筑摩郡村誌　刈谷原村		
				廣澤寺の末として保福寺中興される（雪天正等）		四賀村誌 東筑摩郡村誌　刈谷原村		
1511	永正	8		廣澤寺雪江玄固和尚、廣田寺を再建するという　9.24 玄固和尚寂す		東筑摩郡村誌　會田村		
1523	大永	3		太田彌助資忠、刈谷原城主となる		嶺間郷土資料 東筑摩郡村誌　刈谷原村 信府統記		

西暦	和暦			会田・四賀地区の動き	会田氏	出典	信濃の動き	戦国的な動き
1540	天文	9	5月				武田信虎、佐久郡に侵入し諸城を陥す	
1541	天文	10	5月14日				武田信虎、諏訪頼重・村上義清とともに小県郡海野・祢津・矢沢氏を破る	
1550	天文	19	7月				武田晴信、小笠原長時を破り府中に入る、深志城の普請に着手	
1553	天文	22	3月29日 ～ 4月2日	武田晴信、苅屋原城を攻略　城主長門守を生け捕り		高白斎記		
			4月3日	武田晴信、會田虚空蔵山まで放火、苅屋原城の城割り・縄立て		高白斎記	4月9日　晴信、埴科郡葛尾城を後略。村上義清、長尾景虎を頼る	
			5月7～8日	武田晴信、苅屋原の地を海下に宛がう旨伝えるが、城代今福右兒守が承諾せず、海下に新村に三百貫を宛がう	海下	高白斎記	4月22日　第一回川中島の戦い	
			9月	長尾景虎の軍、青柳・苅屋原・會田の虚空蔵山城を攻める		高白斎記		
1557	弘治	3	3月10日	武田晴信、葛山城攻略での戦功から岩下藤三郎に感状を与える	岩下藤三郎	諸州古文書　甲州	8月29日　第三回川中島の戦い	
1565	永禄	8	11月1日	諏訪社祭礼再興に際し、會田五ヶ条の苅屋原・會田・明科・塔原・田澤が正物を負担する		諏訪大社文書	武田信玄、諏訪上社・下社の祭礼を再興させる	
1567	永禄	10	8月7日	岩下氏一党、塔原織部等知等、武田信玄に対し忠誠を誓い起請文を生島足島神社に奉納、下野親子逆心の場合も甲州方に付くことを誓う	岩下駿河守幸実 同名新十郎長高 同名源介幸忠 下野守親子	生島足島文書		
1570	元亀	1	4月7日	諏訪上社四月会宮頭を會田に課す		御頭役請狹帳		
1575	天正	3	5月21日				長篠の合戦で、武田方信濃諸将戦死	長篠の合戦で織田・徳川連合軍、武田勝頼を破る
1578	天正	6	2月	諏訪上社大宮御門の造宮銭五貫九百文を會田五ヶ所が負担する		上諏訪造宮帳		
1579	天正	7	2月	諏訪上社大宮御門屋の正物二貫文を會田郷が負担する、代官岩下彦衛門尉	岩下彦衛門尉	上諏訪造宮帳		
1581	天正	9		諏訪上社、この年の頭役料を注し、會田郷が四貫七百文を負担する		御頭書		
				伊勢神宮の神官宇治七郎右衛門尉久家が「お祓い配り日記」作成、会田分に岩下一党、矢久城代となる堀内越前の名がみられる	岩下殿 同名筑前守殿 同名備前守殿 同名源太殿 同名監物殿 同名しま殿	堀内家文書		
1582	天正	10	8月9日	小笠原貞慶が會田に赤澤式部少輔を遣わす		御書集　（笠系大成附録）	小笠原貞慶、筑摩郡日岐城を攻める	6月9日　本能寺の変で織田信長自害
			11月	會田の城の者達が越後に内通し、矢久に小屋を建て立てこもる。当主相田が若年なので家老堀内越前が采配をとるが、敗死する	相田 幼主會田小次郎虞忠が小屋に逃れ自殺したという	岩岡家記 二木家記 福間郷土資料	小笠原貞慶による曾田攻略	
			12月	青柳伊勢守頼長、伊勢神宮に會田の地二十貫文を寄進する		青柳文書		
1583	天正	11	1月16日	青柳伊勢守頼長、伊勢神宮に苅屋原・塔原・明科・田澤それぞれから合わせて四十貫文を寄進する		伊勢古文書　二上		
			2月12日 ～14日	赤澤式部少輔、小笠原貞慶に対し謀反を企て切腹、苅屋原には小笠原出雲守頼貞が入る。曾田一党と思われる塔原（海野）三河守も殺害される。		御書集　小笠原家譜		



第８図 『会田郷往古之略図』（大河内家文書）



第９図 虚空蔵山麓の中世石造物 (1)

第 10 図　虚空蔵山麓の中世石造物 (2)

第３章　殿村遺跡の調査

第１節　殿村遺跡Ａゾーンの調査（第１次調査）

１　遺跡の現況（第 11・12 図）

(1)　遺跡の現況

殿村遺跡は、松本市大字会田 5953 番地（字殿村）を中心として南北 400m・東西 350m の凸字状に広がる遺跡である。現在の土地利用状況は、遺跡の中央から南部が旧会田中学校の校舎・グラウンド、旧会田小学校（調査当時は開校）校舎・グラウンドとして造成され、旧中学校跡地の一部（１次調査地南側）に室内ゲートボール場２棟が建設されている。遺跡の北部は個人住宅や市営住宅、畑地、廣田寺駐車場として利用されている。歴史的には、少なくとも近世以降この地は一貫して耕作地として利用され、居住域に供されることは近代までなかった。明治以前の地割や土地利用は古い地籍図や絵図で確認でき、地形に影響を受けつつも方形を基調とする碁盤目状の地割が遺跡地を覆う状況を窺うことができる。こうした人家のない環境を利用して後に療養施設が調査地付近に建設され、また遺跡南部の小学校用地が拡大するとともに戦後会田中学校校地として広い範囲が公共利用の場となっていった。なお、現在会田宿交差点から北上し１次調査地東を通過して廣田寺に至る市道もかつてはなかった。

(2)　遺跡の立地

既に第２章で触れているが、地形的には殿村遺跡は岩井堂沢がもたらした厚い堆積物が形成する小扇状地上、標高 630 ～ 660m の緩斜面に立地し、高低差５～ 10m の深い谷を形成する岩井堂沢を隔てた西岸に旧会田宿の本町（東山道支道沿いに形成された成立が古い町並み）を望み、また南の段丘下に同宿の仲町（東山道支道と直交する会田川沿いの道で、鑽の手を呈する会田宿開設時に宿場として整備）を南に見下ろす高台に展開する。一方の東側は知見寺沢との間に横たわり、廣田寺の寺山や現会田中学校校地となっている虚空蔵山の支尾根の西麓から末端の南麓に接している。遺跡の北端は岩井堂沢（うつつ沢）と尾根が接して緩斜面が収束する廣田寺付近である。

(3)　遺跡の概要

殿村遺跡の存在は既に旧四賀村時代から知られ、この地に校地を置いた旧会田小学校資料室には本遺跡出土とみられる縄紋時代の石器や奈良・平安時代を中心とする土器・陶器が多数収蔵されている。また、その際のものかは不明であるが、昭和 29 年の旧会田小学校校庭拡張にあたり須恵器窯跡がみつかり、調査がなされたとの情報もある（横内文人氏教示）。一方、近世に成立したと考えられる「殿村」の地名と地域の伝承から、ここに中世会田氏（会田小次郎）の居館があったとの推定もなされてきた（『文禄３年会田郷往古之略図』（第８図）や近世末～近代初頭のいくつかの絵図に「殿村」や「会田小次郎殿古城跡」等の記載を見ることができる）。遺跡地図上における居館跡の範囲は殿村遺跡に内包され、旧会田小学校敷地から東側の旧会田中学校敷地にわたる東西に長い範囲がその推定地となっている（第４図、１次調査地はその西側の一角にあたる）。また、会田氏関与の下で鎌倉時代後期に創建されたとの寺伝を有し、天正９年（1581）の『御祓いくばり日記』（第６図）にも記載がある臨済宗寺院の長安寺や、同様に記載があり、旧会田小学校の前身として明治の廃仏毀釈以前に同地に存した真言宗寺院の補陀寺等、中世以前に遡る寺院が遺跡の一角に存することも知られてきた。殊に長安寺は最盛期には旧会田中学校の全域（１次調査地含む）まで寺域が広がっていたともいわれる（引地節子氏談）。

字「殿村」の地名は遺跡のほぼ全域を覆い、南は段丘下の会田宿まで及ぶ。遺跡の東で字「大門」に接す

るが、近世以前の細かな地名は今日ではほとんどわからない。わずかに総合調査に際して確認した会田大河内家文書中の絵図において、遺跡の北部、「殿村」の北に接して「系け」の地名があること（第11図）、岩井堂沢の支流であり、廣田寺境内と会田塚の間にあるうつつ沢に「系け沢」の表記があることが確認されたが、これに関連して『御祓いくばり日記』には先の2カ寺に並んで「系け寺」の記載もあり、これまで不明とされてきた同寺の所在地特定の手掛かりを与えた。（竹原）

2　調査の目的と方法

⑴　調査目的

第1次調査は学校建設に伴う埋蔵文化財包蔵地の記録保存を目的として開始した、しかし、平成21年の現地保存決定後は保存目的の調査へと目的を転換した。これにより3面以下の全面的な調査は中止し、2面（調査区北東～東部、北西部は1面）までをもって終了した。なお、2次調査以降はすべて保存目的の調査である。

調査区と遺構面確認トレンチ　調査区の設定は校舎の設計に従い当初南校舎・昇降口棟予定地をA区（1A区）、北校舎をB区としたが、保存決定によりB区は調査を実施しなかった。面的調査を実施したA区のほか、調査区周辺への遺構面の広がりを把握するためトレンチC～Jによる確認調査も実施した。

⑵　調査手順

面的調査は基本的に次の手順で進めた。①重機掘削による先行トレンチA・Bの調査　→　②調査区設定・表土除去（重機掘削）　→　③1面の調査　→　④1面造成土除去（重機掘削）　→　⑤2面の調査・空中写真撮影　→　⑥石積の調査（写真測量・三次元計測・石材鑑定）　→　⑦造成土断ち割りトレンチ調査・土層標本作成　→　⑧トレンチ埋戻し（遺構面保護シート・砂嚢による石積保護・遺構面保護砂層形成・発生土による人力埋戻しと締固め）　→　⑨調査区埋戻し（クレーンによる保護砂散布、埋め戻し用土の礫除去、重機による埋戻し・敷均し）

なお、埋戻しについては、遺構保護の必要性から有識者の指導を受け、最終的に地質コンサルタントに委託して技術・方法について検討するとともにその過程を記録した。また、調査区の埋戻しについては市建設部に設計と監理を依頼し、工事として実施した。

⑶　調査面・遺構名・番号管理

中世の平場は複数の生活面からなるため、上層から最下層の旧地表面までを1～5面に区分し、1面から順を追って調査を進めた。しかし2面は遺構面の構成が複雑で、広い調査区内が単一の面を構成していたとは考えられない。しかしながら検出作業に当たっては重機を併用したため、段差等による面の切り替わりや用土の変化に十分な対応ができなかったため、調査区の東部や西部では3・4の遺構が混在してしまう結果となった。明確な分離ができないため、これらは2面の遺構として扱った。石積・石列・集石を除くすべての遺構は一括して一つの通し番号で管理し、土坑、ピット等の種別名は後から付した。

⑷　測量記録

測量の基盤メッシュは、国家座標既知点から導いた基準点を原点に東西南北3m単位で設定した。座標は原点をNS0・EW0とし、南北方向に・・・S6、S3、NS0、N3、N6・・・、東西方向に・・・W6、W3、EW0、E3、E6・・・と表示した。原点の座標値はX39318.430・Y-45489.457（世界測地系第8系、平成23年3月11日の東北太平洋沖地震による変動の補正は未適用）である。なお、1次調査の段階では街区座標点等周辺の既知点を使用して調査地に導いたが、その後平成22年には長期の継続調査の必要性から遺跡内に調査用の基準点を設置した。

(5) 写真撮影

調査の記録は主に 35 ㎜ネガフィルム（カラー・モノクロ）による撮影とし、補助的にコンパクトデジタルカメラや APS-C サイズのデジタル一眼レフカメラを併用した。空中写真撮影は 2 面調査完了段階でラジコンヘリコプターによりブローニイ判カラーポジ撮影を行ったほか、平成 22 年度には周辺地形を含む広範囲の垂直写真撮影によりデジタルオルソ写真を作成した。

(6) 報告書作成

本報告書の編集は DTP ソフト AdobeInDesignCS5.5 で行い、写真以外のほぼすべての挿図も描画ソフト AdobeIllustratorCS5.5 で清書・レイアウトを行った。（竹原）

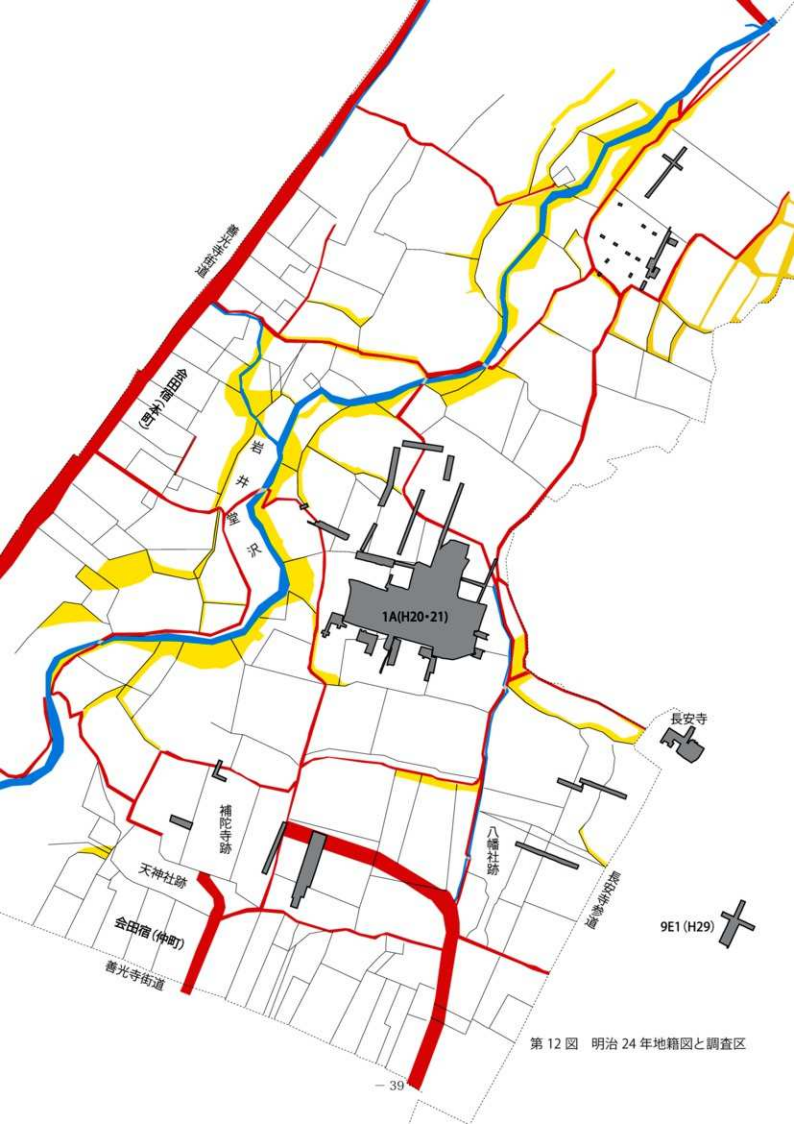
3 調査成果の概要

第 1 次調査の成果は以下のとおりである。

第 5 表　殿村遺跡第 1 次発掘調査成果一覧

調査期間	平成 20 年 9 月 7 日～平成 22 年 1 月 29 日	
調査面積	2027 ㎡（調査区：1683.5 ㎡・調査区外トレンチ：343.5 ㎡）	
検出面（造成面）		
地山・5 面	縄紋時代早期・奈良時代～戦国時代	
4 面	室町時代（14 世紀後葉～ 15 世紀中葉）	
3 面	戦国時代（15 世紀後葉）南部では 2 ～ 3 面に細分される	
2 面	戦国時代（15 世紀末～ 16 世紀前葉）南部では 2 ～ 3 面に細分される	
1 面	戦国時代（16 世紀中葉～後葉）部分的に 2 面に細分される	
検出遺構		
総数	住居址：1　ピット：689　柱穴列：23　掘立柱建物：16　礎石：26　礎石建物：5　土坑：137　焼土：31 溝状遺構：54　集石：2　石列：14　石積：6　土塁 1、通路状遺構 1、池状遺構 1	計 1007
地山・5 面	住居址：1　ピット：41　土坑：9　溝状遺構：5	計 56
4 面	ピット：9　土坑：2　焼土・炉：5　集石：1　石列：1　石積：4　土塁：1　通路状遺構：1	計 24
3 面	ピット：4　石列：1　石積：2　池状遺構：1	計 8
2 面	ピット 326　柱穴列：7　掘立柱建物：5　礎石 10　礎石建物：2　土坑：52　焼土・炉：17　溝状遺構：20 集石：1　石列：2	計 442
1 面	ピット 309　柱穴列：16　掘立柱建物：11　礎石 16　礎石建物：3　土坑：74　焼土・炉：9 溝状遺構：29　石列：10	計 477
出土遺物		
縄紋	土器・石器	
奈良・平安	土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器	
室町・戦国	焼物　土師質土器（皿・大型皿・擂鉢・内耳鍋）	
	炻器（須恵質擂鉢、珠洲系甕、常滑系壺・甕）	
	瓦質土器（擂鉢・風炉・火鉢）	
	無釉陶器（山茶碗）	
	古瀬戸・大窯系施釉陶器（天目茶碗・平碗・丸碗・豆皿・緑釉小皿・折縁深皿・直縁大皿・卸皿・合子・碗形鉢・擂鉢形小鉢・擂鉢・瓶子他）	
	舶載陶磁器（天目茶碗、青磁碗、白磁碗・瓶子）	
	石製品　硯・砥石・茶臼・石臼・石鉢	
	木製品　漆椀・下駄・曲物・挟比・斎串状木製品・短冊状板・刀形・部材・端材・削屑	
	金属製品　鉄製品（刀子・釘）、銅製品（銭・不明品）	
	鍛冶関係資料　羽口・坩堝・鉄滓	
	骨製品　不明品	
	自然遺物　貝・その他	
近世	瀬戸・美濃系施釉陶器	
その他	ガラス製品（不明おはじき状製品）	

第 11 図　殿村遺跡の地形と調査区の配置



第 12 図　明治 24 年地籍図と調査区

4　層序と平場の構造（第13図）

1次調査A区のある旧会田中学校グラウンドは南北91m・東西72mの大きさで、北西端と南西端に100mコース確保のため後に拡張された突出部を、また北西外には廃止された25mプールを伴う。西辺は岩井沢の断崖に面し、学校敷地から北上し手前で西に反れて下降し岩井堂沢に至る里道が介在する。東辺は虚空蔵山から南下する尾根の麓に接しその境に市道（平成5年開削）が北上する。また、南辺は旧会田中学校音楽室のあった狭いテラスを経て室内ゲートボール場（旧中学校体育館跡地）に至る高低差の大きい法面となる。対する北辺は法面カットによって生じた壁面となる。

調査区はグラウンドの南半部を縦横断する形となったため、旧地形やその後の変遷を明確に捉えることができた。地形変遷の大まかな流れは、①緩傾斜面の旧地形→②中世の切り盛りによる平場造成→③平場の埋没と畑地化→④昭和28年のグラウンド造成による大規模な地形改変である。この状況は特に調査区内を縦横に掘削したA・B・Kトレンチと調査区周辺に設けたC～Jトレンチにおいて確認した。

旧地形　南北方向のB・Fトレンチの土層から、時に2mを超える輝石安山岩礫を多く含み小川層の砂岩に由来する黄褐色シルトを主体とする岩井堂沢堆積物を基盤とする旧地形面は、トレンチ延長67mの間で5m下降する南向き傾斜面であったことが判明した。しかしその傾斜は一様ではなく、特に調査区北端から北では延長約22mにわたってほぼ水平となり、その北端は切岸状の法面となる。またAトレンチからFトレンチ北半一帯も傾斜がやや緩い。前者は自然地形としては不自然で、地山の土層観察状況をみても人為的な削平が明らかであり、中世の平場造成に伴うものとみられる。一方A・Kトレンチで観察される東西土層断面では地山面に緩い起伏が見られ、比高約1mを測る西高東低の状況が観察される。ちなみに最高所は4面石列4付近、最低所は5面溝1235付近である。高所となる西部では上部が土壌化して暗色を呈し乾燥しているのに対し、東部は非常に湿潤で地下水位が高い雨季には地下水の浸み出しが顕著であった。調査区外のトレンチ調査ではグラウンド北半部一帯は昭和28年の造成に際し地山を大きく削平していることが判明した。以上の所見から、旧地形は南向きの傾斜面であるとともに、尾根裾に沿って南北方向に水脈を伴う湿潤な低地が延びている状況が復元された。

5面　地山面上には高所となる西半部を中心に縄紋時代の遺物や奈良・平安時代、中世前半の遺構が分布しており、これら旧地形面上の遺構面を5面とした。

4面　B・Kトレンチや調査区東部のトレンチにおいて、炭片を多含し中世後半を主体とする遺物を伴う黒褐色土が最大30㎝程の厚さで先述の低位旧地形面を覆っていた。炭片は意図的に混入されたと考えられる。これを平場造成に先立つ基盤造成土と捉えた。その上にはさらに礫を含む暗褐色の造成土が調査区北部から北西部の高位旧地形面を除く広い範囲を覆っていた。調査区南辺（Aトレンチ）にはこの造成土が途切れるとともに石積を伴う東西に長く深い遺構（石積前空間）があり、その南はFトレンチ内やSE2トレンチで存在を確認した土塁で画されていることが分かった（2・3・5次調査で追認）。これらは仔細に観察すると造成土相互の切り合いや遺構の前後関係が見られる場所があるが、全体的には一つの遺構面を構成すると捉えられ、これを4面及び4面造成土とした。Bトレンチの断面観察から、造成に際しては平場前面に土塁状の盛土を行い、その後背面の築成を行うことが捉えられた（図版5）。造成土と土塁を含むその範囲は南北26m・東西54mで、それより北側は先に触れた地山を削り込む平坦面に続く（ただし平坦面と4面の時期的関係は不明）。4面は緩く南に傾斜するが、調査の途上で現地保存が決定したため面的調査は北西部を除き実施していない。また、中部から西部の大部分では3面との区別ができないため、該当範囲について正確には3・4面と称すべきものである。4面造成土は基盤造成土も含め最厚部で1.5mを測る。

3面　4面の南東部は窪地のように一段低い面をなす。この低い平場面を覆う風化岩屑を多含する厚い黄褐色土層の上面が一つの遺構面として捉えられ3面とした。しかし中西部では4面との区別ができず、ま

た東部では2面とも区別が困難なうえ、4面同様に面的調査をほとんど実施していない。また3面の遺構の中心となる石積前空間は4面段階に成立し本段階まで継続する遺構であるが、当該遺構の調査所見からさらに時期の細別が可能である（石積B2段階、B3段階等として遺構の報文中で示した）。

2面　3面以前の遺構面を覆う風化岩砕を多含した特徴的な黄褐色シルトで、3面造成土と似る。調査区中部～東部に広がるが、西部では不明瞭となるため3・4面との区別が難しい。北側への造成土の広がりは4面と同様である。全体に南に緩く下降し、その南辺は前段階の土塁までである。しかしFトレンチの所見から、土塁の法面が明瞭な岸となる4～3面段階と異なり、土塁から南側にも広く埋め立て造成が及び、前段階に比較して法面が緩くなることが確認された（2・5次調査でさらに状況を確認）。2面上では多数の遺構が検出され、遺物の出土もみた。

1面　調査区北部を除き広く全体を覆う層厚10～30㎝を測る灰褐色土を造成土とする中世の最終段階の遺構面である。炭塊や焼土粒に加えて30～40㎝程の礫も多含しており、被熱したものも見受けられる。おそらく礎石や石列等前段階までの遺構に由来するものがかなり含まれていると推定され、人為的活動に伴う夾雑物を含まない2面以下の造成土とは状況が大きく異なっている。1面は土色が暗いため遺構検出は困難を極めたが、ピットや石列を主体に多数の遺構が検出された。また、遺構面となる平場の南辺は3・4面段階の土塁付近で前段階と変わらないが、それより南側の埋め立てはより一層進行し緩い傾斜面となる。この埋立土の延長となるFトレンチ南部では下層に炭塊や焼土塊を多量に含んだ軟弱な土層が見られ、被熱した遺物を含むことから火災後の整地に伴い平場土からもたらされたものの可能性が高い。調査区東部では壁面に沿って帯状に延びる造成土が観察され、断ち割り調査の結果調査区外に一段高い遺構面が存在することが判明した（後に4・7次調査で土塁としたが平場の可能性も捨てきれない）。

1面を覆う造成土　調査区中央部から南部にかけて、1面を覆う層厚さ10㎝内外の黄褐色土が観察された。遺物は皆無に等しく、遺構も伴わないが人為的に形成された造成土であり、あたかも1面を覆うような状況であった点が注意される（その後2・3・7次調査でも確認）。

旧表土　昭和28年までの耕作土で10～30㎝の厚さがある。戦前当地には療養所があり、その建物に由来する漆喰や遺物等を含む。また、地境を示す溝等の遺構も各所で散見された。

グラウンド造成土　昭和28年の校庭建設に伴う造成土で、グラウンド北半部の斜面を削平しトロッコで南側に運んだという。そのため輝石安山岩の巨礫を含み非常にもろく崩れやすい。グラウンド南端での厚さは2.4m に達し、調査時の崩落対策に苦慮した。

土層模式図　右図は最も厚い造成土が観察された調査区南壁（Aトレンチ南壁）の土層写真である。上からグラウンド造成土、旧表土、1面、2面、2′面の各造成土があり、下半は3・4面の遺構である石積前空間の埋め土である。さらに基盤造成土を経て地山に達する。1面から地山までの層厚は1.8mを測る。（竹原）

第13図　殿村遺跡の土層（Aトレンチ南壁）

5　遺構（第6表、第14～103図、写真図版4～17）

(1)　概要

1次調査で検出した遺構は第5表に示すとおり15種類1,000基を超える。建物や柱穴列を含めその7割以上をピットが占めるが、中世集落遺跡に通有の竪穴状遺構や方形土坑は皆無に等しい。これらの遺構は土層断面のみ捉えたものが5面を中心に一定量ある。また、保存決定に伴い平面の把握や部分的な掘り下げにとどめたものも多い。さらに3面以下は一部を除き遺構面の検出を行っていない。遺構数が1・2面に偏在するのはそのためである。以下、遺構面ごとに遺構を概観する。

(2)　地山面（5面）の遺構（第14～33・78～83図）

ア　住居址

Bトレンチ南部の底面で検出されたP1190・1194～1198、土1191、溝1192からなる遺構群をトレンチ掘削により床面が露出した竪穴住居址と捉え住1とした。このうちP1198と土1191には焼土が伴い、後者は焼土脇の円形皿状のピット内から須恵器杯等の遺物がまとまって出土した。須恵器の帰属時期から長野県埋文センター編年5期の遺構と考えられる。

イ　ピット

トレンチ底面や壁面から地山を掘り込むもの41基が検出された（P1201・1214～1222・1226・1227・1229～1232・1234・1248・1264・1266～1268・1279・1280・1288・1290・1294・1295・1298・1321・1324・1326・1328・1329・1332・1333～1338）。大半が径40㎝未満の円形ピットで柱穴と推定され、ほぼすべてが調査区西半部の微高地上に偏在する。出土遺物がわずかではあるが帰属時期は奈良・平安時代～中世（室町時代）とみられる。

ウ　土坑

調査区西壁面及びBトレンチ壁面で断面のみ確認したものが大半である（土1225・1228・1281・1282・1322・1323・1325・1327・1330）。平面的な観察を行っていないため断定できないものもある。径50㎝～1.2mで船底状ないし擂鉢状の断面形が観察される。また、西壁では地山上層に黒色の旧表土層が厚く発達しているためピット・土坑の掘り込み上部が不明瞭である。

エ　溝状遺構

トレンチ内から5基が検出された。Kトレンチの溝1224と近接するPトレンチの溝1233はともにNNW—SSEに延びる遺構で、溝1233は隣接するQトレンチ溝1301及びAトレンチ溝1247に連なる一連の遺構とみられる。これらは幅1.2～1.8mで断面船底形の遺構で暗褐色の覆土である。溝1233は礫が多い。調査区東部のKトレンチ溝1235はNNE—SSWに走る溝の一部と考えられる。いずれも遺物の出土がなく築造時期は不明である。

(3)　4面の遺構（第14～33・78～83図）

ア　ピット

石列4と焼土面の周辺から7基（P1058・1063・1068・1069・1256・1309・1310）、調査区東部、平場低位面のKトレンチ内から検出した2基（P1211・1212）がある。円形の小ピットが主体である。前者は調査区壁面で確認したものもある。

イ　土坑

石列4西側の焼土・炭散布範囲北端にある長さ78㎝×幅25㎝の浅い長楕円形の土1059と、同範囲の調査区壁面で確認した土1311がある。

ウ　焼土面・炉址

調査区北西、石列4に西接して隅丸長方形を呈する4基の炉址が互いに重複あるいは近接して集まり、周囲の南北6.3m×東西9.0mの範囲に焼土塊や炭塊の散布範囲がみられた。焼土1203は東西1.6m×南北95㎝、中央が浅く窪む焼土面の南辺と東辺を長い角礫で囲む構造で、南東隅と南西隅には礎石状の礫が中心間の距離1.6mの間隔で配される。焼土面は炭層と焼土層が互層をなす。焼土1202は焼土1203と軸を揃えて東に隣接し、東西1.3m×南北1.1m、東辺は石列4の築石8に接する。両者の関係は石列4を新とみたが、互いに関わりあう関係にあった可能性もある。焼土面は中央が緩く窪み、焼土層、炭層、灰層が薄く互層をなす。焼土1204は焼土1203・P1063に先行する遺構で、長軸を南北にとる。南北1.5m×東西1.3mで検出のみ行った。焼土1206は焼土1203・1204に南部～東部の大半を切られ、全形は不明である。これらの遺構は軸方位がN-78°-Wまたはその直交方向で後述の石積A西半と方位がほぼ揃う。他にこの焼土・炭散布範囲の調査区北壁で焼土1311の断面を確認した。

エ　集石

調査区東端Vトレンチに集石3を検出した。20～30㎝大の角礫13個を配する。北縁の礫がN-79°-W方向の直線的配列となることから、全形は方形状を呈するものか。溝1223埋没後に築かれる。

オ　石列

調査区北西の石列4は、巨礫が南北5.8m×東西2.7mのL字状に配列する遺構である。まず南列は厚さ15～30㎝、上下面が平坦な長さ50～90㎝×奥行50～65㎝の築石1～4をN-79°-W方向に直列させる。輝石安山岩の築石は基盤造成土面に据え、周囲を平場造成土に覆われるが、石列南面が直線的に面を揃えることからここで平場が落ち込んで築石側面が露出していた可能性が高い。一方築石背面側は小振りな礫が裏栗石のように約1.1m幅で集積し、その北側には11個の不揃いな角礫が東西方向に連なる。西列は長さ50～90㎝×奥行25～65㎝の築石4・11・12・13が長手に配列し西面を揃えるが、途中築石6～10は築石8を頂点として西に90㎝程突出する。その上築石8は焼土1202の東辺を仕切るように位置している。このように、石列4は西辺に突出部をもった構造であり、用材の上面が平坦であることを考慮して建物の土台石と解釈することが妥当でろう。

カ　石積前空間（通路状遺構）

全体図に示すように4面段階の平場は南東部の一段低い平場面とそれ以外の高い平場面で構成され、両者の境界は緩いスロープとなることがK・L～Oトレンチや石積Aの調査で判明した。いずれの平場も前面（南縁）を石積A・B1で画するが、Fトレンチの調査からその南に基底部間で4.8～7.2mの距離で並走する土塁が存在することが判明した。土塁は調査区南東のSE2トレンチでも北側法面を確認し、その後の調査（2次・5次・7次）でも追跡した結果、石積A・B1と共に南東部を除く平場のほぼ全面に存在することが判明した。この石積と土塁に挟まれた狭長な空間は東が調査区外に続く一方、断面観察により西は底面がスロープ状に上昇する石積A西端付近まで延長48m以上にわたっており、そのあり方から東から進入し西端で平場に入る通路的な機能を果たしていたと推定される。しかし、後述するように3面段階で東部に石積B2・B3が築かれ閉じた空間となり、内部空間が湿潤な環境となることから、途中で池としての性格を帯びた空間へと変化していく。なお遺構の底面は西端のスロープを除き基盤造成土上にあるが、トレンチ掘削に際し抜いてしまったため表面観察はしていない。

キ　土塁

土塁の西端は石積前空間の末端（石積A西端）に対応する。おそらく7A1調査区の西で収束し3A1トレンチまでは続かない。遺構の詳細な構造については2・5・7次調査報告書で詳述しているが、遺構の概略は地山あるいは基盤造成土上に黒褐色や黄灰色のシルトを固く叩き締めながら盛土し、天端面が狭い台形を

呈すること、幅 5.5m 前後、石積前空間側からの高さ 90 ㎝前後の規模であること、北側法面の上端に 1 ～ 2 段構造の石積 C を設けること、南側法尻は石積 D で画すること、石積前空間が廃された 2 面段階の平場改修に伴いその初期段階に平場前面を画する法面になるというものである。

ク　石積

ア）石列 8

調査時に石列としたが構造的に石積とすべき遺構である。石列 4 の南東にあり、確認長南北 3.2m× 東西 1.5m を測る。南北列は長さ 1.6m × 高さ 60 ㎝以上 × 厚さ 30 ㎝内外の輝石安山岩の板状巨石を長手に立て、その北側に 30 ㎝内外の三角形の角礫の頂点を上に向けて延長させる。その上には平行四辺形の築石の角を落とし込み、さらに上層は衝立状巨石から石積北端まで小振りで控えのあまり長くない板状石や棒状石を 2 段前後平積みする。東西列は長さ 60 ㎝× 高さ 30 ㎝の台形石を据え、南北列との隙間に縦石を落とし込む。構築順は南北列が先行しその石積面に東西列を擦り付けている。石積の裏込めは黒褐色土を主体に黄褐色土を混じた礫混土を水平に重ね、栗石は伴わない。用材は輝石安山岩 75%、ひん岩・砂岩各 11%、ドレライト 2.7%である。なお本址は南北列の南側を失い、石積 A の裏込土で埋められる。また西側は石列 4 前のトレンチまで及ばず途切れており、4 面段階内の平場の改修による破壊を受けている。また直接的関係は不明だが、石列 4 の下端と本址の天端の高さの関係から、石列 4 が先行する可能性もある。

これらのことから、本址は石積 A に先行する平場の前面石積か、石積を伴う遺構だった可能性を考えたい。

イ）石積 A・B1

3 面段階にかけて石積前空間の北壁（平場前面石積）として設けられた施設で石列 8 に後行する。また、石積 A 自体も新旧 2 段階に変遷し、さらに石積 B1 との関係にも前後関係が認められる。

石積 A は長さ 33.6m ×最大高 1.27m を測る。以下長大な石積を立面図に示す a ～ e の区域に分けて記述する。石積の法線は一直線を描き、トレンチ B による欠失部を頂点に 3° 屈折する。その軸方位は西半 N-79° -W、東半が N-82° -W である。基底面は石積前空間の最低位面にあたる区域 d 付近を最深部として東西方向に上昇する凹面をなす。天端石は d 区の最大高付近から西側で概ね完存するが、それより東の c・d 区では上部が崩落、低位の平場面に移行する e 区はほぼ完存する。c 区の前面には落下石材が残る。

基本的な築造技法は未加工の自然石を基盤造成土上に垂直に積み、栗石を有さず平場造成土が直接背面を支持するものであるが、区域によって築石の形状や積み方に 2 つのタイプが認められる。タイプ 1 は巨石・大石を多用するもので、a 区では根石（下層）に角張った山石の大石や長さ 1.5m を超える巨石を衝立状に立て並べ、左右の隙間や上面の凹凸に小礫を間詰めし、上層は小振りの礫や平石を 1 ～ 2 段布積みする。根石は控えが短い一方で天端石は長いものも用いる。c 区では厚手の大石を平積みし、e 区では大石を 2 段以上積む等若干のバリエーションも認められる。ちなみに石列 8 はタイプ 1 に相当する。

タイプ 2 は区域 b・d に見られる小振りの角張った山石や河床礫を布積みし最大 6 段程度となるもので、築石の多くは小口積みだが控えはあまり長くない。また間詰石もほとんど用いない。両タイプの境界を観察するとタイプ 1 の崩落部をタイプ 2 で補修する状況が各所で窺えることからタイプ 1 →タイプ 2 の新旧関係を認めることができる。後行する石積 B2・3 がタイプ 2 であることから 3 面段階における改修とみることができる。石積の末端は西側では石積前空間の底面上昇に合せ、また東側では平場の低位面への移行に連動させて徐々に段数を減らし隅石は 1 石となる。

築石の用材は西半部で悉皆調査の結果、輝石安山岩 95.6%、砂岩 1.8%、ひん岩 1.5%、礫質砂岩 0.5%、礫岩・頁岩各 0.3%でほぼ輝石安山岩一色の状況である（付録 DVD に調査結果を収録）が、タイプ 1・2 の山石は主に地山層から、タイプ 2 の川原石は岩井堂沢や会田川から調達されたものと考えられる。なお、Q トレンチでは石積の背面側に小礫を当てて支持や角度調整を行う。裏込め土（4 面造成土）は黒褐色土や黄

褐色土により版築状に固く施されることを特徴とする。

石積 B1 は石積 A の d 区東寄り付近から 2m の間隔を置いて N-84° -W の軸方位で東に延び、長さ 22m 以上、調査区外に達する。石積 A 同様法線は一直線を描くが東部ではやや波打つ。基盤造成土上に築かれ、基底面は東に緩く上昇し石積 B2 以東で途中一旦窪みながら同じ高さを保つ。天端は西端から石積 B3 までわずかに上昇した後 B2-B3 間では大きく上昇して B2 との接点で最大高 90m を測る。築造技法は自然石(山石・河床礫)の垂直積み、小口積み、布積み、間詰石・栗石なし、版築状の造成土による背面支持等石積 A と特徴を同じくする。築石のあり方は石積 B3 以西ではタイプ 1、以東ではタイプ 2 がみられる。前者は部分的にタイプ 2 的な小振りな築石を用いる部分があり、また 3 面段階の石積 B2・3 築造に際し B2 - B3 間とともに東寄りの上層を増し積みしているとみられる。最高所である石積 B2 以東は 2 段積み程度の低い石積みとなるが、背後の遺構面との関係からみても本来の姿をとどめていると捉えられる。従って 4 面段階の石積 B1 は石積 A より低く、3 面段階の石積 B2・3 築造にあたり必要箇所の増し積みを行ったと解釈することが妥当であろう。

石積 A と石積 B1 は A が先行し後に B が追加されたと考えられ、概ね前者が高い平場面、後者が低い平場面に対応する前面石積と捉えられる。しかし両者が一部で位置を重複して並走し一連の遺構とならないことと、石積 A の法線が B トレンチを境に屈折することの理由は不明である。おそらく 4 面段階の時間幅の中での平場の変遷や地形的な要因等が関わった結果ではないかと推察される。

なお石積の用材は石積 A の西半が輝石安山岩 95.6%で残りは堆積岩(礫岩・砂岩・礫質砂岩・頁岩)である。また石積 B1 も輝石安山岩が 95.2%を占め残りは礫岩と頁岩である。

ケ　遺物と 4 面の年代

4 面段階の遺物は主に基盤造成土や平場造成土から出土した。K トレンチ東部では低位面の平場検出面ないしは造成土上部から完形に近い土師質土器皿や板材、銭が出土している。基盤造成土や平場造成土中の古瀬戸が後Ⅰ期～後Ⅳ期古段階(14 世紀後葉～ 15 世紀中葉)を主体とし、低位の平場面に伴う K トレンチ出土遺物中に永楽通宝(初鋳 1411 年)が伴うこと、4 次 4A1 区石積遺構 1528 出土古瀬戸折縁深皿ないし卸目付大皿が古瀬戸後Ⅳ期古段階であることから、4 面段階は 14 世紀後半を平場造成の上限とし、石積 A・B1 に規定される平場の時期は 15 世紀前半から中頃と考える。

(4) 3 面の遺構(第 14 ～ 33・78 ～ 83 図)

ア　ピット

P1137・1297・1299・1300 がある。P1137 は石列 8 の南にある円形ピット、他は P トレンチと M トレンチの壁面で断面を確認したピットである。

イ　石積前空間(池状遺構)

この段階の石積前空間は、遺構の東部に石積 B2・B3 が付加され、それ以東が埋め立てられる。これは低位の平場面の埋め立てと同時に行われたもので、これにより石積前空間は閉塞され、また平場は全体が 1 面構造となる。池状遺構としての石積前空間は複雑な変遷によりその姿を変えていくことがその後の調査で判明している。具体的には①石積 B2 による東部の閉塞・石積 I による西部の一部閉塞→②石積 B3 による東部の閉塞と底面上昇→③ 2" 面段階(5 次調査 3 面新段階・7 次調査 2"' 面)の埋め立てによる石積 A・B1 の埋没と石積 F や石列 13・39 による新たな区画と底面の上昇→④ 2 ～ 2' 面段階の完全な埋め立てである(第 149 図参照)。

1 次調査では石積 B2・B3 の把握と F トレンチにおいて 2' 面石列 13・集石 2 を確認した。まず、石積 B2 築造により閉塞された空間は長さ 32m となる。底面は 4 面段階からさほど変化はないが、この段階の

うちに自然堆積や人為的要因により東半の底面が上昇し、石積 B3 段階へと移行する。閉塞により底面最深部付近の地山中の水脈に起因する湧水等を利用して水を湛えた池として性格が一変したと考えられる。石積 B3 段階にかけて、東半部の堆積土中には斎串状木製品や短冊状板、端材等を主体とした多量の木製品がもたらされる。そのあり方はあまり法則性がなく土中にバラバラと混在した状況である。また、木製品や焼物を問わず生活雑器が非常に少なく、一方で後の調査も含めて硯の出土が目立つ。遺物のあり方はこのように際立った特徴を呈していた。木製品は西側で希薄となるが、これは湧水点から遠ざかるに従い堆積土が乾燥し木質遺物が残存しえなかったためと考えられる。

石積 B3 段階は全長が 2m 短くなったことと底面の上昇を除きあまり大きな変化は見られないが、前段階と同様、斎串状木製品等の木質遺物を大量に含んだ堆積土がもたらされ、厚さを減じながらも西端近くまで達する。これは単なる自然堆積ではなく、風化岩石に由来する細かな岩片やブロック状のシルト、有機物を多量に含むため、明らかに人為的に埋めているものと見られ、F トレンチの断面観察では北から南へ土層の傾斜が顕著に認められるため平場空間からもたらされていることが確認された。

続く 2" 面段階は平場側からの埋め立てがさらに進行する。この段階には石積 A・B1 が埋没し、代わって埋立土が形成した法面の裾に築いた石積 F で区画された東側の狭い池状空間と中央部の土橋状の高まりを介して西側の石列 39・石列 13 で区画された狭い池状空間に移行するが、1 次調査段階ではまだその見通しがなく、石列 39 と一連になるとみられる石列 13 の性格を捉えることができなかった。埋立土は前段階のような木質遺物等の有機物は含まれず、周辺の地山に由来する風化岩片等を多量に含んだ茶褐色や黄褐色の土砂が時折層理面に炭層や有機物含有層を薄く挟みながら南に傾斜しながら形成される。

石列 13 は長さ 35 ～ 50 ㎝の角礫を 4 個石積 A と直交して南北方向に配し、池空間側に面して石面を揃える。東接する集石 2 は 30 ～ 50 ㎝の横長の礫を多用し石列 13 の東から土堤にかけて南北 2.9m の範囲に配石するが、上面は石材の角が突出し平坦とはならない。井戸址とも考えたが、その後の 2 次調査でも性格を明らかにできなかった。

ウ　土塁

この段階は底面の上昇に伴い土塁の法尻が埋没し法面もかさ上げされていく状況が後の調査で明らかになったが、1 次調査では F トレンチで上昇した底面に築かれた集石 2 が法面に被る状況が捉えられた。南側の法面は石列 13 が築かれた段階までは大きな変化がみられない。

エ　石列

前述の石列 13 は遺構面としては 2 面に含めている。他に、石積 B2 の東を並走し一体的関係となる石列 5 が検出された。石積と合せて以下で述べる。

オ　石積

3 面段階の石積は石積前空間を構成する石積 B2・B3 のみである。石積 B2 は B3 に先行する石積であるが、両者の間に技法的な差はなく、おそらく短期間のうちに埋められたと考えられる。石積の高さは 66 ～ 80 ㎝で、長さ 15 ～ 35 ㎝×高さ 10 ～ 25 ㎝の山石や河床礫を 4 段ほぼ垂直に布積みするが、基底面が南に下降するため調査区壁際では 5 段積みとなる。築石は小口を石積面とし、控えは最大 1.5 倍程度である。仰角はやや上向きとする。また原則として間詰石は伴わない。石積 B1 との接点は先行する B1 の石積面に各段の築石側面を擦り付ける。1 次調査区内では延長 1.9m を調査したが、後に 5 次調査において南側の延長を確認し、天端が下降した後土塁法面に擦り付けて収束することが判明、全長は 6.7m である。石積に並走する石列 5 は石積と同大かやや厚みの小さい山石・河床礫の小口面を前面（石積側）に向けて 7 個配列させる。天端のレベルは石積 B2 より一段文高く段状をなす。

石積 B3 は延長 2m を調査し、B2 同様山石または河床礫を北側で 4 段に積む。基底面は途中で段下がり

となり、そこから南側では6段積みとなる。石積は高さ78㎝～1.2m、築石は長さ18～35㎝×高さ12～33㎝で、B2に比べばらつきが目立つ。5次調査で確認した全長は7.4mで、B2同様土塁に末端を擦り付けて収束させる。各段の築石は凹凸を噛み合せるように布積するが、2段目と3段目の間だけ横目地がまっすぐに通っている。

裏込めは石積B2・B3ともに栗石等は一切用いず、造成土で背面を支持するが、その施工は非常に丁寧で、黄褐色土と黒褐色土を交互に版築状に固めながら重ねている。特に石積B3の背面で顕著である。

カ　遺物と3面の年代

3面段階の遺物は石積前空間の堆積土から出土したものにほぼ限られる。その主体は斎串状や短冊状、端材等の木製品でそこに焼物や礎が少量伴う。時期判定の基準となる焼物が少ないが、瀬戸産陶器の下限が古瀬戸後4期新段階で大窯製品を含まないことから、3面段階は16世紀後半のうちに収まる短い期間と判断された。

(5)　2面の遺構（第34～54・78～91図）

ア　ピット

柱穴列や建物址等の建築物に伴わない単独の円形ピットは各遺構面の中で最も検出数が多い。その分布は全体に及ぶが、調査区中央北端部では密度が低い一方、調査区南東部では集中傾向が窺え、とりわけ溝716や溝344を境に南側で一線を画して密集度を増し、西側はトレンチB付近となるようである。径10～50㎝×深さ10～60㎝のものがあり、柱痕を残すものも多い。

イ　柱穴列

調査・整理段階で7基を認めた。いずれも単独ピットと同様、柱穴は直径10～45㎝の円形を基調とし、深さは同一遺構内でもばらつきが目立つ。柱痕や礎盤の見られるものもある。**柱列13**は柱14・15と一列に連なって平場南東部のピット集中域の北辺を画する。4間・長さ8.9m・柱間1.8～2.52m、軸方位N-82°-Wの遺構である。**柱列14**は柱列13西端の1間と並行配置となるが軸方位はWE0°で若干向きを変える。3間・全長6.03m、柱間2.01mを測る。**柱列15**は溝392と焼土398の間を繋ぐ位置にあり、柱列13・14とはやや角度差が大きくN-61°-Wに軸をとる。2間構成とみられるがP720・P390・P722も伴う可能性がある。全長2.4m・柱間1.2mを測る。**柱16**は平場西部、溝582と直交してその東端を起点に調査区北壁下まで延びる南北方向、軸方位N-8°-Eの遺構で、さらに調査区外に延びる可能性もある。3間・全長6.3m・柱間2.28～2.64mである。**柱列17**は柱列16のP1060から西3mを起点に東西方向に延びる遺構で、調査区外に広がる建物址の可能性もある。2間・全長3.96m・柱間1.92～2.04m・軸方位N-78°-Wである。**柱列29**は平場東部、柱列13と十字に直交する5間・全長6.44m・柱間1.2～1.98m・軸方位NS0°。**柱列30**は建27の東壁沿いにある。1間・全長2.88m・軸方位N-12°-Eである。これらの遺構は他遺構とのあり方からみて主に平場空間の分割を目的とする遺構と考えられる。

ウ　掘立柱建物址

4棟を捉えた。いずれも平場中央～東部に分布する。**建12**は平場南東のピット集中域にあり、溝716を切り柱列14・15と重複する。炉址群を囲むように位置する東西2間・6m×南北2間・5.1m以上・軸方位N-83°-W、構成される柱穴は7基で加えてP399も本址に伴うであろう。柱間は東西2.58～2.52m、南北2.34～2.64mである。**建26**は平場東部、Kトレンチ内にあり、1間・全長1.92m・軸方位N-84°-W。**建27**は平場西部にあり、南東にコーナーを有するL字形に配列の3基のピットからなる。東西1間・5m以上×南北1間・2.5m以上、東西軸方位N-89°-Wである。**建28**は平場中央部にあり、南西コーナーを起点に北は調査区外に広がり、東も未調査域に延びる可能性がある。5基のピットからなる東西3間以上

×南北２間以上の建物で、東西軸方位はN-79°-Wである。

エ　礎石

調査時礎石とみたが建物に結びつかない単独の遺構が９基ある。そのうち、楕円形土坑の一角に伴う礫とみられる礎石452・769はピットまたは土坑内の礫と考えられ、礎石の可能性は低い。残る７基は長さ25～48㎝の平板な自然石（山石）が水平に据えられ周囲に掘り方が認められるもので、調査区西部、東部、Fトレンチ内で検出されている。そのうち、礎石558・707は両者が通る軸線が同位置にある礎石建物址13と向きを揃えており、関連する遺構との理解も可能である。

オ　礎石建物址

平場東部から２棟を検出した。**建13**は平場南東隅近くにあり、現状では東西３間・5.94m×南北２間・3.03mの長方形側柱式建物と推定される。本址より南側は検出面が急激に下降し１面造成土もなく旧表土間近となることから、遺構面が削平を受け本来南に広がる建物礎石を失っている可能性もある。軸方位はN-87°-Wで、礎石は５基が残存し、柱間寸法は東西1.98m前後、南北1.51m前後である。礎石の用材は長径35～55㎝×短径27～48㎝の長方形ないし長楕円形を呈する輝石安山岩主体の山石ないしは河床礫の平石を東西に長軸を向けて据える。平場面が緩く傾斜するため礎石上面も北辺の２石に対し南辺は15㎝程低くなる。礎石周囲には用材より一回り大きい楕円形・皿形の掘り方を有する。**建15**は調査区北東部にあり、東西方向、N-83°-Wに礎石758・760が並ぶ。柱間寸法2.8m、礎石は長さ40～50㎝の平石を楕円形掘り方内に配する。遺構の性格は不明だが、近接して併走する溝344や斜走する溝667と関わる門のような建物の可能性もある。

カ　土坑

平場の全域から検出され、概ね直径が50㎝より大きいものを扱った。従って、形態的に柱穴とすべきものを相当数含んでいる（土415・443・397・504等）。それらを除外すると、大半が長径50㎝～1.1m×短径40㎝～1mの楕円形土坑で、掘り込みは浅い皿状を呈しあまり特徴のみられないものが多い。目を引くものとしては、Bトレンチにかかって検出された土466が長さ2m×深さ60㎝の不整楕円形ないし隅丸方形の大型土坑で、底面が平坦な逆台形の断面を呈する。また土501は長さ2.3m×幅1.4m×深さ20㎝の俵形の土坑で、掘り込みは垂直で平坦な底面をなす。底面周囲にはやや浮いて小礫がみられる。土550は径1.1mの円形土坑で、２段掘り込みとなる。径60～70㎝で北寄りに掘り込まれる２段目には内部に小礫が充填される。

キ　焼土面・炉址

方形または楕円形の浅い皿状の掘り方を有し、その中央に火床（焼土面）を伴う炉址である。火床は円形の浅い掘り込みとなる場合も多い。これらは平場南東部の建12に囲まれた範囲から集中的に検出され（焼土365・368・372・377・382・387・398）、その東側一帯やBトレンチを挟んだ平場西部にも散在的に分布する。掘り方は長辺（長径）55～97㎝×短辺（短径）40～90㎝で、火床の焼土面は強く被熱赤化する。覆土は炭や灰が層をなして焼土面や周囲の掘り方底面を覆うことが多い。特に特徴的なものとして**焼土368**が挙げられる。本址は浅い円形ピット状の火床上に灰層を介して内耳鍋が据えられ、周囲の掘り方内にはほぼ全面に灰混じりの炭塊や炭粒が厚く堆積していた。内耳鍋は口縁部と内耳を欠き一部の破片は周囲に散っていた。また内耳鍋の内部にも灰と炭が詰まっていた。内耳鍋の使用法を示唆するのかあるいは内耳鍋の転用を意味するものか興味深いが、下に火床の焼土面を形成している点を踏まえると前者の可能性が高いのではないかとみられる。**焼土372・398**等は検出作業時に掘り方を飛ばしてしまい、火床だけが残っている。その他、**焼土640**は他に比して掘り方・火床ともに掘り込みが深く、火床内に炭が詰まり、掘り方覆土は灰が厚く堆積していた。**焼土783**は方形・皿状の掘り方を有するものの焼土面はなく、内部に角

礫と炭塊・炭化材が残されていた。他に**焼土320・354・631**ように覆土に炭層を伴うが明確な焼土面は伴わず炉址とは呼び難いものや、**焼土599**も焼土面はなく覆土中に焼土塊や炭塊を多量に含む不整形の土坑とすべきものがある。

ク　溝状遺構

20基を検出した。その多くが平場空間の分割や建物に付属する施設である。**溝333・334・352・555・684**は建12・13、柱列13に囲まれた空間から検出された幅16～32㎝×長さ1～3.6mの細溝で、その方向は溝333を除き南北あるいは東西を志向するが、周囲の建物や柱穴列との厳密な整合関係はない。**溝344・667**は1.4mの空隙を挟んで逆L字形の配置となる溝で、幅35～50㎝×長さ4.9～3mである。建15と位置・向きを揃えて並列し、空隙も建15の柱間の約2分の1であることを考慮すれば両者は一体的な遺構とみることが可能で、具体的には門を構成していた可能性を考えたい。建12の北壁と位置を重ねる**溝716**は幅20～87㎝×長さ4.7mの遺構で、柱列13～15と関わりながら建12以前の空間区画を目的とした遺構であろう。平場中央北寄りの**溝465**は角が曲線を描くL字形の溝で、東西8m以上×南北4.3m、幅25～80m×深さ20m、南辺はほぼ東西に走り、覆土中に礫を多含する。建物に付随するか、あるいは区画に関わる遺構とみられる。**溝392・494・499・502・503・509・511**は平場中央、建12と建27の間に分布し、溝333等と同種の細い溝である。溝392と溝494は一連で柱列14・15の延長線上にある。他は建27寄りにあり、南北・N-14°-E方向に延びる溝502・503とその北端から直交し西に延びる平行の溝509・511をもって逆L字形の構成となる。とりわけ溝502・511は一連の遺構と捉えられ角が曲線を描く。**溝1346**は溝499の東にあり、軸方位N-10°-E、幅1.7m×長さ5.1m以上の遺構で、少なくとも幅40㎝内外の溝2基が重複して一体的な様相を呈している。本址の後1面段階に石列3が同位置に設けられており、次段階へと続く区画溝ということができよう。**溝777**は溝502・503に先行する同一地点の遺構でやや蛇行する。軸方位N-16°-E、幅70～80m×確認長6.4m、逆台形の掘り込み両側縁には断片的に護岸石列が伴う。石列は河床礫を主体とし壁面を構成する。**溝613**は調査区西端にある逆L字形の溝で、全体の大きさは南北4.2m×東西2.3m、溝幅は40～60㎝である。3次調査3A1区で検出された石列22・溝1457と約1.9mの間隔をもって平行に向きを揃える。

ケ　集石

3面段階の石積前空間の項で記述した集石21基が該当する。既述につき省略する。

コ　石列

石列6・13が2面に伴う。そのうち石列13については石積前空間との関係で3面の遺構の項で述べた。**石列6**は建12と建13の間にあり、前者の南東コーナーに近接して南北に軸をそろえて構築される。東西2列からなる石列で、西列は長さ55㎝前後、東列は長さ40～55㎝の平石を南北に長辺をそろえて配し、天端以外は造成土に埋め込む。東西列の間隔は78㎝で東列は東辺を直線的に揃える。東西列の間には北端に小平石1個を置きここを頂点とする。そのあり方は礎石に近く、何らかの構築物の土台かもしれない。

サ　平場南斜面

本段階から1面段階には、3面段階まで平場前面を画した土塁から南側の斜面空間の埋め立てが進行する。その状況は後続する調査で次第に明らかになったが、本調査ではFトレンチでその状況を断面で把握、途中に幅の狭いテラス状の平坦面を伴いながら徐々に下降するスロープを捉えた。

シ　遺物と2面の年代

遺物は平場造成土を主体に遺構出土品も存在する。焼物は瀬戸製品に古瀬戸が多いが、土591に大窯2段階併行とみられる天目茶碗があることやその後の調査で大窯1段階の丸碗や擂鉢が得られ、遺構に帰属するものもあることから、2面の時期は15世紀末を上限、16世紀中葉を下限とする大窯1～2段階併行

期と判断される。ただし古瀬戸が多い状況を考慮すると16世紀前半のうちに収まるとみられる。(竹原)

(6) 1面の遺構(第55～83・91～103図)

ア ピット

2面と同様、径50㎝を下回る円形ピットで建物を明確に構成しないものを一括した。柱穴状のものが多く、その分布も平場北半部～北東部、平場西部の建7～9付近で特に密度が高く、掘立柱建物址の分布と重なる。調査時明確な関係を捉えられなかったものの、一定の深さを有し柱痕の観察されるものの中には建物を構成していたものが多数存在するとみられる。柱穴以外で特徴的なものに平場東部の土831の西に隣接するP872があり、径8㎝の浅い小ピット内に銅銭18点が差しが崩れた状況で遺存していた。なお溝188から北に分布するピット・土坑は北に隣接する別の平場に帰属するものと考えられる。

イ 柱穴列

平場空間の区画や建物の付属施設を目的とするものが主体である。主に平場の南北を二分する東西軸方位のものが石列1の北側に連続する状況が窺える(柱列1・2・6・10等)。同じ区画施設である石列や溝状遺構も含め、1面遺構の軸方位はN-5°-E～N-13°-Eを主体にN-19°-W～N-18°-Eまでと振幅が大きい。遺構を構成する柱穴は円形を基調とする点で各遺構共通し、柱痕を残すもの、2段掘りとなるもの、礎盤を伴うもの、柱穴を後に礎石に改めているものが見られる。**柱列1**は平場東部にある7間・長さ9.2m・柱間96㎝及び1.8mの遺構で、軸方位はWE0°。東端のP840から南折するP833も本址に伴うとみた。**柱列2**は4間・長さ7.3m・柱間1.68～1.92m、軸方位N-89°-Eである。柱列1・2は同一位置における建替えであろう。**柱列3**は柱列1・2の南、土873の北に隣接する。2間・長さ4.6m・柱間2.2m～2.4m、軸方位N-83°-Wである。**柱列4**は柱列3と位置がほぼ重なる遺構で、2間・長さ5.6m・柱間3m～2.6m、軸方位N-78°-W。**柱列5**は平場の北部、遺構群の北端を画する遺構で、2間・長さ7.4m・柱間3.5～3.9m、軸方位N-73°-W。**柱列6**は建3の南に隣接する付属施設と考えられる。2間・長さ5.4m・柱間2.52～2.88m、軸方位N-85°-W。**柱列7**は平場中央の北にある南北方向の遺構で、2間・長さ4.4m・柱間2.1～2.3m、軸方位N-15°-E。**柱列8**は柱列7の南延長線上にあり、一連の遺構の可能性があるが軸方位が若干異なるため別遺構とした。2間・長さ4.1m・柱間1.86～2.24m、軸方位N-15°-E。**柱列9**は柱列8の西にある東西方向の柱列で、位置の重なる柱列19に後行し建替えによるものとみられる。3間・長さ4.6m・柱間2.2～3.7m、軸方位N-79°-W、柱穴は西端の礎石1099を本址に加えた。**柱列19**は3間・長さ8.5m・柱間2.7～2.94m、軸方位N-73°-W。**柱列10**は柱9と石列1の間にある東西軸の遺構で、4間・長さ9.1m・柱間2.28m内外、軸方位N-85°-W。中間のP1026から直交方向にあるP1017も本址に伴うものとみた。**柱列11**は平場西部、建9に隣接してその東に位置する。2間・長さ4.1m・柱間1.7～2.4m、軸方位N-12°-E。**柱列12**は柱列1・2の北に隣接する遺構で、2間・長さ4.1m・柱間2.05m、軸方位N-3°-Eで、東端は礎石となる。**柱列18**は石列1西半の北側に沿う遺構で、3間・長さ9.7m・柱間3.24～3.66m、軸方位N-73°-W。軸線上のP211・475も本址に伴うものか。**柱列20**は建3の北に並走し建24と重複する。柱間は不揃いで2間・長さ3.9m・柱間1.23～・2.67m、軸方位N-85°-W。**柱列28**は建7～9の西に並走し、2間・長さ5.9m・柱間2.04～3.05m、軸方位N-11°-Eである。

ウ 掘立柱建物址

柱穴列と同様、円形の柱穴で構成された建物で、平場中央の奥半に集中する。**建2**は4基の柱穴がL字形に並ぶもので、東西1間・長さ2m×南北2間・長さ1m・柱間0.5～2m、長軸方位N-83°-W。**建3**は東西2間・長さ5m・柱間2.43～2.57m×南北1間・長さ3.4m・柱間3.3～3.5m、長軸方位N-85°-Wである。**建4**は土292と重複するコの字形に配列する6基の柱穴を積極的に捉えたもので、東西3間・

長さ 2.5m・柱間 96 ㎝～ 1.54m ×南北 1 間・長さ 1.9m、長軸方位 N-78° -W。**建 5** は B トレンチの西にあり、5 基の柱穴がコの字形に配列する。東西 2 間・長さ 4.7m・柱間 2.34 ～ 2.36m× 南北 1 間・長さ 3.7m・柱間 3.66 ～ 3.84m、長軸方位 N-81° -W。**建 6** は建 5 の南東に隣接し、B トレンチで東半を失う。南北 2 間・長さ 3.4m・柱間 1.65 ～ 1.75m ×東西 1 間・長さ 1.6m、長軸方位 N-10° -E。**建 7 ～ 9** は平場西部にあり、同一位置に重複する建物である。**建 7** は礎石建物として後述する。**建 8** は建 7 よりひと回り大きく東西 1 間・長さ 3.8m ×南北 1 間・長さ 2.9m、長軸方位 N-79° -W。北東隅の柱穴は建 7 と重なる。**建 9** はさらに大型の建物で、南北 1 間・長さ 7.2m・柱間 4.74 ～ 4.82m× 東西 2 間・長さ 4.7m・柱間 1.8 ～ 3m、長軸方位 N-11° -E。**建 11** は柱列 9・19 の南に並行し 3 基の柱穴が東西に並ぶもので、直交方向が未確認であることから区分上柱穴列とすべき遺構である。2 間・長さ 4.3m・柱間 2.11 ～ 2.19m、軸方位 N-77° -W。**建 13** は 2 次調査で建物址と確定した。南北 2 間・長さ 2.6m・柱間 1.14 ～ 1.46m× 東西 1 間・長さ 2.3m、長軸方位 N-12° -E。**建 24** は建 3 と重複し、南北 2 間・長さ 3.8m・柱間 1.68 ～ 2.1m× 東西 1 間・長さ 3.6m・柱間 3.42 ～ 3.66m、長軸方位 N-9° -E。**建 25** は平場奥半の西部にあり、軸線上の礎石 206・989 も含めたが他の対応する柱穴等含め再検討を要する。南北 3 間・長さ 12m・柱間 3.9 ～ 4.1m× 東西 2 間・長さ 8m・柱間 3.3 ～ 4.7m、長軸方位 N-8° -E である。礎石は長径 42 ～ 45 ㎝ × 厚さ 12 ～ 15 ㎝の河床礫平石を掘り方に据える。

エ　礎石

河床礫または山石の平石が単独で存在するものを礎石と捉えた。16 基のうち礎石 1237 ～ 1242 の 6 基は A トレンチの南壁面で捉えたもので、平面観察を行っていないため礎石でないものも含まれる可能性がある。また、礎石は平場南東部に集中するが、同時にこの一帯は 1 面造成土中に礫が多く含まれているため、それを礎石と誤認したものもあるかもしれない。特徴的なものとして礎石 283 がある。大きさ 45 ㎝ × 厚さ 21 ㎝の平石を一回り大きい皿状の掘り方に据えたもので、北東側の掘り方埋土内に銅銭 10 点があり、状況的に埋納されたと解釈される（第 99 図）。他に対応するものが見当たらないため単独の礎石としたが、地鎮的な行為が伴う唯一のものである。

オ　礎石建物址

3 棟を数える。**建 1** は平場東部にあり、礎石 829・830・1162 の 3 基が L 字形に配列する。南北 1 間・長さ 3.8m ×東西 1 間・長さ 1.3m、長軸方位 N-3° -E で北辺の柱間が狭い形態だが、全体像は不明である。礎石は長径 50 ㎝内外×厚さ 10 ～ 25 ㎝の河床礫平石を用い、周囲に浅い掘り方を有する。東辺は調査区東辺で検出された土塁ないしは 1 段高い平場の法裾に沿っている。**建 7** は前述の掘立柱建物の建 8・9 と同一位置重複する 3 棟のうち最も規模の小さいもので、東西 1 間・長さ 2.7m× 南北 1 間・長さ 2.3m 長軸方位 N-12° -E、礎石は長辺 20 ～ 25 ㎝×厚さ 6 ～ 10 ㎝の角礫平石を掘り方に据える。**建 10** は石列 1 東部の南辺に沿って検出された 2 基の礎石である。東西 1 間・長さ 2.6m、礎石は長径 42 ～ 54 ㎝ × 厚さ 13 ㎝前後の平石で掘り方を伴う。石列 1 の上端よりやや低い位置にあり掘り方の切り合いから石列 1 に先行して築かれた遺構と理解される。

カ　土坑

柱穴を含む直径 50 ㎝を上回る円形ピットと船底状あるいは皿状の掘り込みを有する長軸長 1.4m までの楕円形土坑を主体とするが、2m を超える大型のものや特徴的な様相のものも存在しており、ここではそれらを中心に記述する。建 4 の東にある **土 4** は長径 1.4m× 短径 74 ㎝ × 深さ 42 ㎝の楕円形土坑で内部に 70 ㎝大の巨大な方形の山石が地山から突き出していた。**土 207** は石列 1 を切る大型土坑で B トレンチにより大半を失う。長軸 2.2m ×深さ 50 ㎝の船底状を呈する。**土 292** は建 4 と重複する長方形土坑で、長さ 3m ×幅 1m ×深さ 10 ㎝、長軸方位 N-17° -E である。内部に角礫を少量伴い底面は平坦に造られる。

周囲の遺構と向きを揃える。平場西部の**土 293** は 1.1m×98 ㎝の浅い楕円形土坑内に 5 ～ 10 ㎝大の栗石状の礫が敷かれた状態で検出された。平場東部の**土 877** は 1.4m×1.2m× 深さ 10 ㎝の浅い円形土坑だが、内部に 10 ～ 30 ㎝大の山石や河床礫が置かれた配石土坑で、礫に茶臼片 1 点があった。**土 728・831・873** は巨大な円形土坑で、平場東部から互いに重複して検出された。形態や底面、堆積物の状況から同一目的の遺構の新旧関係と捉えられる。**土 728** はトレンチで断面のみ観察した。径 2.4m の船底状の掘り込みを有し、下層の堆積に鉄分や炭粒を含む層と水成堆積のシルト層が縞状に互層をなしていた。**土 831** は径 2m ×深さ 25 ㎝の船底状の土坑で、鉄分が沈着し平坦かつ硬緻な底面上を水成堆積のシルトが薄く覆い、さらに最大約 10 ㎝の厚さで炭片が層をなしていた。**土 873** は他の 2 基を切る遺構で、径 3m×2m、深さ 45 ㎝の船底状の掘り込みを有する。底面は平坦で固く、鉄分の沈着が認められる。東側には 20 ～ 30 ㎝大の角張った河床礫や山石 7 個を立て並べて石壁を作り、その背後にも同様な礫を充填する。また土坑底面北寄りには平石を置き、対する南側は掘り込みの肩に平石 7 個を敷く。覆土は下層に鉄分を多く含んだ灰色シルトが厚く堆積する。これらの状況から、3 基の土坑は溜め井戸と判断した。ただし導水路と思しき溝は見当たらない。堆積土の分析はしていないが、同じ平場東部の 4 次調査 4A1 トレンチからは 4 面段階の便所（石積遺構 1528）も検出されており、上水ではない可能性も考慮しておきたい。

キ　焼土面・炉址

8 基検出された。平場中央を除く外周部に認められる。**焼土 273・1139** は 2 面で見られた長軸 80 ㎝前後の方形ないし楕円形の浅い皿状の掘り方の底面中央に火床となる焼土面が伴う炉址である。掘り方は長径 80 ～ 95 ㎝を図り、覆土中に炭塊や焼土粒を多く含む。**焼土 273** は覆土中から鉄釘が出土した。**焼土 272・824・1111** は強く被熱した径 30 ～ 40 ㎝の焼土面で掘り方は伴わない。但し焼土 824 は焼土面の北に覆土に炭塊を多量に含む浅い帯状の落ち込みが伴う。また周囲には炭・焼土塊の散布が認められた。**焼土 91・126・1089** は覆土に炭塊や焼土粒を多く含む土坑で、掘り方の底面に被熱は認められない。前二者に炭塊が多いのに対し焼土 1089 は焼土塊が主体である。

ク　溝状遺構

2 基を除き幅狭な形態のものに限られ、平場北東部の建物址群周辺と西部の建 7 ～ 9 周辺に分布する。柱穴列と同様に平場の区画や建物に付随するものとみられる。**溝 281** は位置的に塀の基礎と推定される石列 1 の西延頂上にあり、上部を失った石列の掘り方とみられる。**溝 1158** は幅 1.6 m前後 × 確認長 8m、軸方位 N-19° -W の溝で、深さ 20 ～ 50 ㎝、断面船底形を呈し、底面に鉄分が沈着し浸食とみられる凹凸も見られたことから水路と考えられる。建 1 や東側の 1 段高い遺構面に先行する。おそらく 4 次調査 4A1 トレンチの 2 面溝 1509 がその延長であろう。他の溝は幅 20 ㎝前後・深さ 10 ㎝前後を主体とし、長さは 80 ㎝～ 3.3m まで様々である。**溝 223・229・286** は建 7 ～ 9 及び柱列 11・28 と軸方位を同じくして一群をなし、建物やその周囲の空間に伴う遺構と推察される。その北にある**溝 282・289** は石列 1・溝 281 と約 1.3m の間隔で並走し関連する遺構とみられる。溝 181 ～ 183・185・192・194・200 は建 3・24 や柱列 6・20 と関連するとみられる遺構で、とりわけ軸方位を同じくする**溝 181 ～ 183・194** は建物を取り囲むように配置される状況が窺える。溝 181 の南に隣接する**溝 180・197** も関連する遺構とみられる。**溝 900** は溝 183 の延長線上にあるとともに、南隣する建 2 との関係が窺える。**溝 188** は溝 183・900 の北 17.6m の位置に並行して N-84° -W 方向に走る。B トレンチの土層断面ではこの遺構付近で平場が切り替わる状況が観察され、遺構も本址を境に希薄となることから、平場の境界に関係する遺構の可能性がある。直交する**溝 190** も溝 188 より北側の平場に関わる遺構と言えよう。

ケ　石列

平場空間の区画に関わる施設と考えられる。**石列 1** は平場中央にあり、その構造から築地塀等の基礎と

第 14 図　A 区全体図（5 ～ 3 面）

考えられる。基本的な構造は前後２列の並行する石列の間に栗石を充填するもので、南面の石列は側面が面一で法線が一直線に揃い地上に露出していたことから石列より北側の空間を画した施設と捉えられる。前後の石列が良好に残存する範囲で幅 1.1m × 長さ 10.7 m × 現存高 15 ～ 30 ㎝を図り、溝状の掘り方やその延長とみられる溝 281 まで含めると全長 28.8m に及ぶ。前面石列にみる軸方位は N-77° -Wである。用材は主として長辺 35 ～ 55 ㎝× 短辺 15 ～ 50 ㎝ × 高さ 10 ～ 25 ㎝の河床礫を用い、前列では小口または長手に、後列は長手に置く。**石列２・３**は石列１と直交してその南に築かれたもので、東の石列２は東側面の石面を揃え、対する西の石列３は西側面の石面を揃え、両遺構の距離は 10.5m を測る。２基ともに２面直上に乗る。これらの状況から石列２・３は２面最終段階に築かれ、石列１～３で囲まれた空間が一段高く盛土造成された状況が窺える。その後石列の東西側にも生活面のかさ上げが行われ造成土内に埋没したと推定される。但し、石列が短く石列１付近まで及ばない理由は調査時十分な検討がなされず不明である。石列１・２の用材は長辺 30 ～ 50 ㎝×厚さ 10 ～ 25 ㎝の平石を小口または長手に配列する。規模は石列２が長さ 1.9m、石列３が 2.7m である。軸方位は石列２が N-1゜ -E、石列３が N-18゜ -Eである。**石列９**は石列１の後列に接して直交方向に築かれる長さ 3.3m、軸方位 N-13° -E の遺構で、石列１と背後の造成の後に築かれ、１面上で掘り方が検出された。長辺 35 ～ 55 ㎝の河床礫を中央部では軸方向に長手に、南北両端では小口に置き、前者は２列配置となる。また北端に接して帯状に連なる栗石状の小礫群が土 87 から土 166 にかけて造成土内すなわち土坑の直下に延びていた。また、そのラインと直交して土 166 の南には土 105 があり、これらの遺構が一体となって建物等の施設を構成していた可能性もある。**石列 10** は F トレンチ建 13 の南壁に並行しその外側に隣接する東西方向５石からなる石列である。２次調査の所見から意図的な配置ではない可能性もある。**石列 11** は調査区東部で検出された南北方向の石列で、長さ 2.3m、軸方位は N-3° -E である。25 ～ 50 ㎝大の礫を長手に置く。**石列 12** は平場中央の北東寄り、溝 889 に後行する石列である。長さ 1.4m、30 ～ 40 ㎝大の角礫平石を N-78° -W 方向に長手に置き、南辺を直線に揃える。西端の築石は２段の石積みとなる。またその背後にも２石が配される。**石列 14** は平場南東にあり、石列 11 の軸線上に位置することから一連のものとみられ、長さ 1.2m、軸方位は N-4° -W である。**石列 15** は礎石 1343 と溝 136 の間に緩く弧を描いて飛石状に連なる礫群である。

コ　平場南斜面

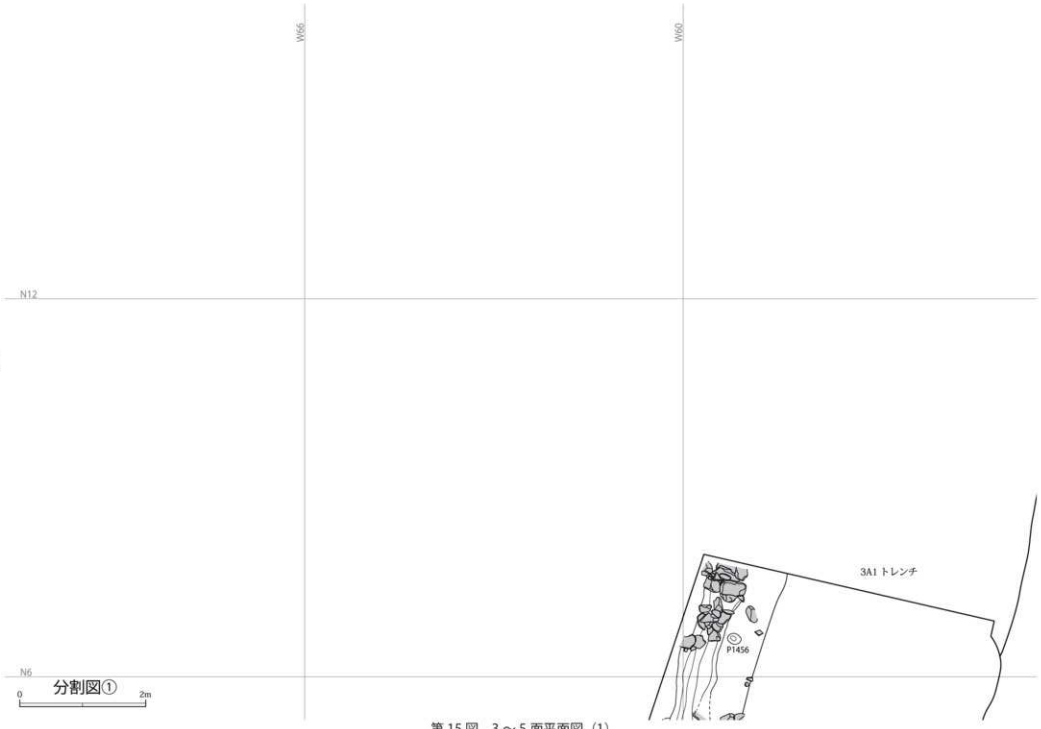
２面段階以降も平場前面の埋立て造成が進行し、本段階においては完全なスロープ状となり段差がほとんど見られなくなる。この状況はその後の調査でも追認された。なお、F トレンチ南部における埋立て造成土には焼土塊や炭を多量に含む厚い層（46・47 層）があり、茶壺や常滑甕をはじめ多量の遺物が含まれていた。

サ　遺物と１面の年代

平場造成土出土品を主体に遺構出土遺物が見られる。瀬戸製品は古瀬戸が多く、遺構面の下限時期を示すものが非常に少ない。当地域において大窯２・３段階の製品があまり出土しない傾向が本遺跡でも見られる。後の調査の出土品も含めて検討すると、遺構検出面に大窯３段階以降の丸碗があることと、青花端反皿 B2 群が３次調査で出土する一方で、松本城跡等では出土量が増える大窯４段階の瀬戸・美濃産陶器をまったく見ないことから、16 世紀後半とりわけ小野編年Ⅲ期に示される天正の前半頃が下限と見做される。（竹原）

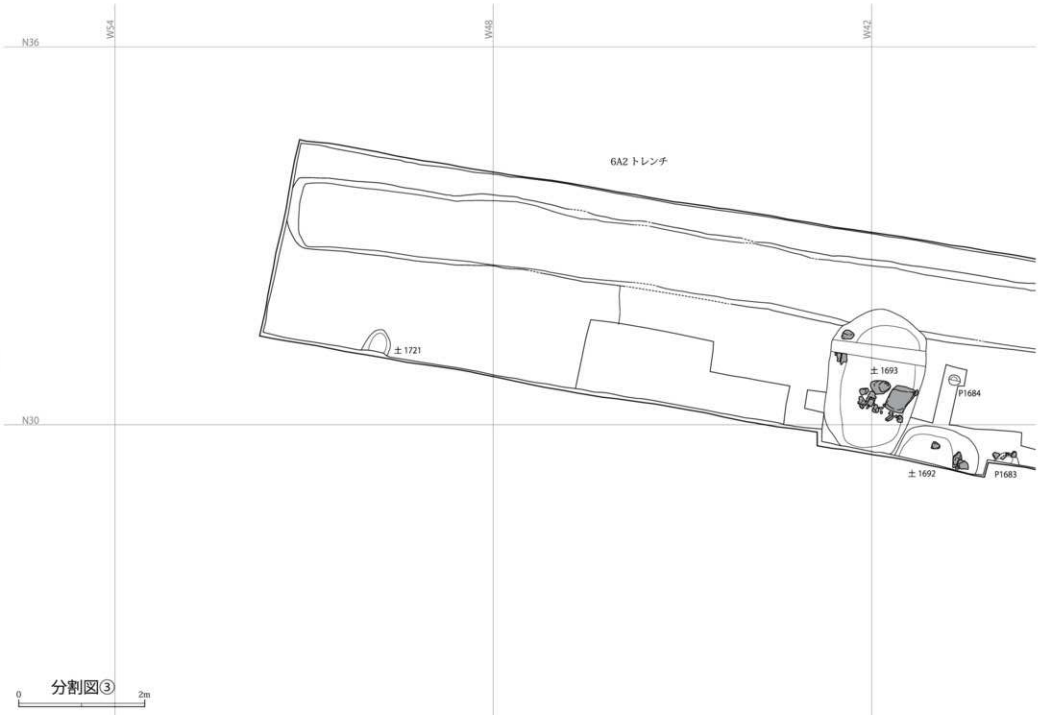
(7)　１面より新しい遺構

１面を覆う黄褐色土層より上位では遺構は皆無で、中世の活動は廃絶した状況を窺わせる。近世以降も基本的には畑地としての主体で、居住にかかわる遺構は見られない。他の遺構としては戦前この地に存在した療養所に伴う柱穴やゴミ穴等の遺構、漆喰や建築材が混じる撹乱層が各所で見られた。（竹原）

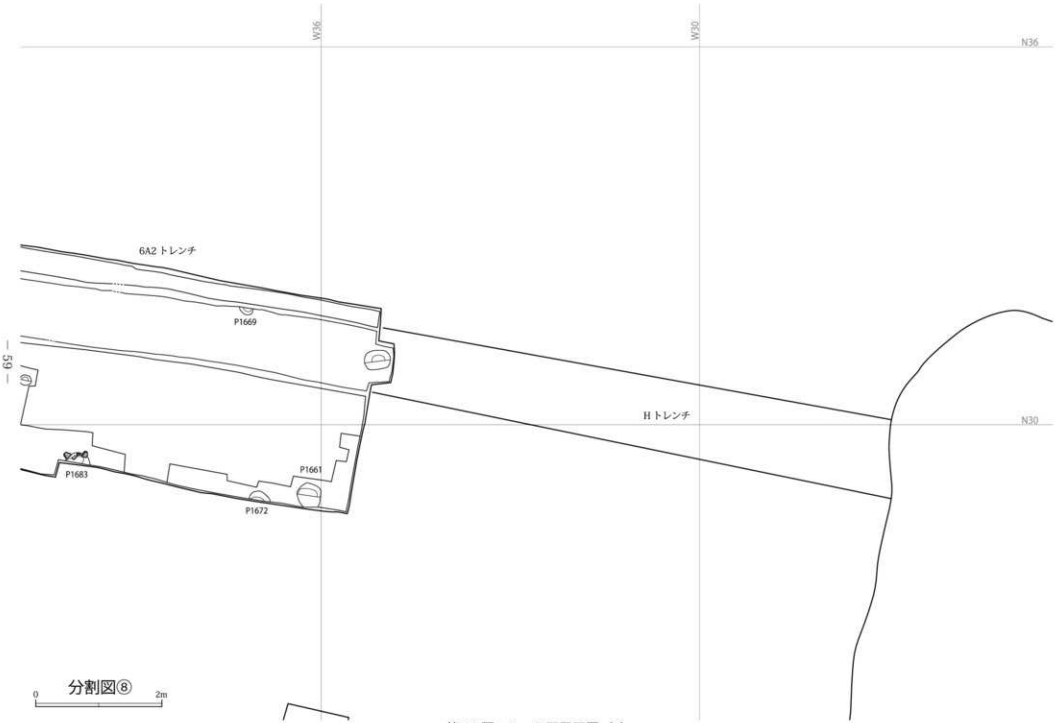


第 15 図　3 ～ 5 面平面図（1）

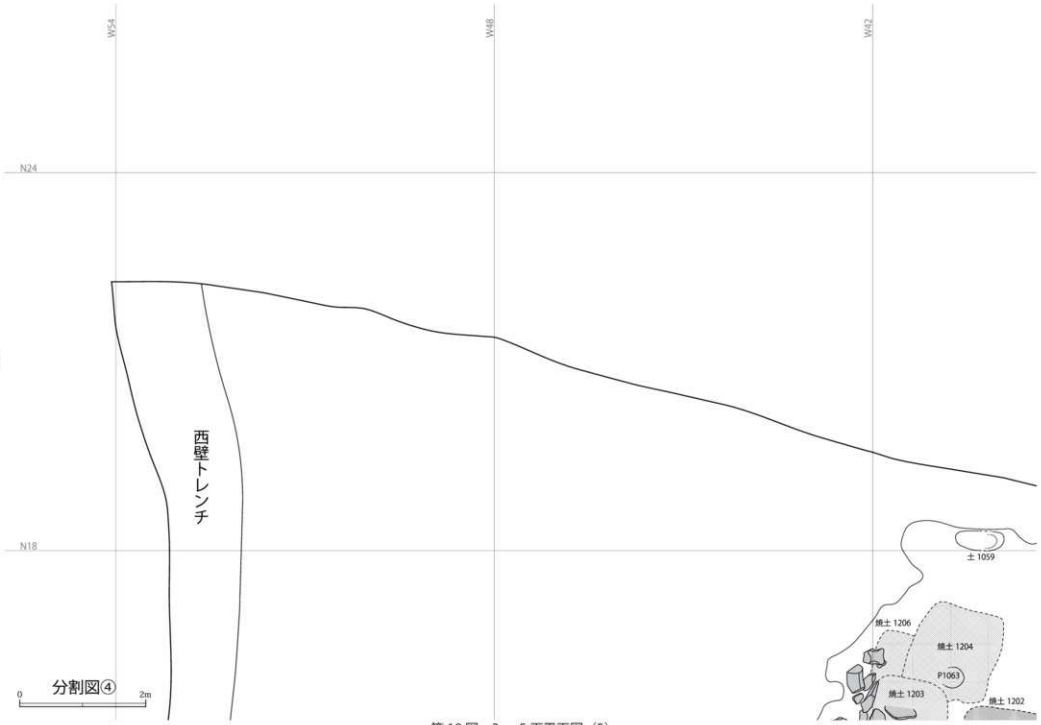
第 16 図　3 ～ 5 面平面図（2）



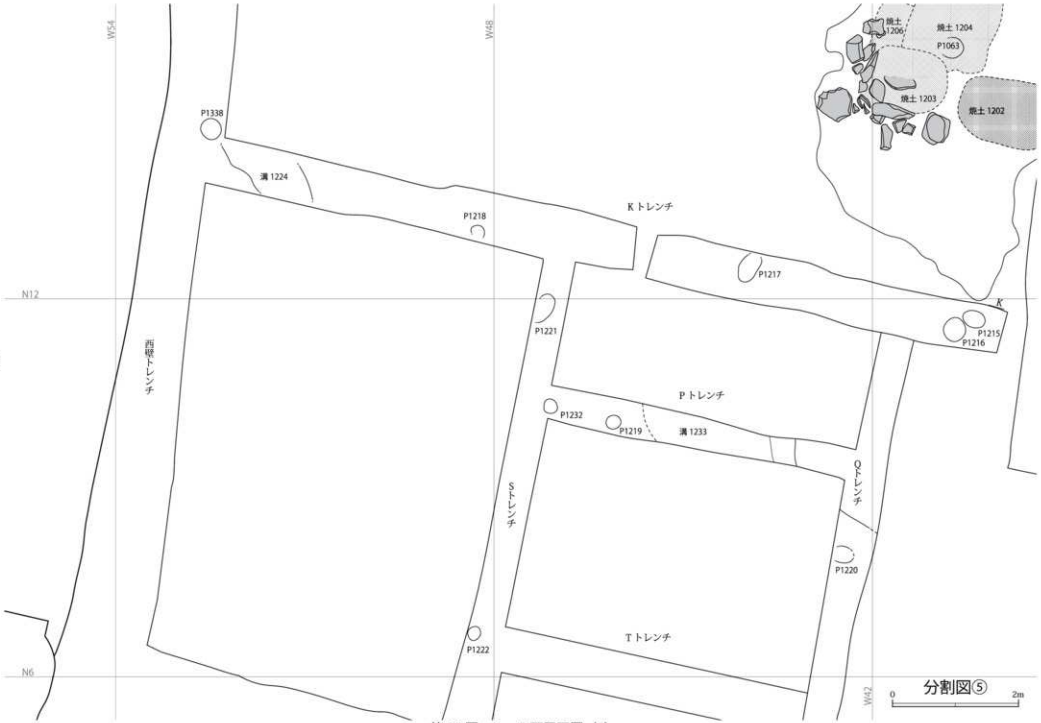
第 17 図　3 ～ 5 面平面図（3）



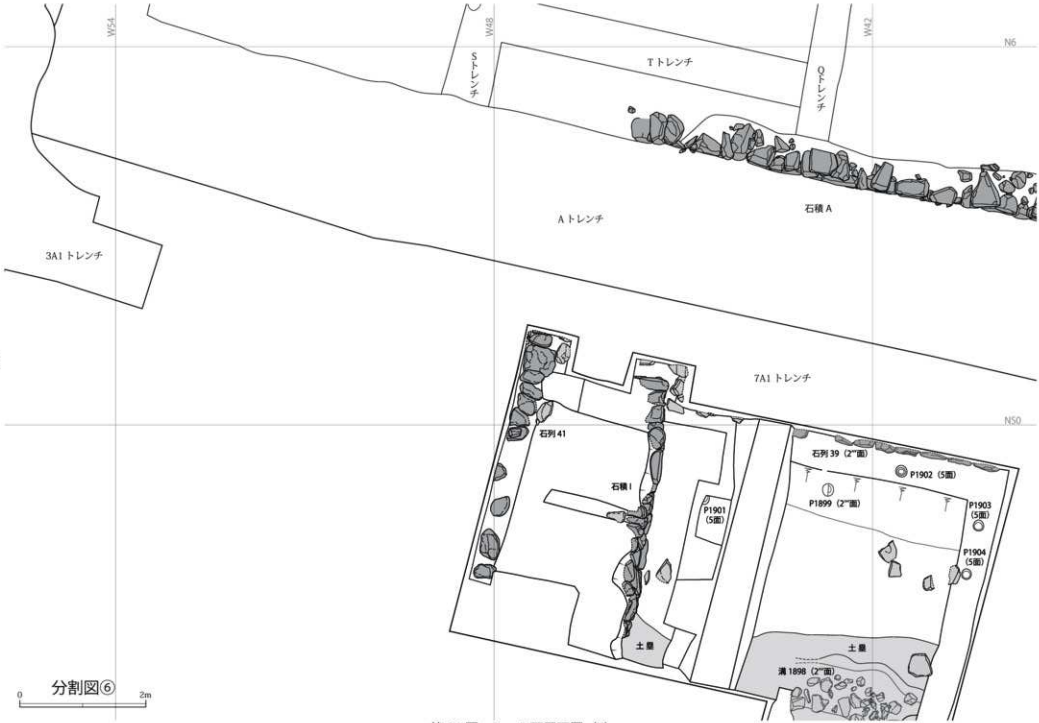
第 18 図　3 ～ 5 面平面図（4）



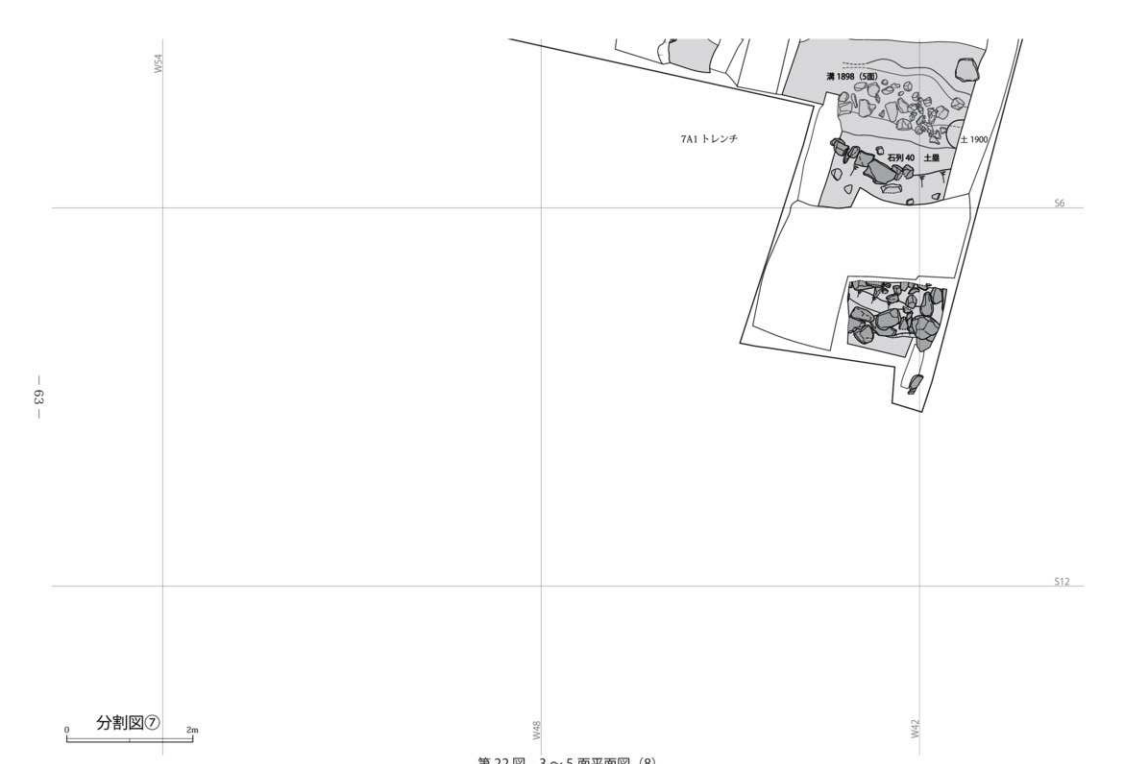
第 19 図　3～5 面平面図（5）



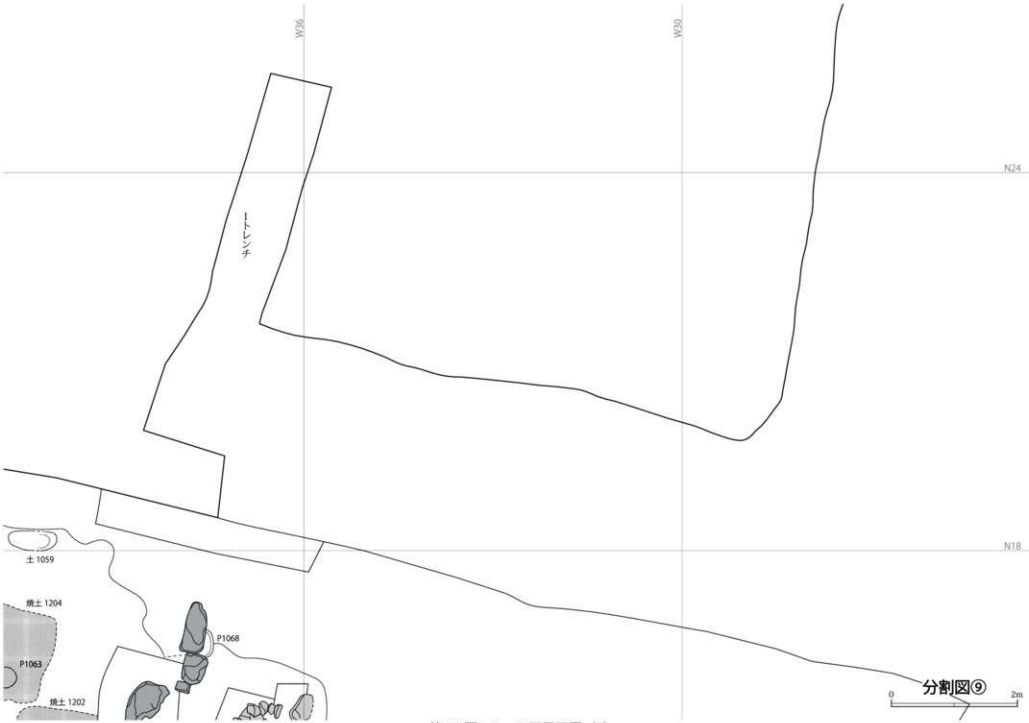
第 20 図　3 ～ 5 面平面図（6）



第 21 図　3～5 面平面図（7）



第 22 図　3 ～ 5 面平面図（8）

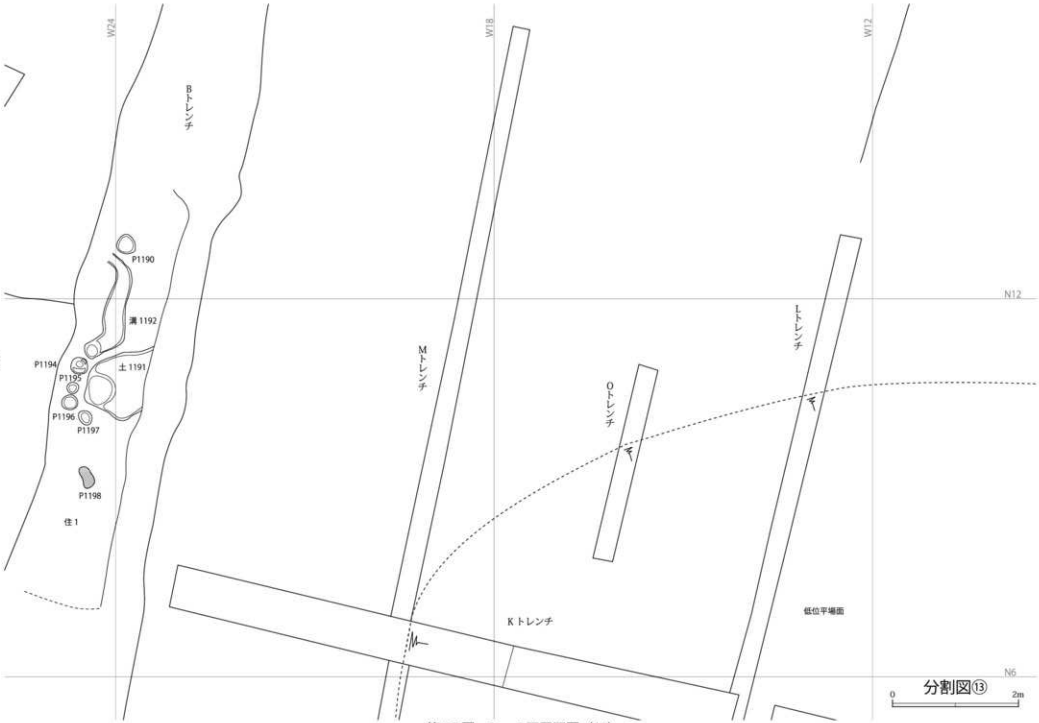


第 23 図　3～5 面平面図（9）

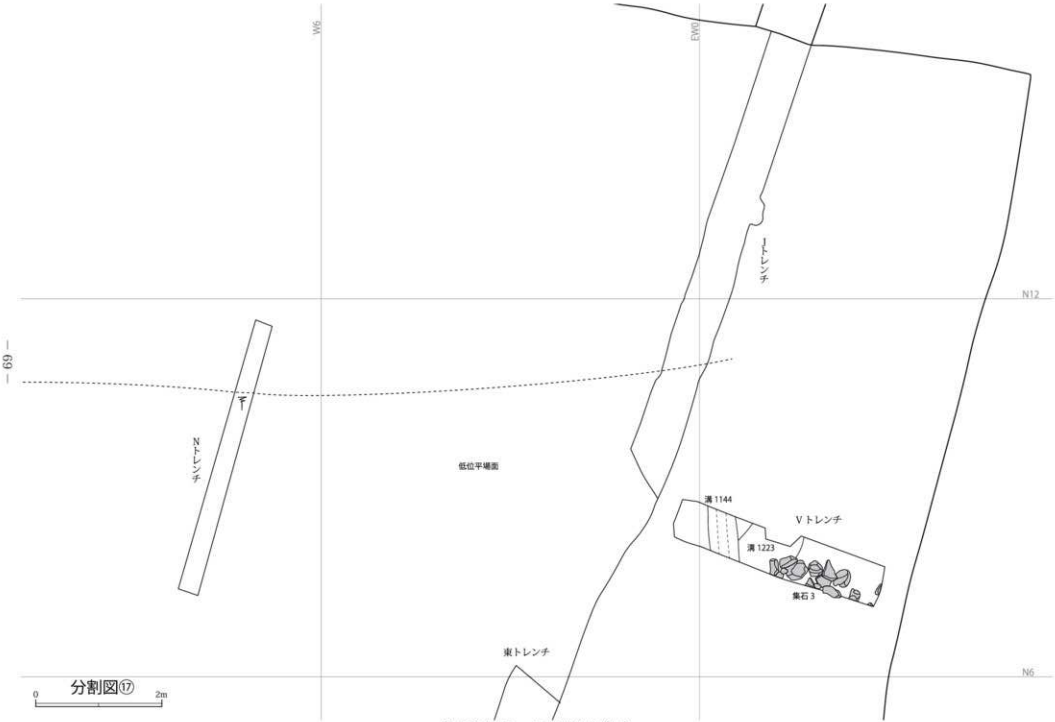
第 24 図　3 ～ 5 面平面図（10）

第 25 図　3 ～ 5 面平面図（11）

第 26 図　3 ～ 5 面平面図（12）

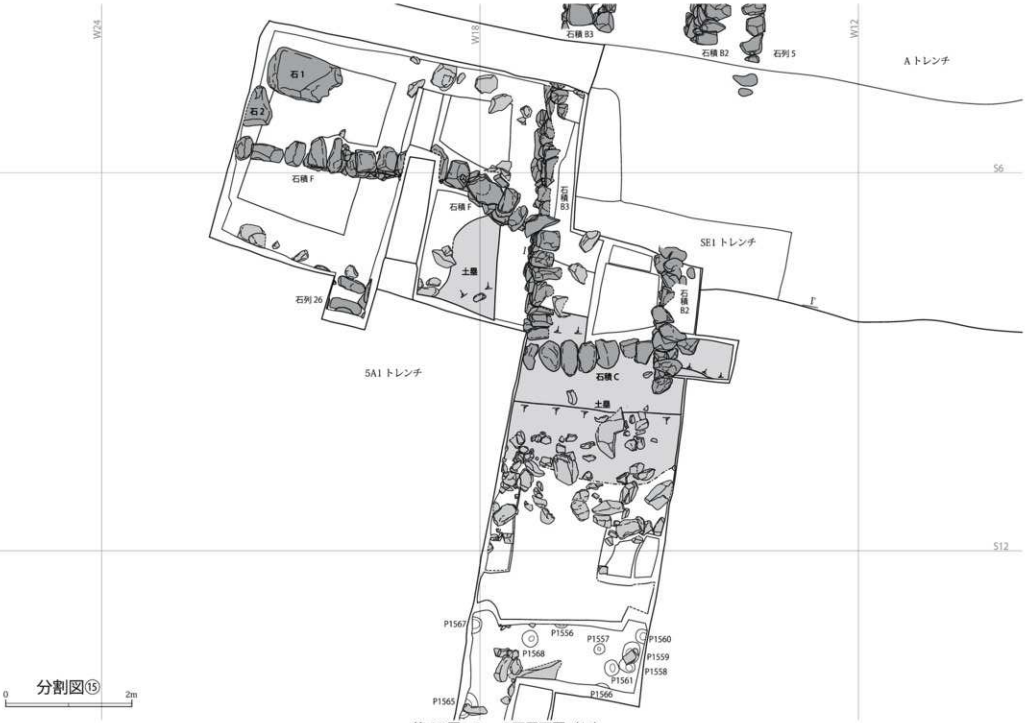


第 27 図　3 ～ 5 面平面図（13）

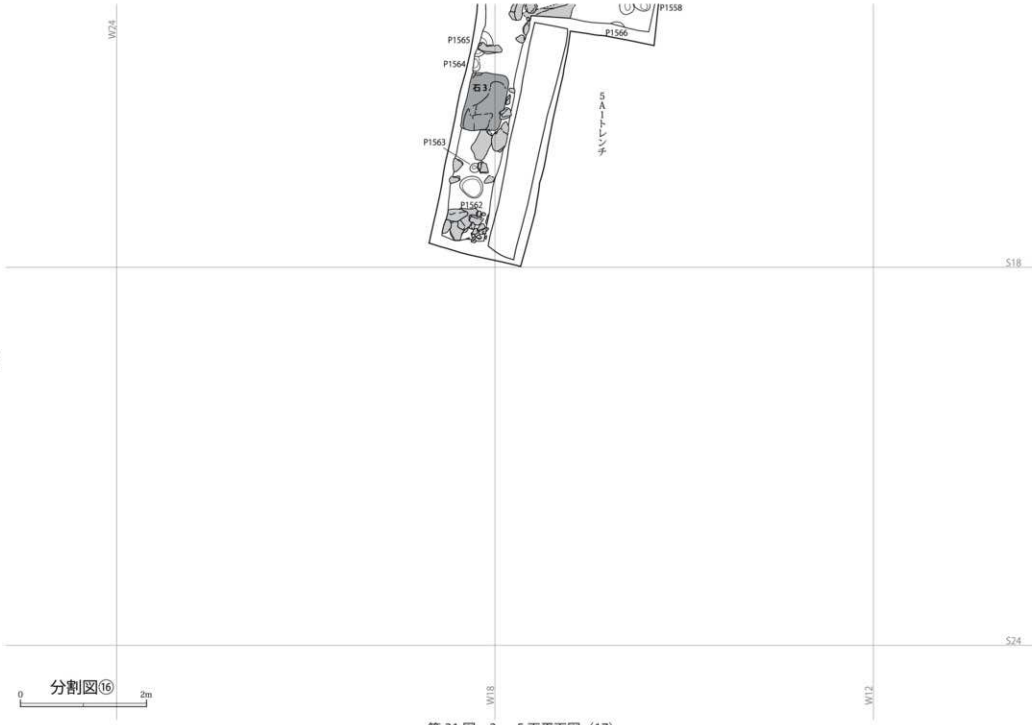


第28図　3～5面平面図（14）

第 29 図　3 ～ 5 面平面図（15）



第 30 図　3 ～ 5 面平面図（16）

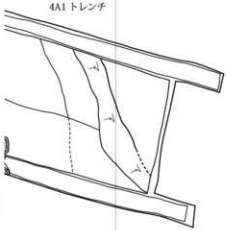


第 31 図　3 ～ 5 面平面図（17）

第32図　3～5面平面図（18）

E6
E12
E18
N6
N50

4A1 トレンチ

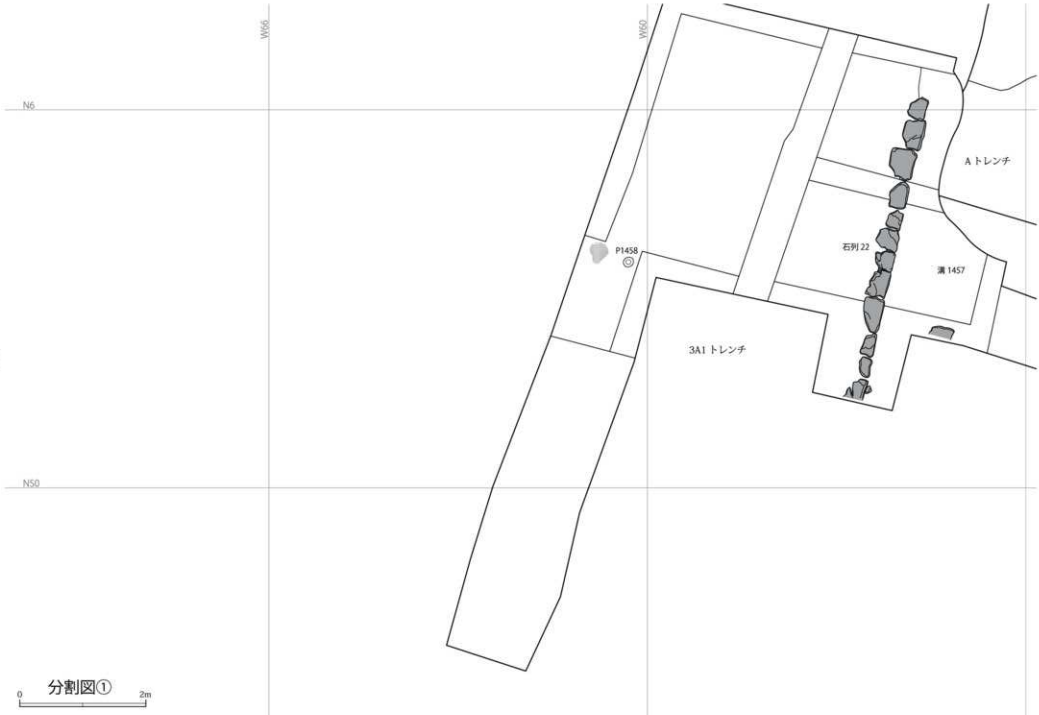


6A1 トレンチ

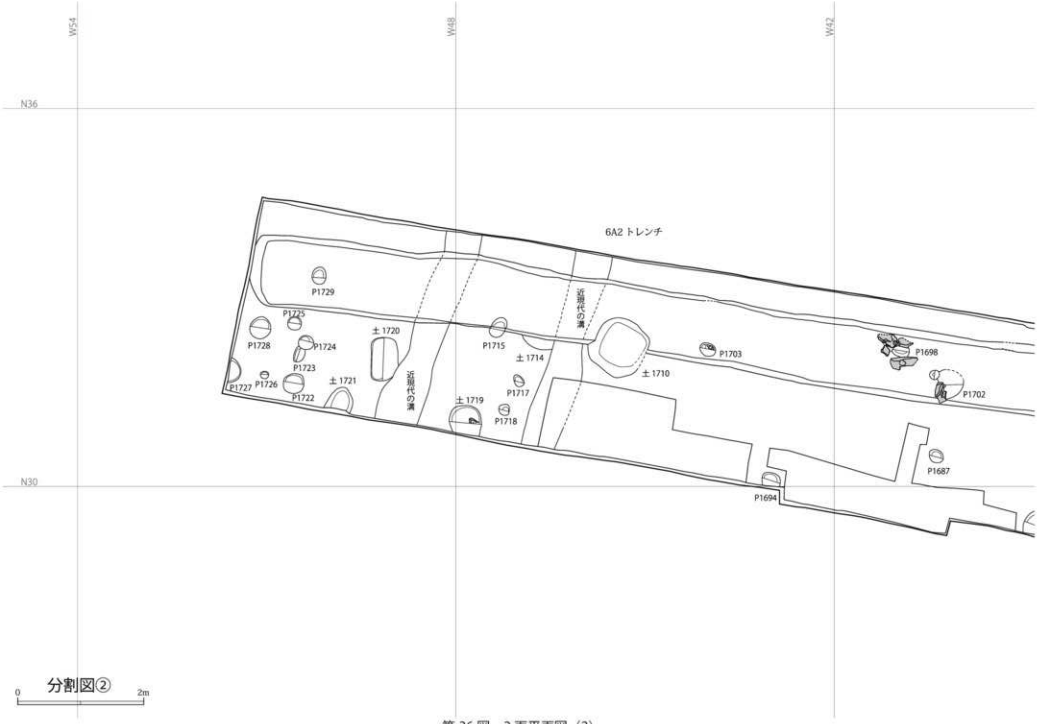
分割図⑲
0 2m

第 33 図　3 ～ 5 面平面図（19）

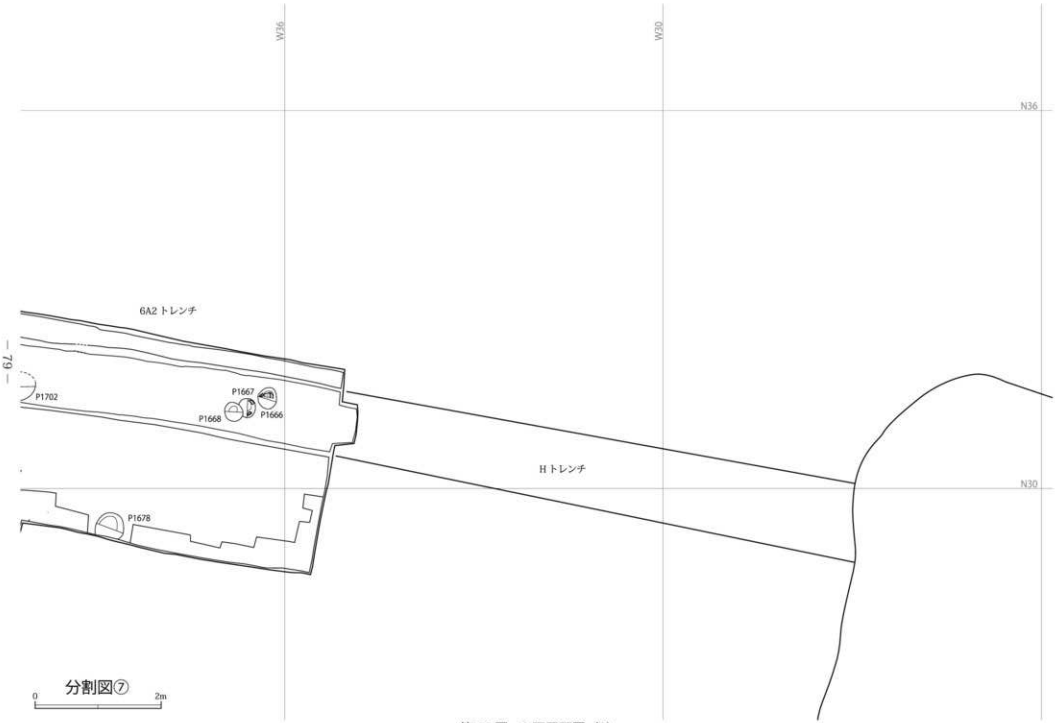
第 34 図　A 区全体図（2 面）



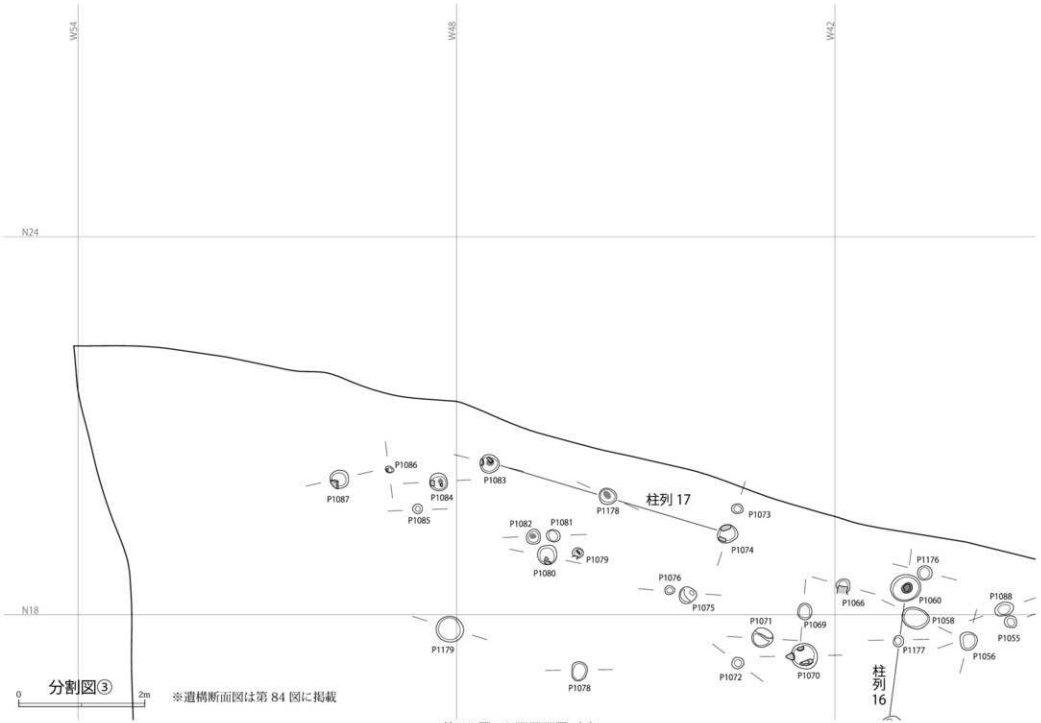
第 35 図　2 面平面図（1）


W54
W48
W42
N36
N30
6A2 トレンチ
P1729
P1725
P1728
P1724
P1723
P1727
P1726
P1722
± 1720
± 1721
近現代の溝
P1715
± 1714
P1717
± 1719
P1718
近現代の溝
P1703
± 1710
P1698
P1702
P1687
P1694
分割図②
0
2m

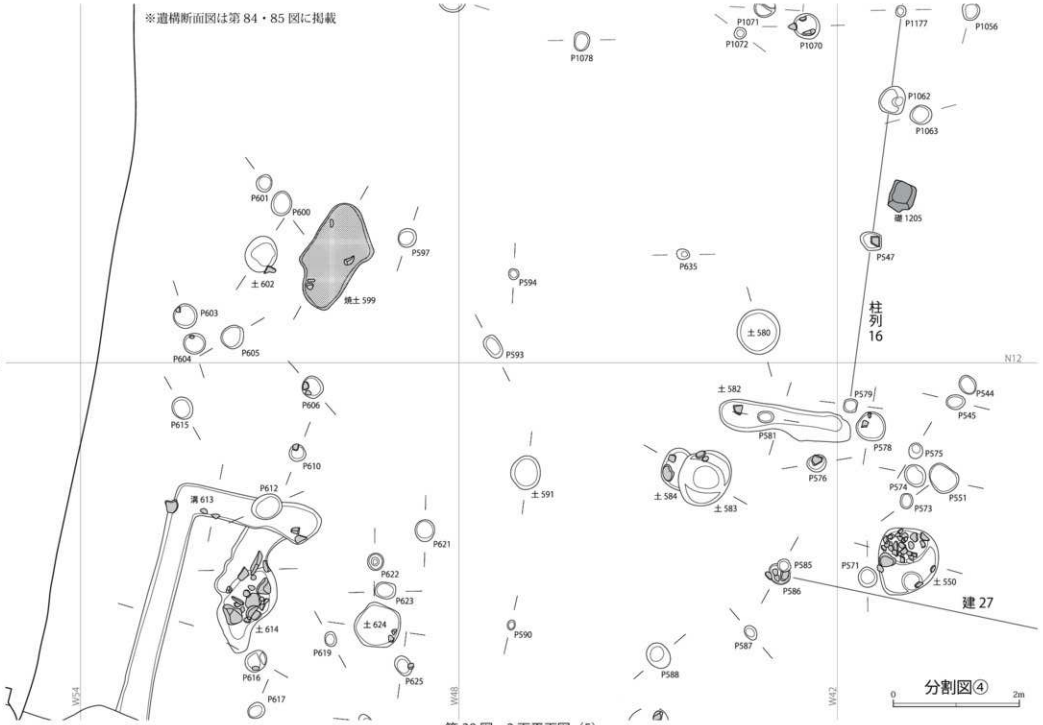
第 36 図　2 面平面図（2）


W36
W30
N36
N30
6A2 トレンチ
H トレンチ
P1702
P1667
P1668
P1666
P1678
分割図⑦
0
2m

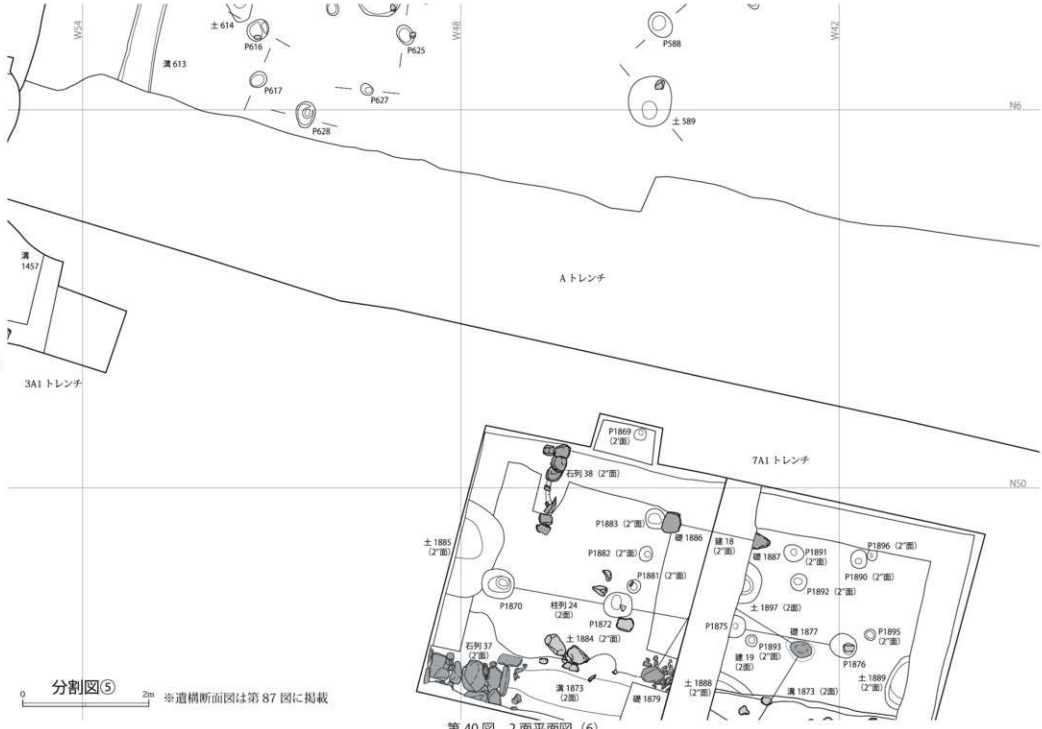
第 37 図　2 面平面図（3）


W54
W48
W42
N24
N18
P1086
P1087
P1084
P1085
P1083
P1178
柱列 17
P1073
P1074
P1082
P1081
P1080
P1079
P1076
P1075
P1176
P1066
P1060
P1088
P1058
P1055
P1071
P1069
P1177
P1056
P1179
P1078
P1072
P1070
柱列 16
分割図③
0
2m
※遺構断面図は第 84 図に掲載

第 38 図　2 面平面図（4）


※遺構断面図は第 84・85 図に掲載
P1071
P1072
P1070
P1177
P1056
P1078
P1062
P1063
P601
P600
P597
P635
P547
土 602
焼土 599
P594
P603
P605
P604
P593
土 580
柱列 16
N12
P606
P615
土 582
P579
P544
P545
P581
P578
P610
P575
P576
P574
P551
P573
土 584
土 583
土 591
P612
溝 613
P621
P622
P623
P585
P571
P586
土 550
建 27
土 614
土 624
P619
P590
P587
P588
P616
P625
P617
W54
W48
W42
分割図④
0
2m

第 39 図　2 面平面図（5）

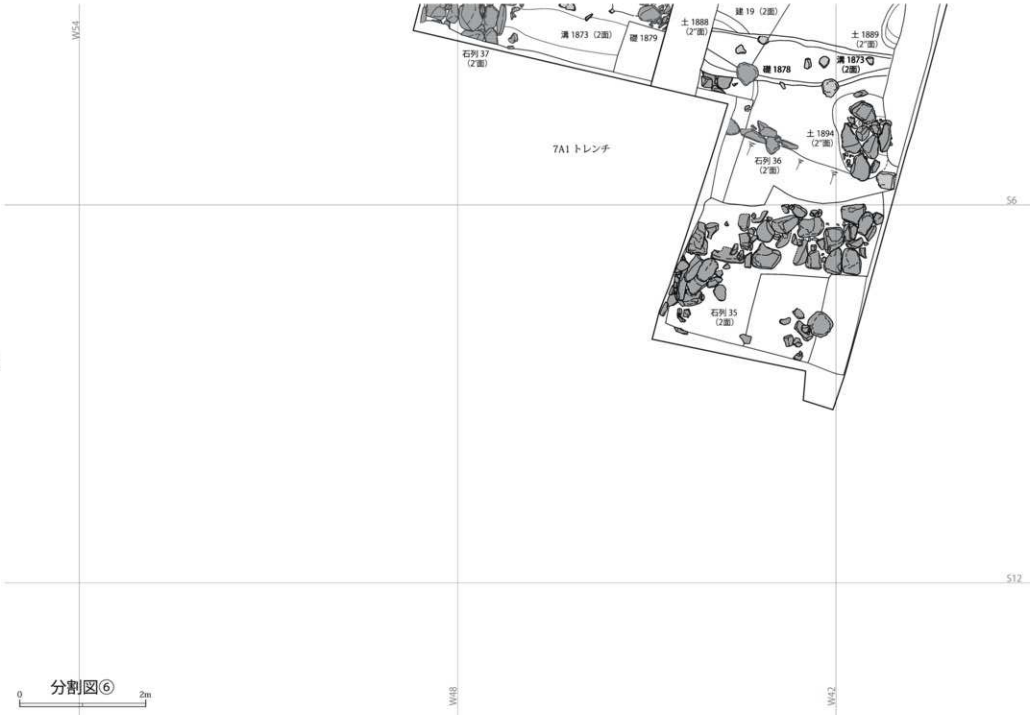


分割図⑤

0 2m

※遺構断面図は第87図に掲載

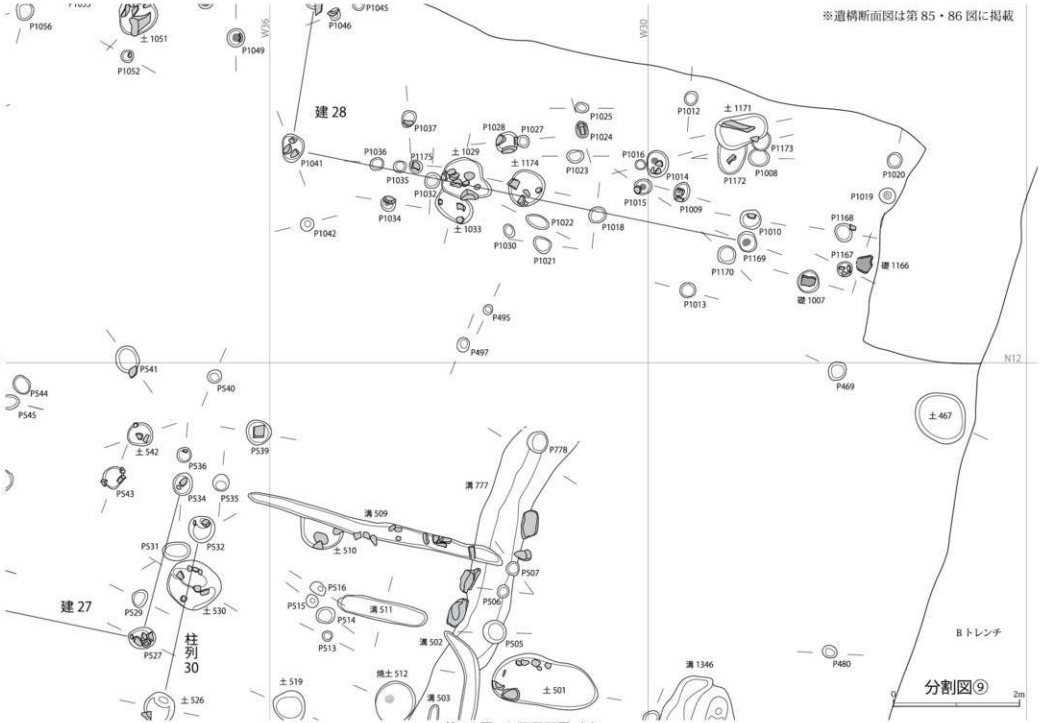
第40図　2面平面図（6）


W54
W48
W42
S6
S12
7A1 トレンチ
石列 37
(2面)
溝 1873 (2面)
礎 1879
土 1888
(2面)
建 19 (2面)
土 1889
(2面)
礎 1878
溝 1873
(2面)
土 1894
(2面)
石列 36
(2面)
石列 35
(2面)
分割図⑥
0
2m

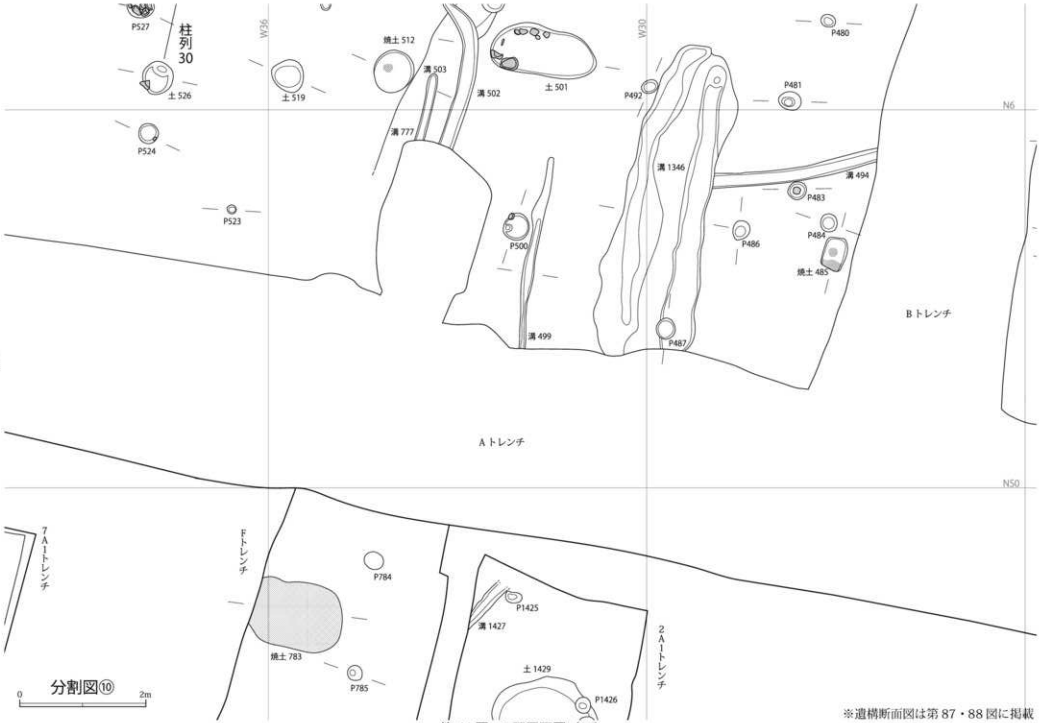
第 41 図　2 面平面図（7）

W36
W30
N24
N18
トレンチ
P1088
P1055
P1056
P1054
P1053
土1051
P1052
P1049
P1047
P1045
P1046
※遺構断面図は第 85・86 図に掲載
分割図⑧
0
2m

第 42 図　2 面平面図（8）

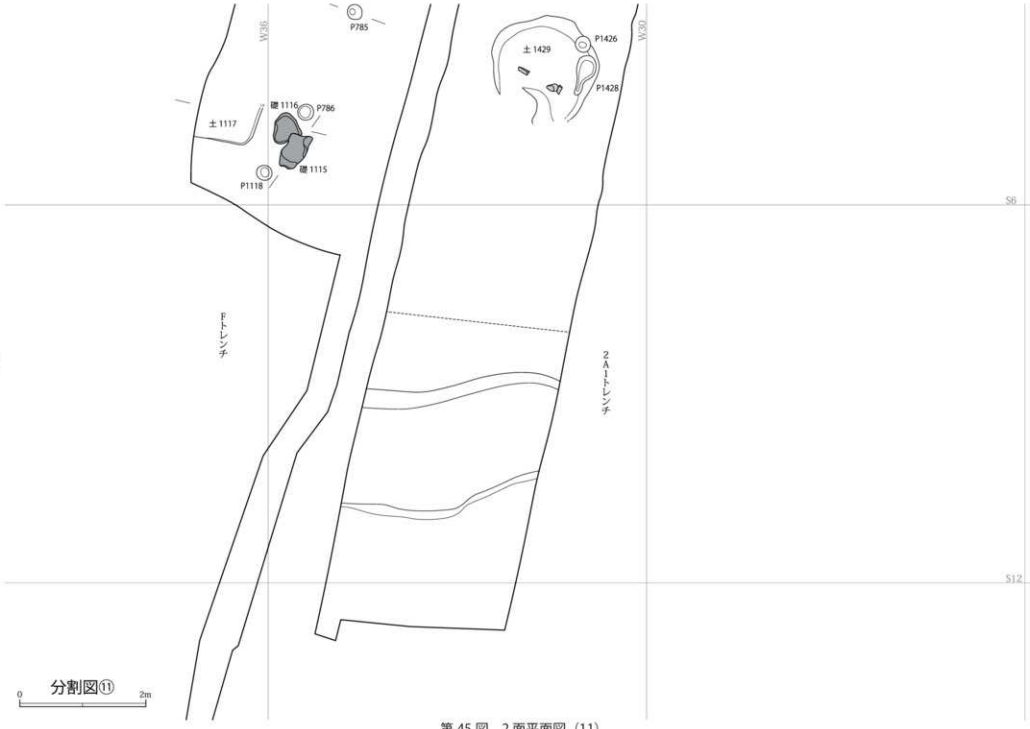

※遺構断面図は第 85・86 図に掲載
建 28
建 27
柱列 30
P1056
± 1051
P1052
P1049
P1045
P1046
W36
W30
P1041
P1042
P1037
P1028
P1027
P1025
P1024
P1036
P1035
P1175
± 1029
± 1174
P1023
P1016
P1014
P1015
P1009
P1034
P1032
± 1033
P1030
P1022
P1018
P1021
P1012
± 1171
P1173
P1172
P1008
P1020
P1019
P1168
P1010
P1169
P1170
P1167
礎 1166
礎 1007
P1013
P495
P497
P541
P540
P544
P545
P539
± 542
P536
P543
P534
P535
P531
P532
P529
± 530
P527
± 526
P778
溝 777
溝 509
± 510
P507
P516
P515
溝 511
P514
P513
P506
溝 502
P505
± 519
焼土 512
溝 503
± 501
溝 1346
P469
± 467
N12
P480
B トレンチ
分割図⑨
0
2m

第 43 図　2 面平面図（9）

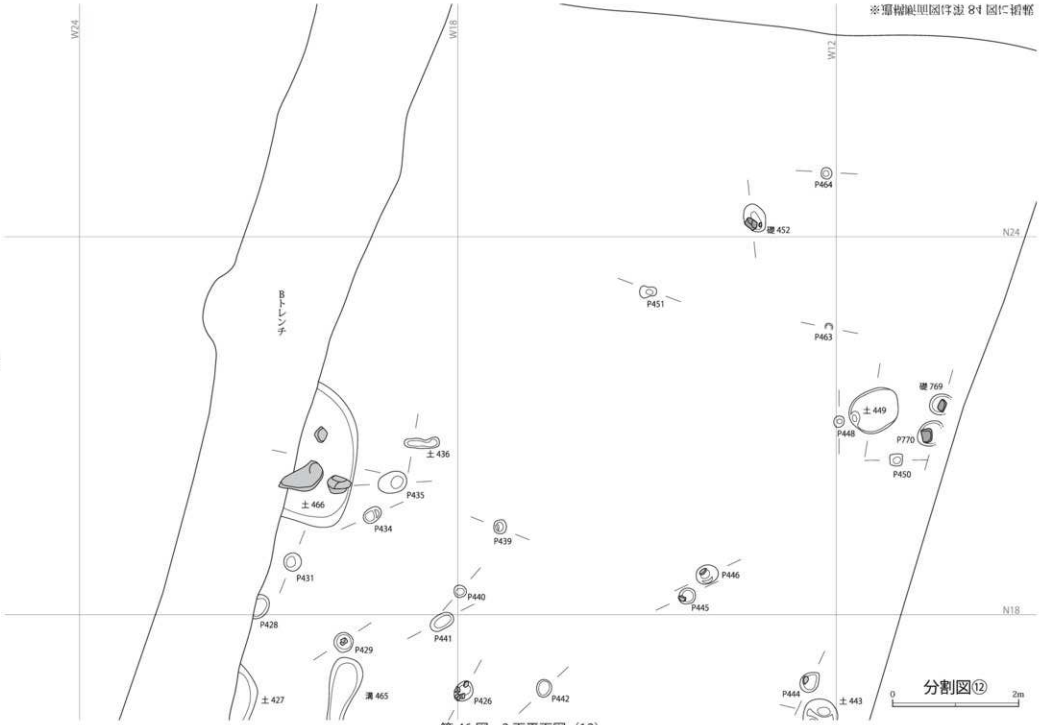


第44図　2面平面図（10）

※遺構断面図は第87・88図に掲載

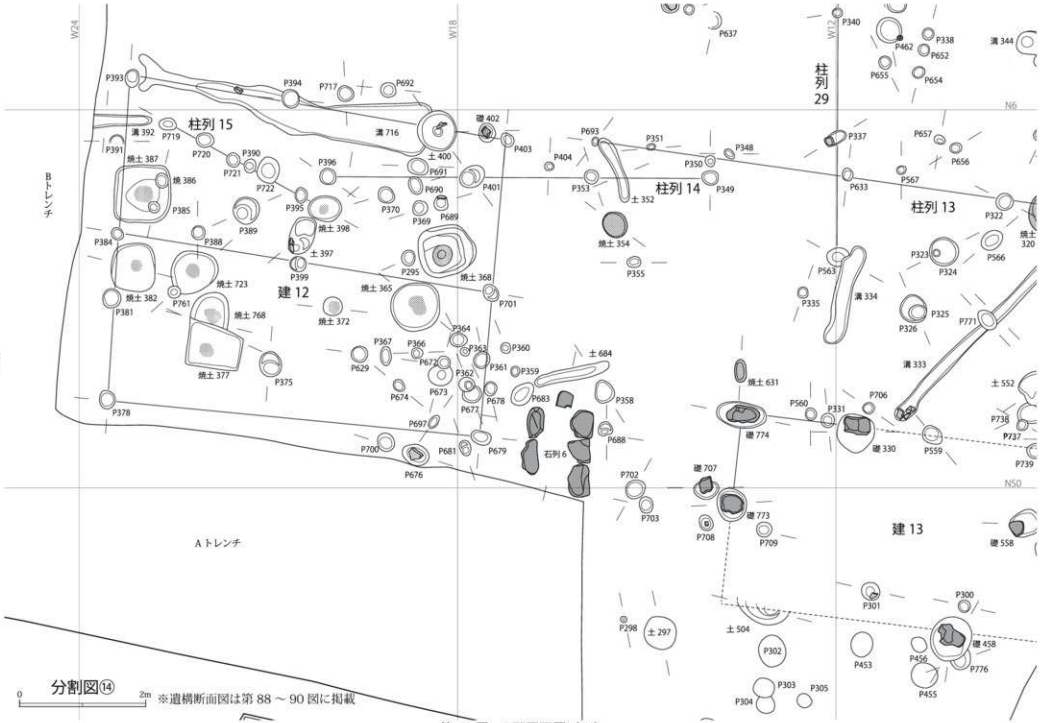


第 45 図　2 面平面図（11）



第 46 図　2 面平面図（12）

第47図　2面平面図（13）



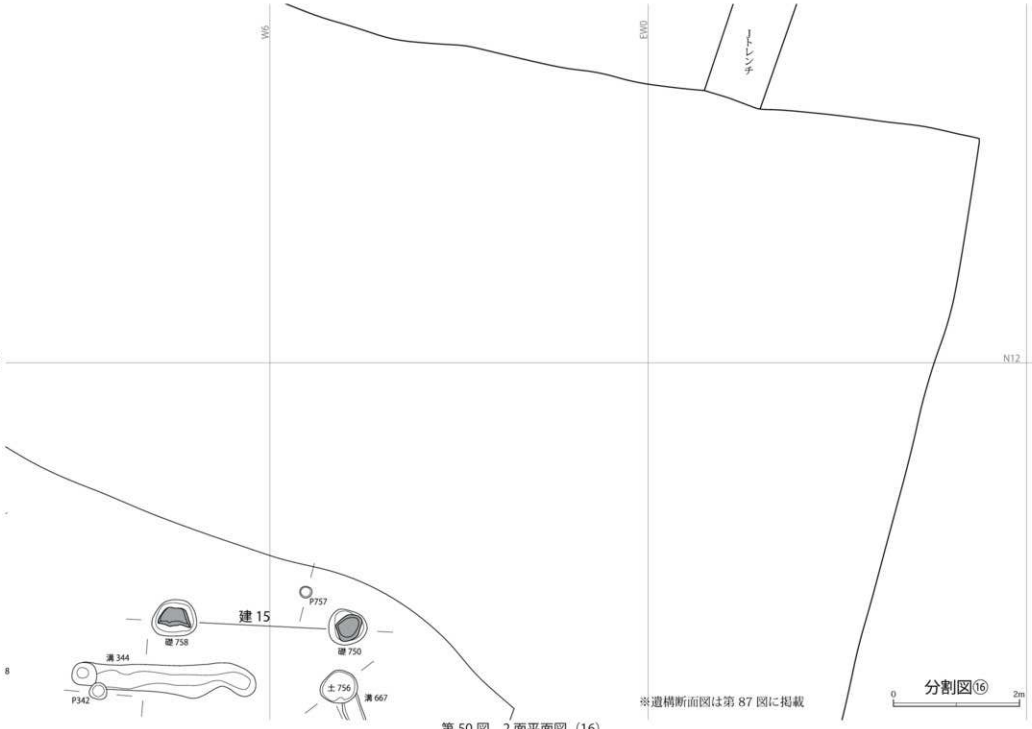
分割図⑭

0 2m

※遺構断面図は第 88 ～ 90 図に掲載

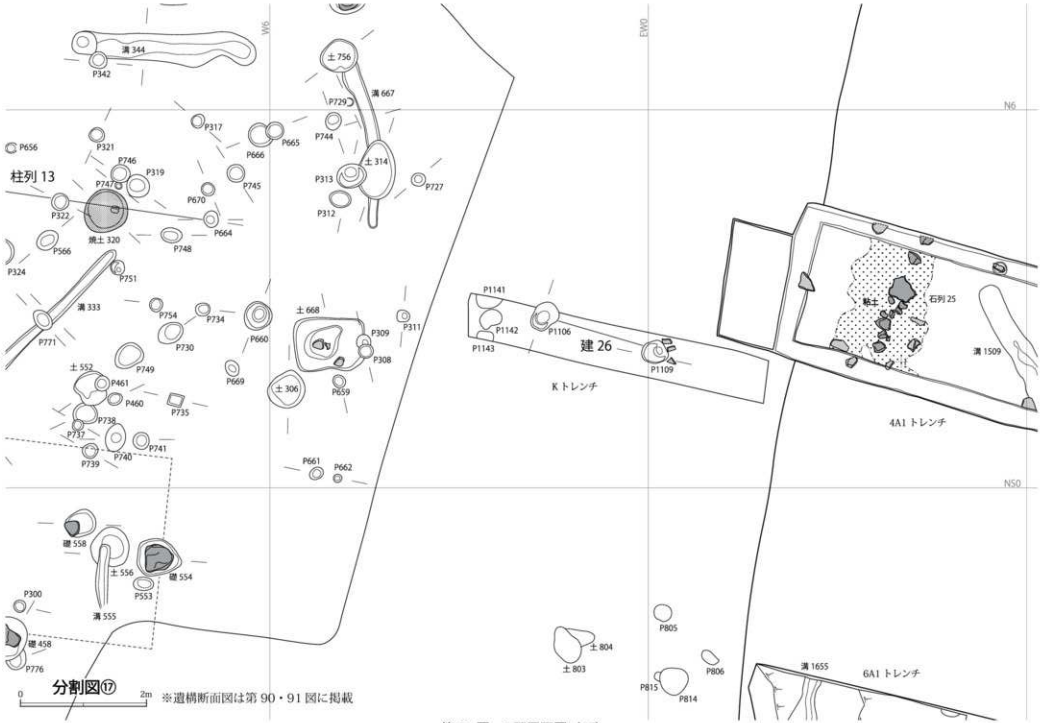
第 48 図　2 面平面図（14）

第 49 図　2 面平面図（15）

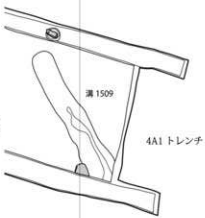


※遺構断面図は第 87 図に掲載

第 50 図　2 面平面図（16）



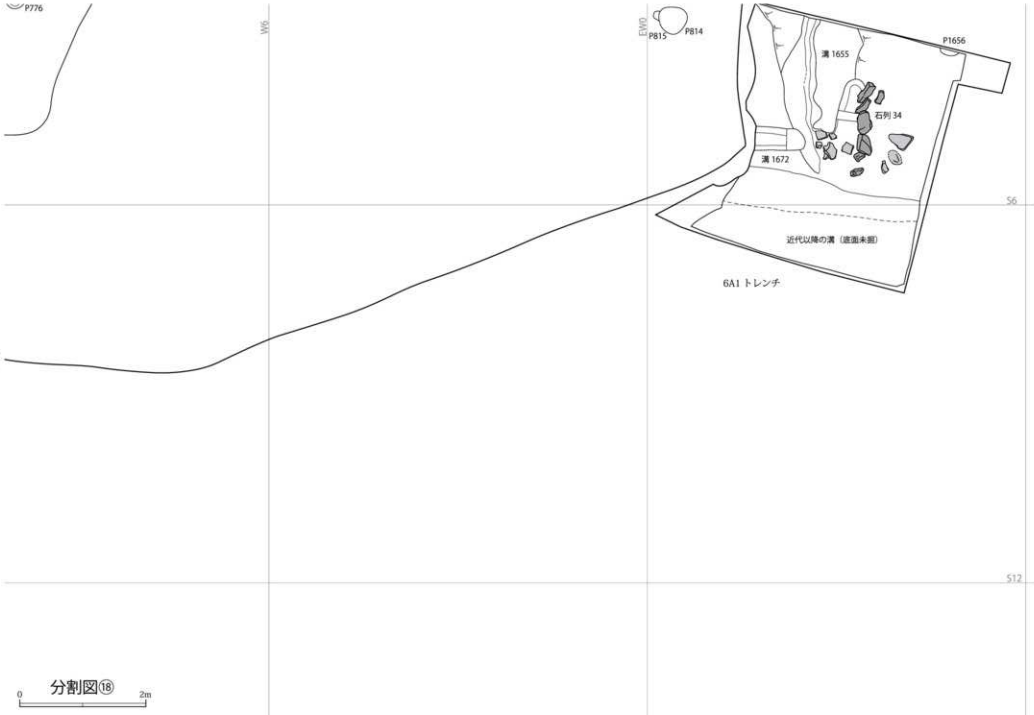
第 51 図　2 面平面図（17）



E6
E12
E18
N6
N50

分割図⑲
0
2m

第 52 図　2 面平面図（18）



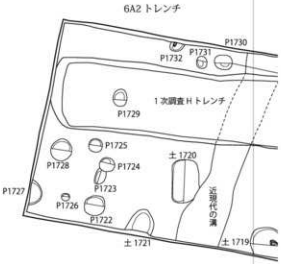
第 53 図　2 面平面図（19）

W50

W54

W48

N30

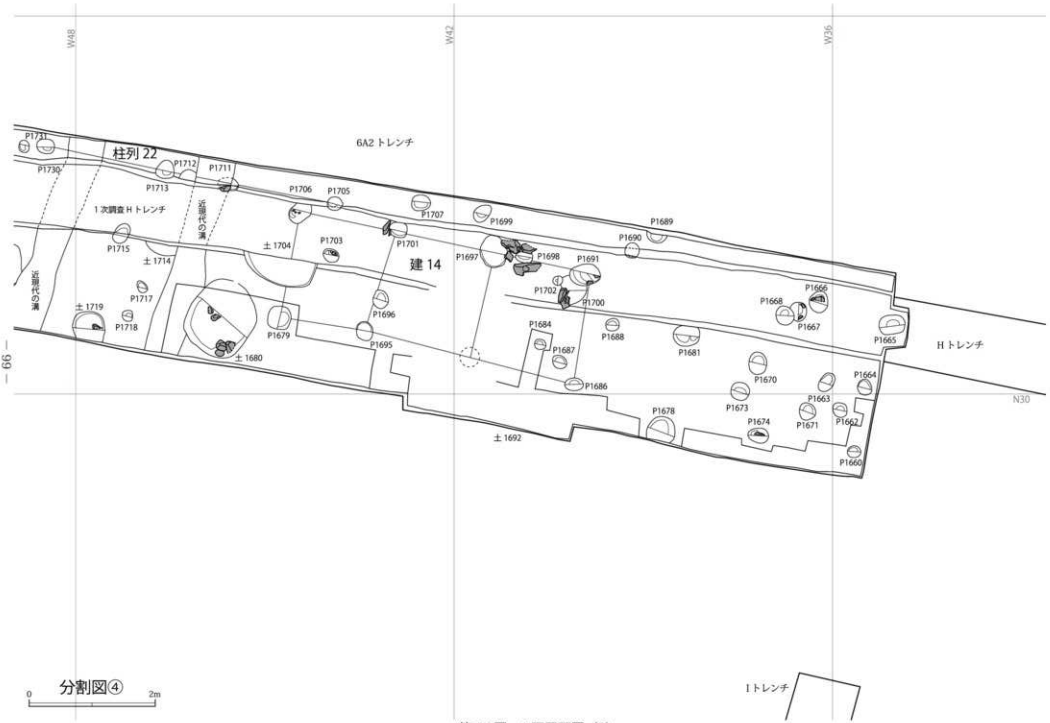


分割図①

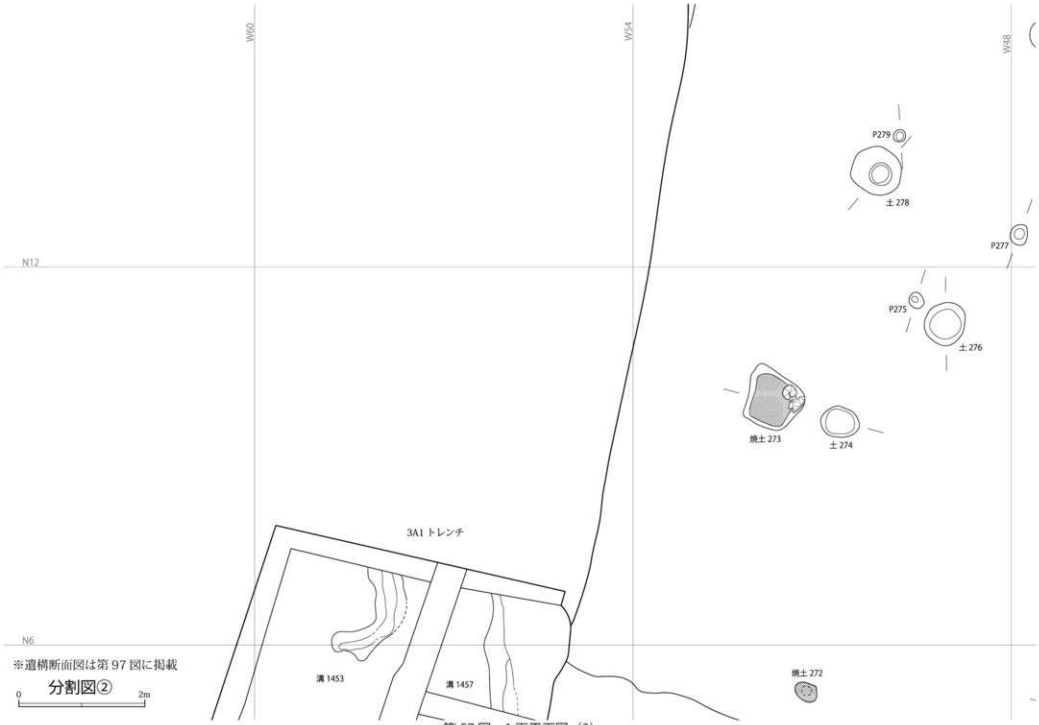
0 2m

第 54 図　1 面平面図（1）

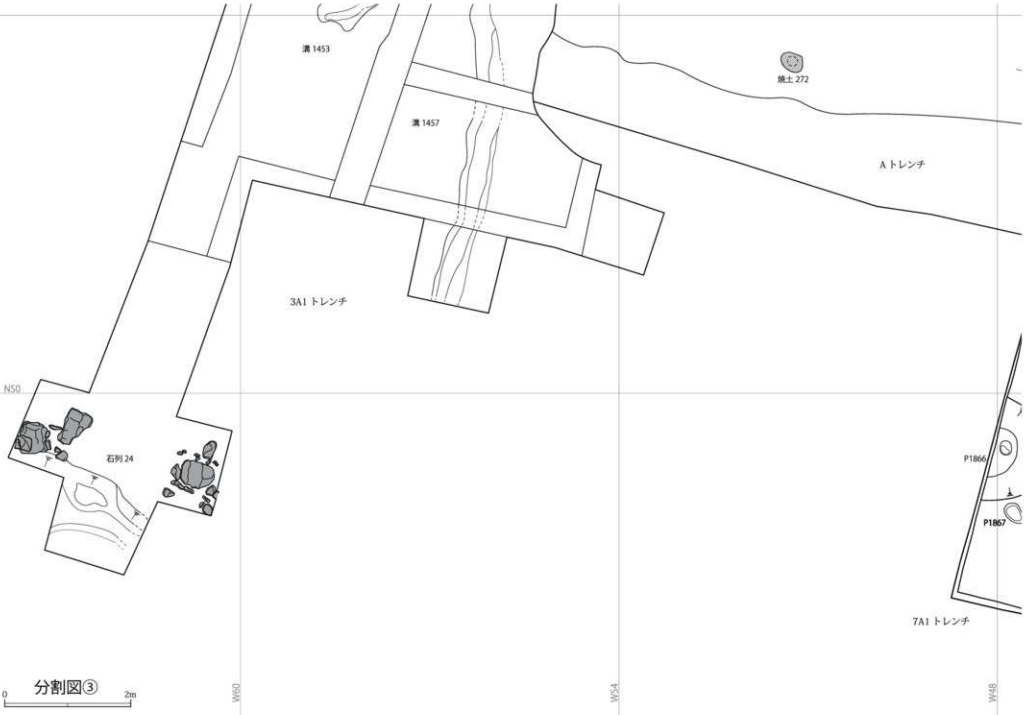
第55図　A区全体図（1面）


W48
W42
W36
6A2 トレンチ
柱列 22
1 次調査 H トレンチ
近現代の溝
建 14
H トレンチ
I トレンチ
N30
P1731
P1730
P1712
P1711
P1713
P1706
P1705
P1707
P1699
P1689
P1690
P1715
P1703
P1701
P1697
P1698
P1691
P1702
P1700
P1666
P1668
P1667
P1665
P1717
P1718
P1719
P1679
P1696
P1695
P1684
P1687
P1688
P1681
P1686
P1670
P1664
P1673
P1663
P1678
P1674
P1671
P1662
P1660
± 1714
± 1704
± 1680
± 1692
分割図④
0
2m

第 56 図　1 面平面図（2）

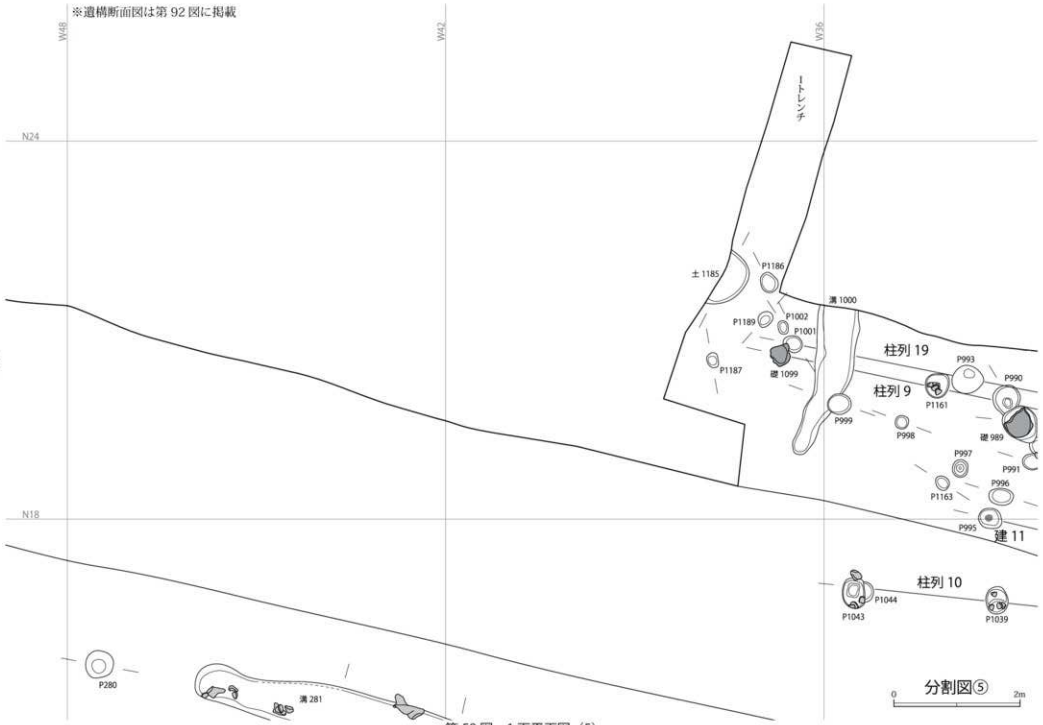

W60
W54
W48
N12
N6
P279
土 278
P277
P275
土 276
焼土 273
土 274
3A1 トレンチ
溝 1453
溝 1457
焼土 272
※遺構断面図は第 97 図に掲載
分割図②
0
2m

第 57 図　1 面平面図（3）

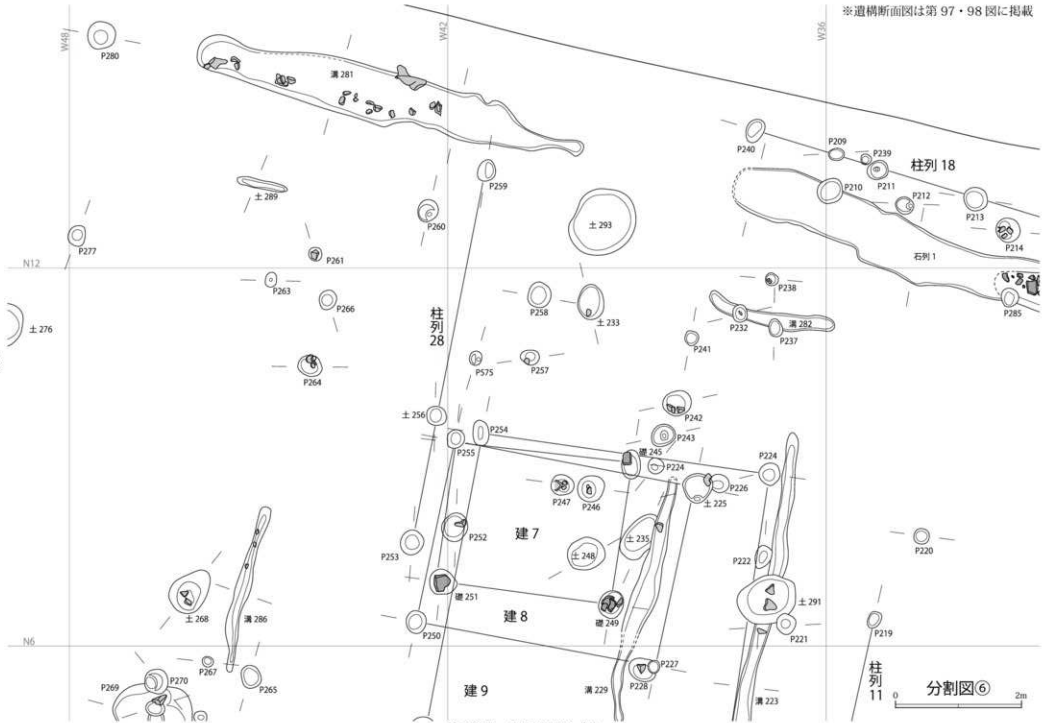

溝 1453
溝 1457
焼土 272
Aトレンチ
3A1 トレンチ
N50
石列 24
P1866
P1867
7A1 トレンチ
分割図③
0
2m
W60
W54
W48

第 58 図　1 面平面図（4）

※遺構断面図は第 92 図に掲載

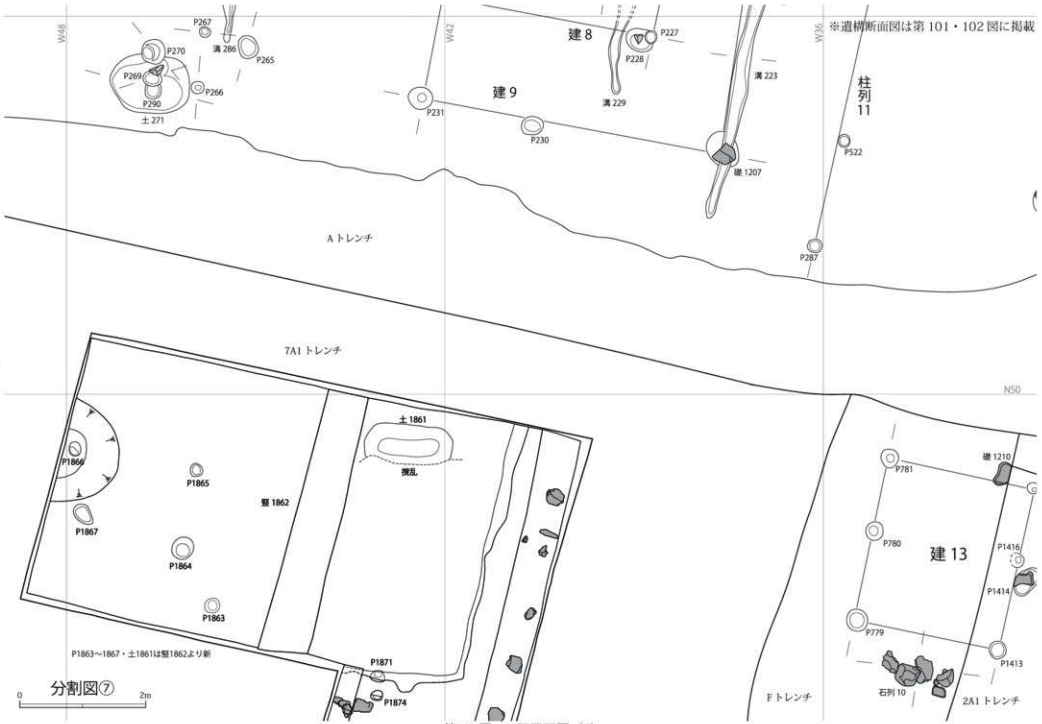


第 59 図　1 面平面図（5）


※遺構断面図は第97・98図に掲載
W48
W42
W36
N12
N6
P280
溝281
P277
±289
P259
P260
±293
P240
P209
P239
柱列18
P210
P211
P212
P213
P214
石列1
P285
P261
P263
P266
P258
±233
P238
P232
溝282
P237
P241
柱列28
±276
P264
P575
P257
±256
P254
P255
P242
P243
溝245
P224
P247
P246
P226
±225
建7
P252
P253
±248
±235
P222
P220
溝251
建8
P249
±291
P221
P219
P250
P227
P228
溝229
溝223
柱列11
P268
溝286
P269
P270
P267
P265
建9
分割図⑥
0
2m
103

第60図　1面平面図（6）

※遺構断面図は第 101・102 図に掲載



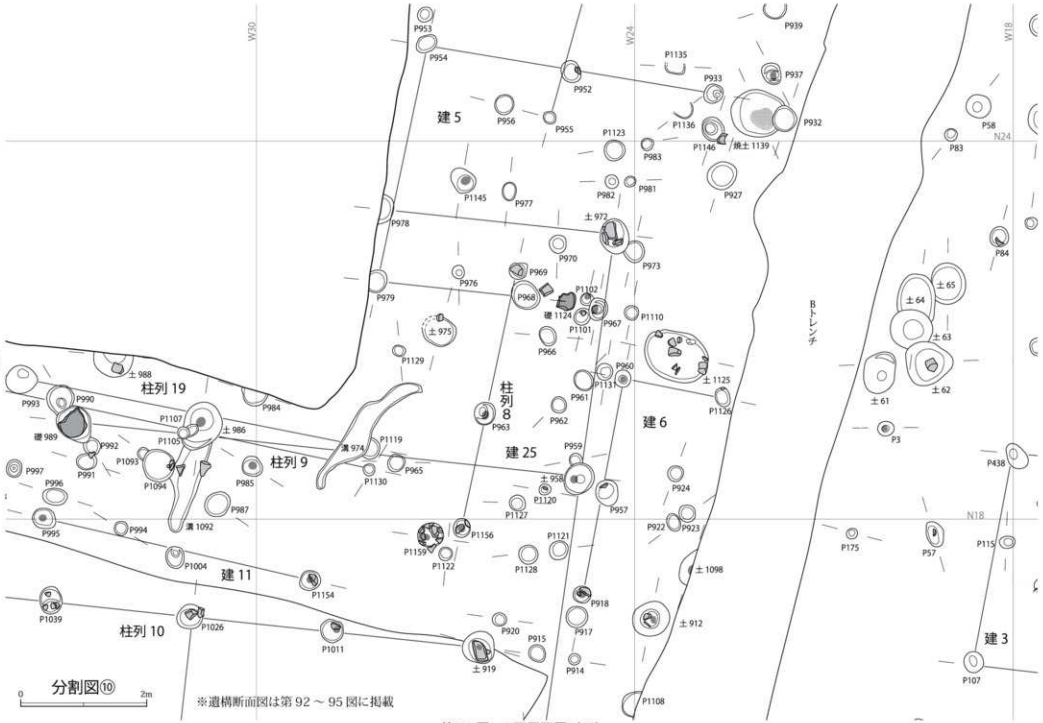
第 61 図　1 面平面図（7）

W48
W42
W36
P1871
P1874
P1413
石列 10
S6
S12
F トレンチ
7A1 トレンチ
2A1 トレンチ
分割図⑧
0
2m

第 62 図　1 面平面図（8）

W30
W24
W18
N30
Hトレンチ
Bトレンチ
P941
P1134
土1132
P1133
P947
P944
P943
P946
土945
P942
P948
柱列7
P936
P950
P939
P953
P954
建5
P952
P1135
P937
分割図⑨
0
2m
※遺構断面図は第91図に掲載

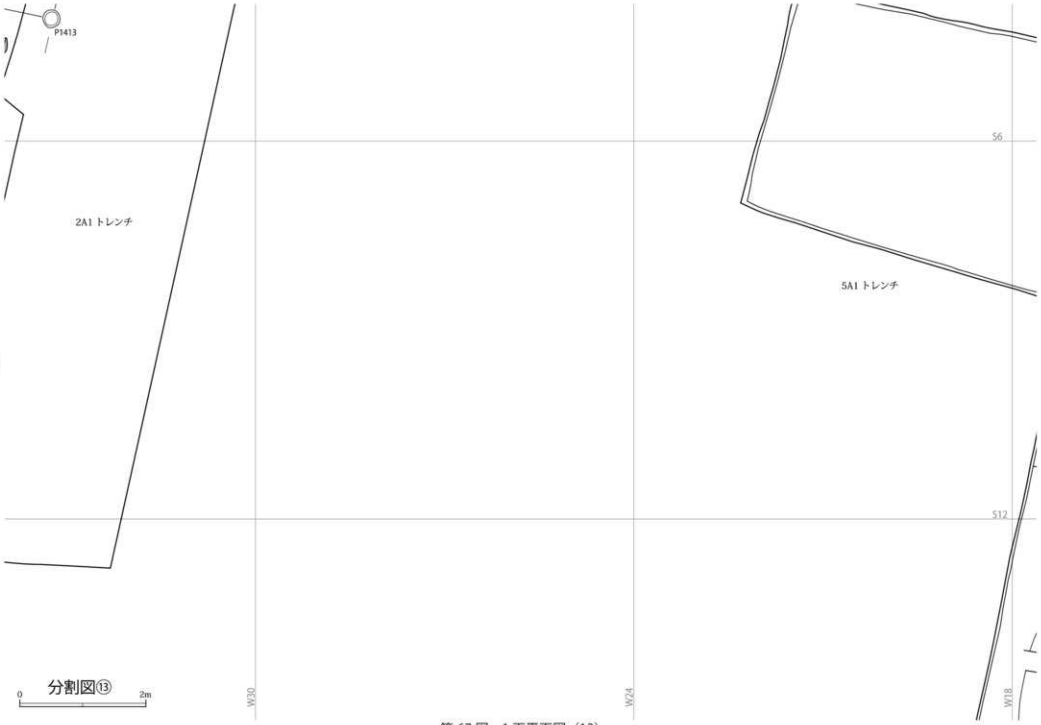
第63図　1面平面図（9）



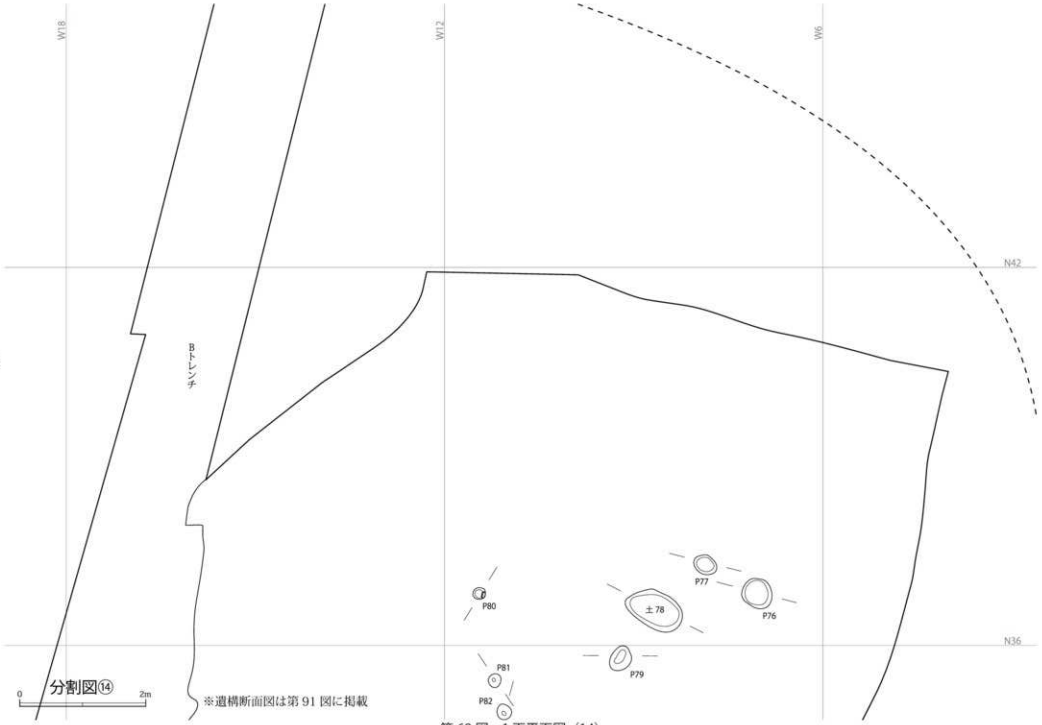
第64図　1面平面図（10）

第 65 図　1 面平面図（11）

第 66 図　1 面平面図（12）



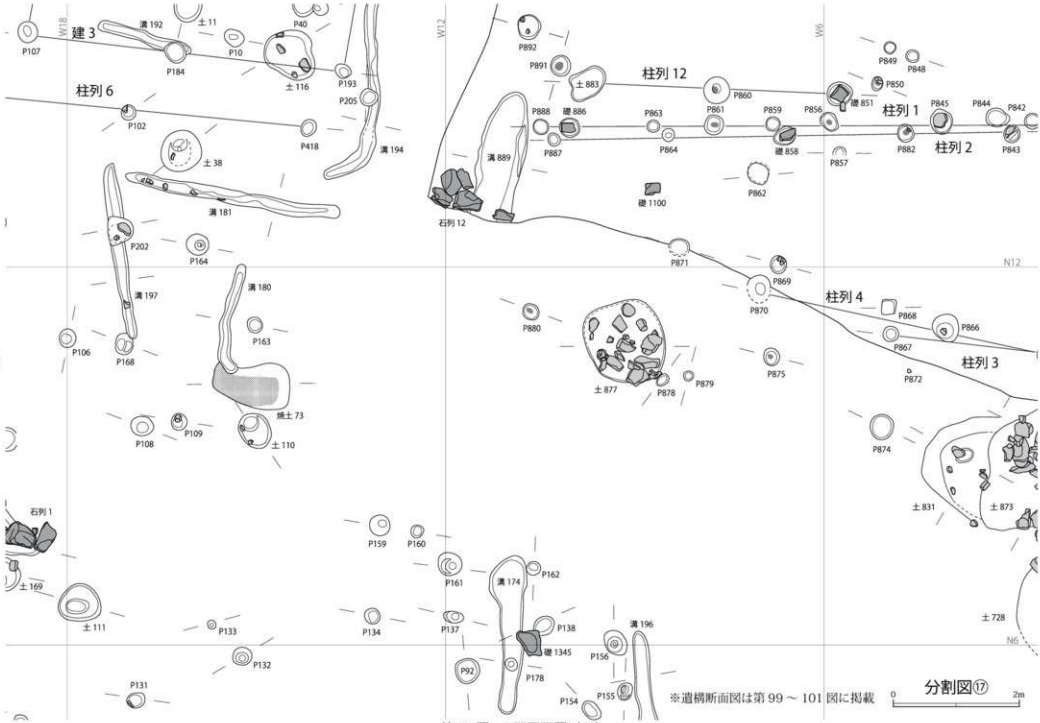
第 67 図　1 面平面図（13）



第 68 図　1 面平面図（14）

第 69 図　1 面平面図（15）

第70図　1面平面図（16）

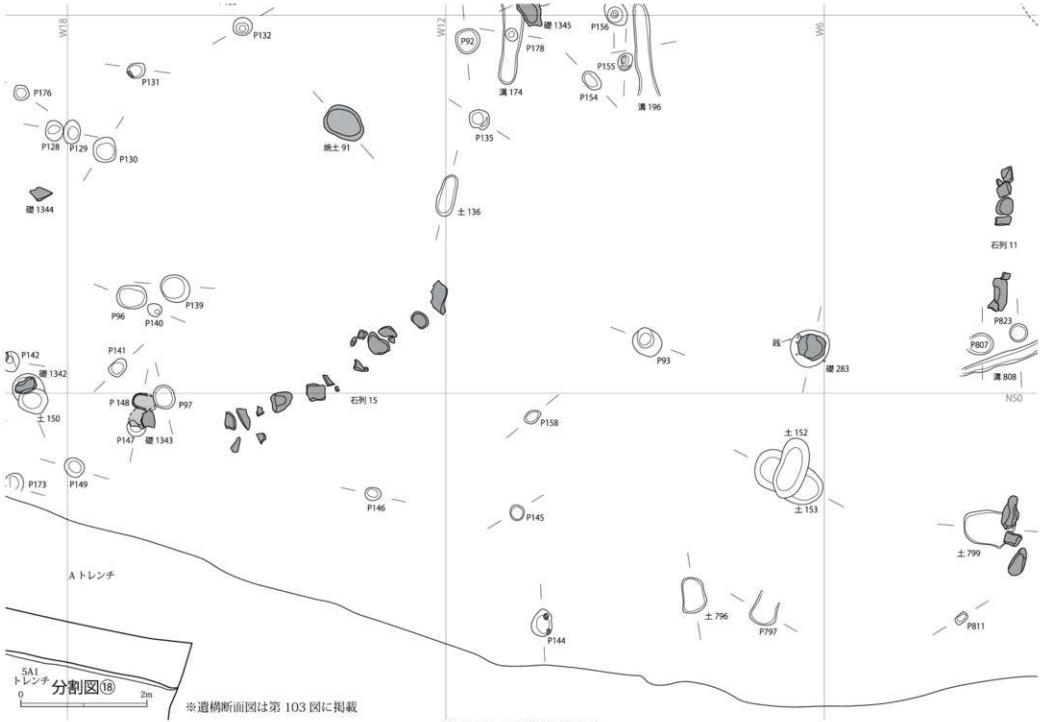


※遺構断面図は第99～101図に掲載

分割図⑰

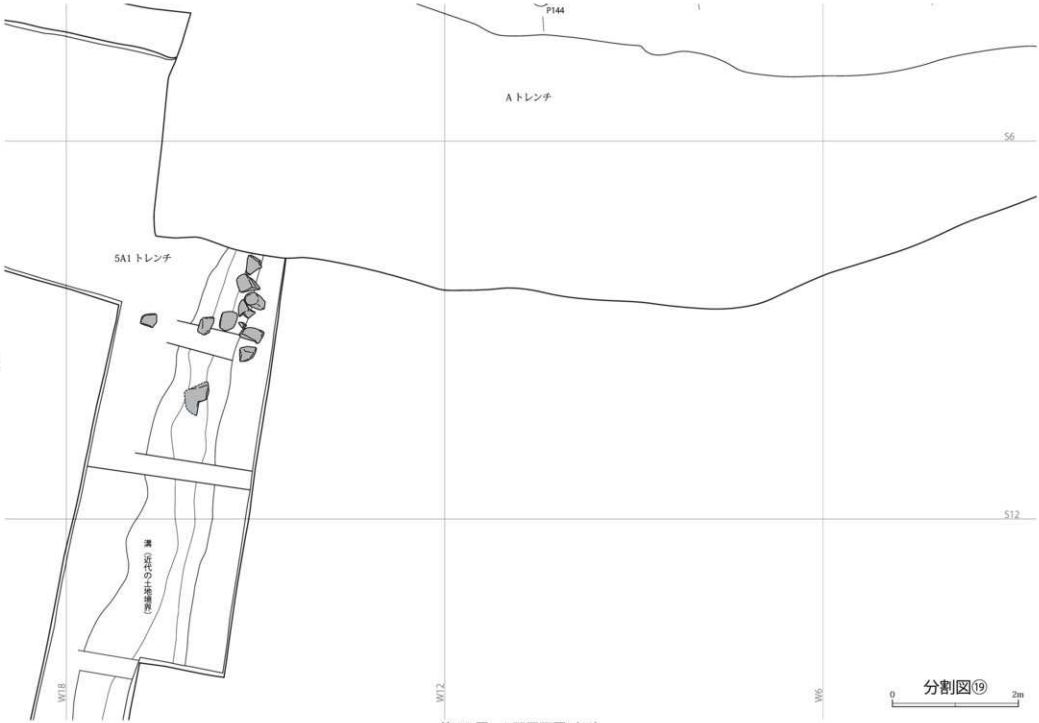
0 2m

第71図　1面平面図（17）



※遺構断面図は第 103 図に掲載

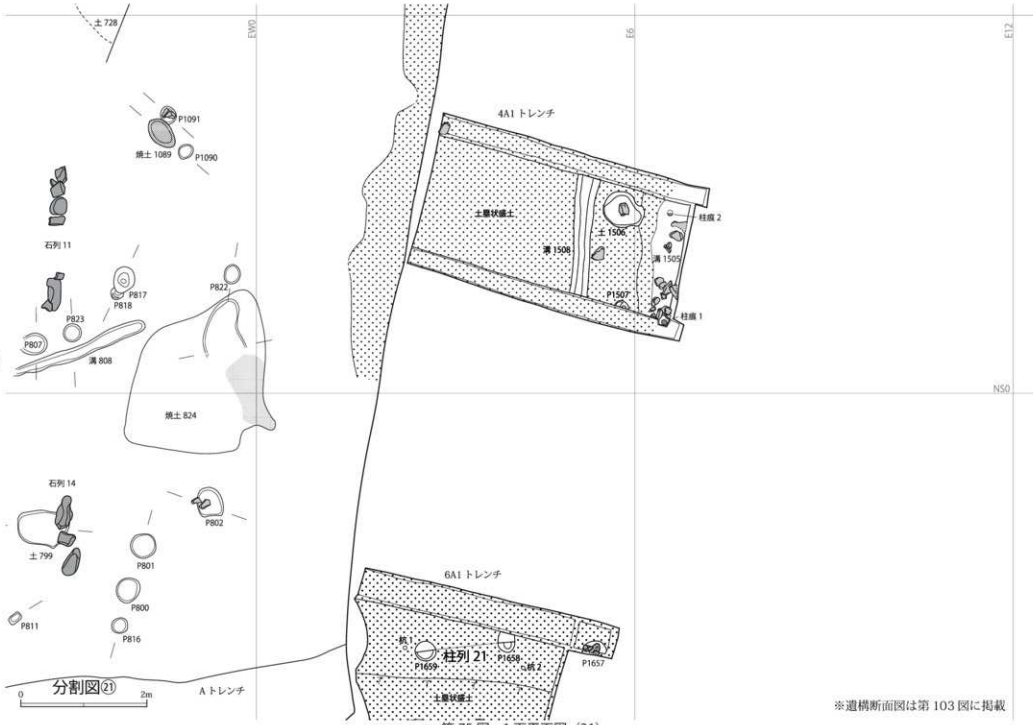
第 72 図　1 面平面図（18）



第 73 図　1 面平面図（19）

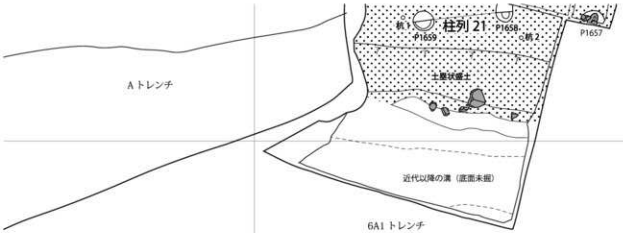
※遺構断面図は第 101 図に掲載

第 74 図　1 面平面図（20）



※遺構断面図は第 103 図に掲載

第 75 図　1 面平面図（21）



S6

S12

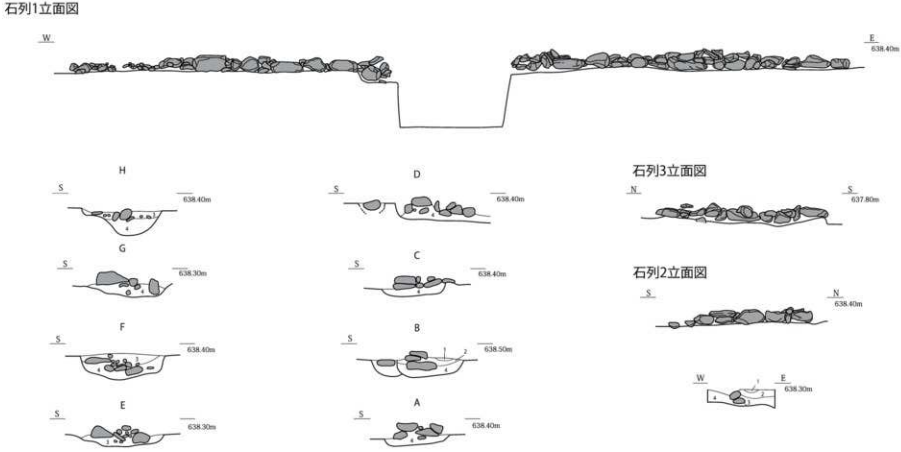
— 119 —

分割図㉒
0
2m

EW0

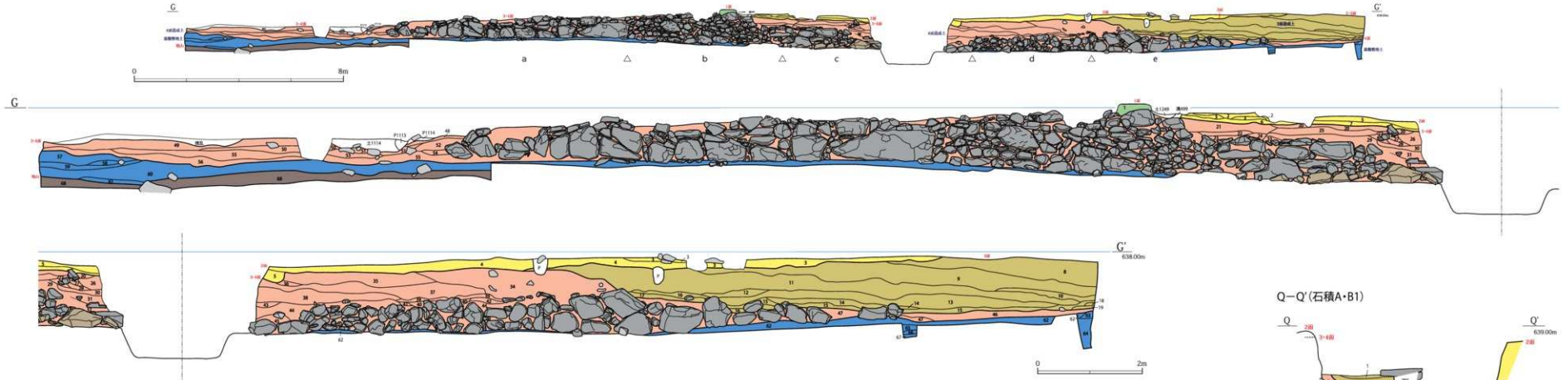
S6

第 76 図　1 面平面図（22）

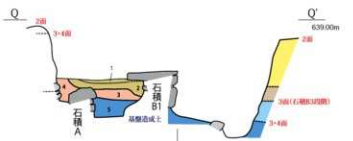


第 77 図　石列 1 平面図・断面図

G－G′（石積A）



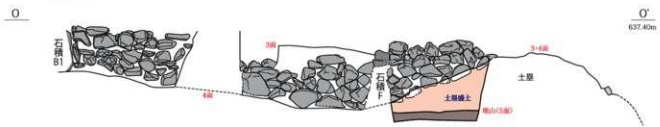
Q－Q′（石積A・B1）



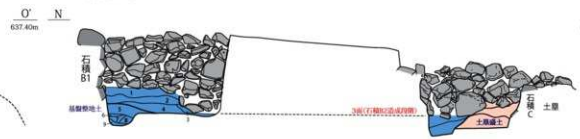
H－H′（石積B1）

P－P′（石積A・B1）

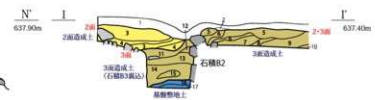
O－O′（石積B2）



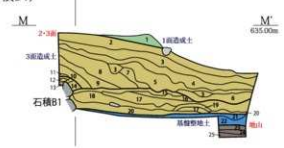
N－N′（石積B3）



I－I′



M－M′（石積B1）

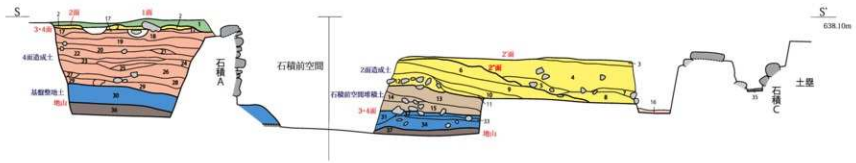


第 78 図　石積断面図・立面図（1）

R－R′（Fトレンチ・石列13）

J－J′（Fトレンチ・石積C）

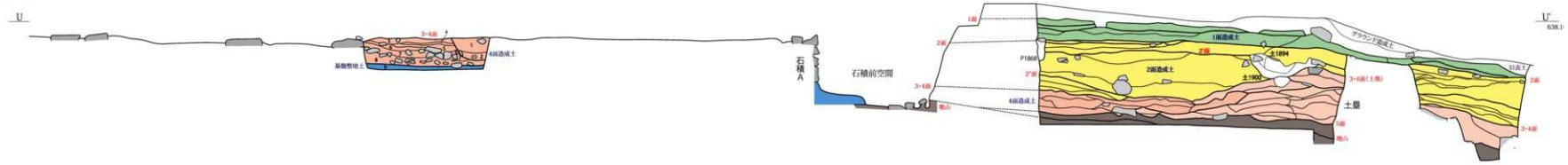
S－S′



T－T′（石列8南北面）

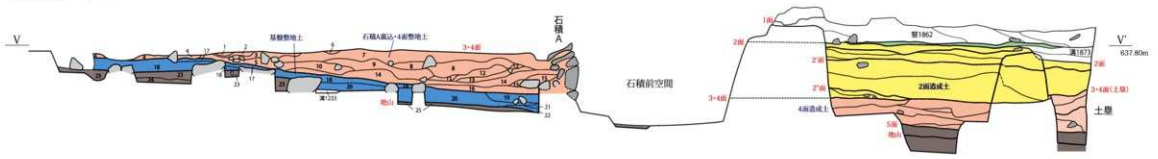
L－L′（石列8東西面）

U－U′



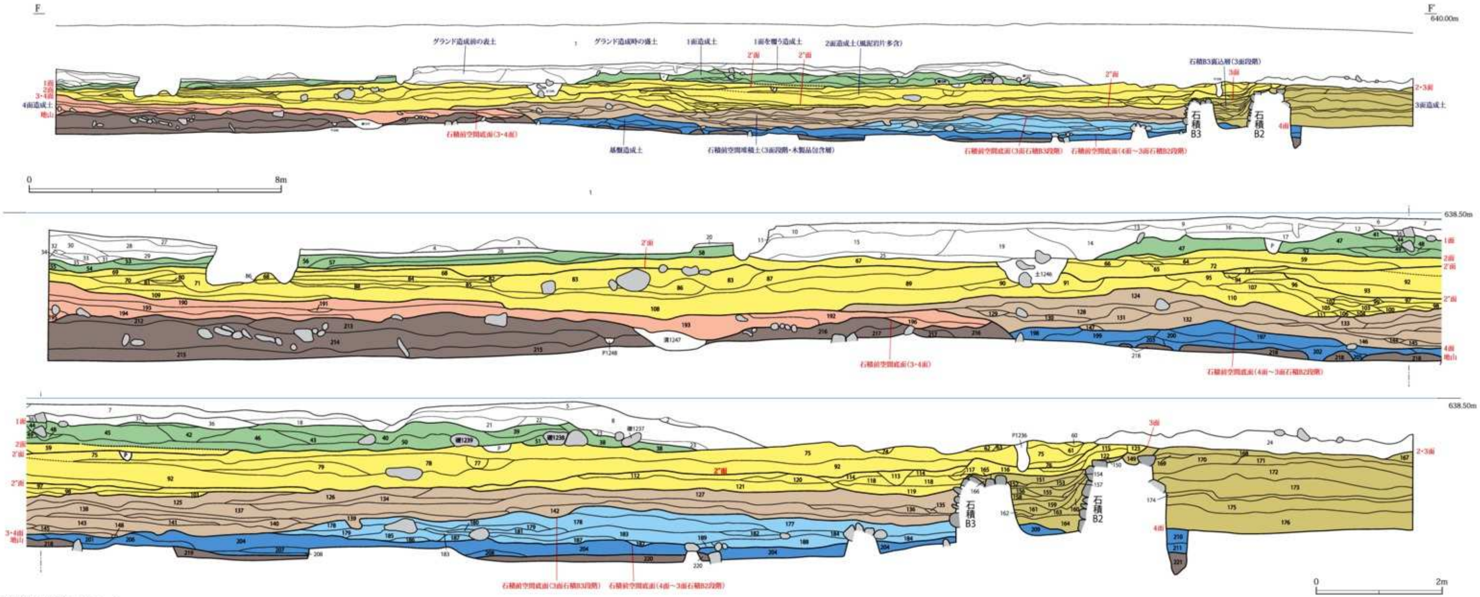
K－K′（石列4）

Qトレンチ　V－V′

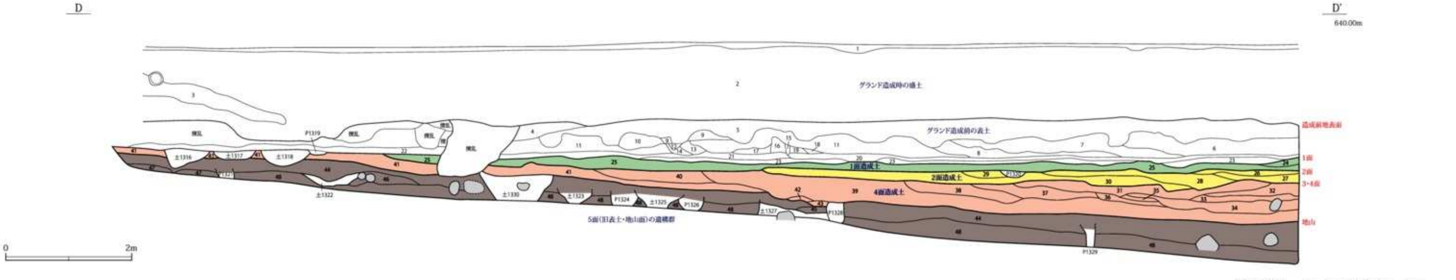


第 79 図　石積断面図・立面図 (2)

Aトレンチ南壁セクション

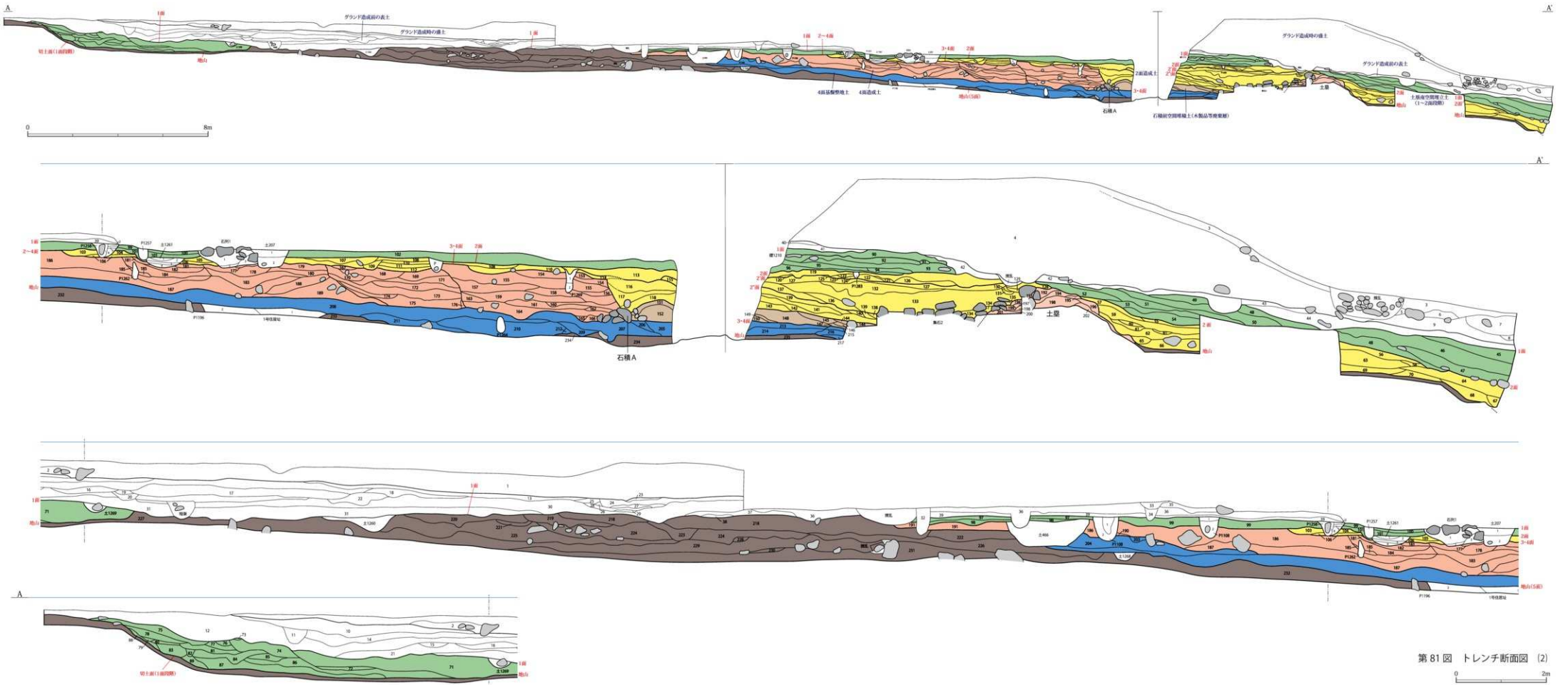


調査区西壁セクション



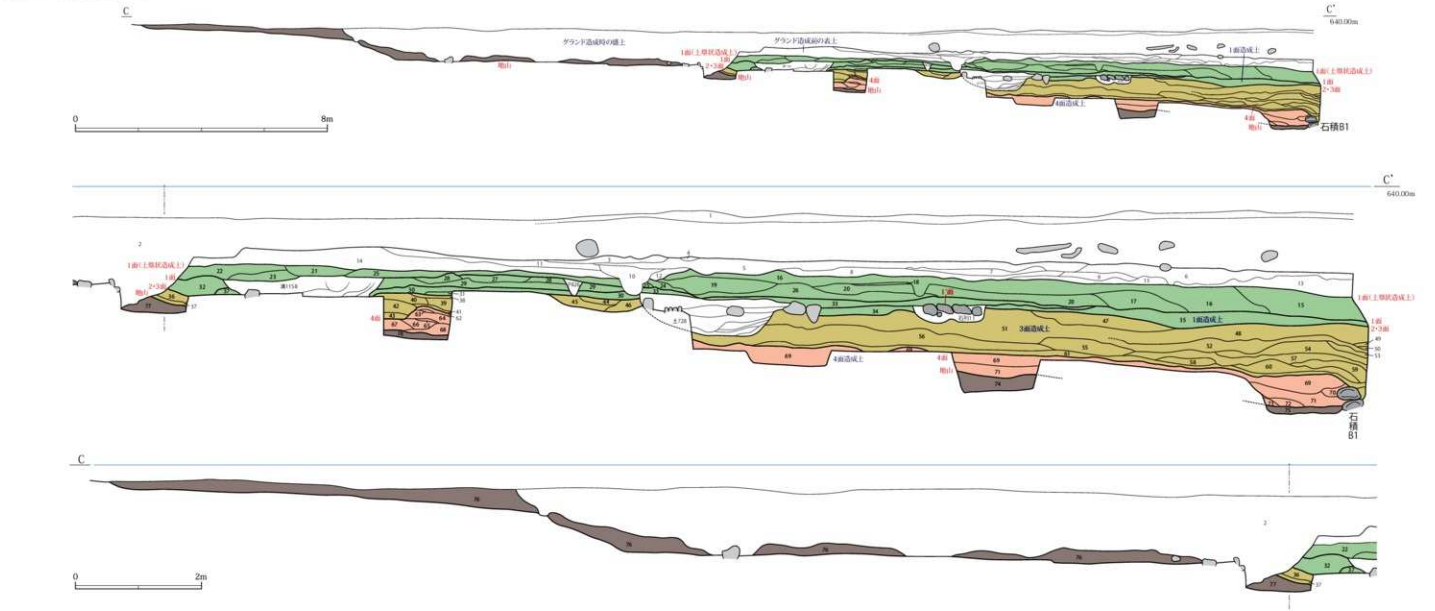
第 80 図　トレンチ断面図（1）

Bトレンチ西壁－Fトレンチ東壁セクション

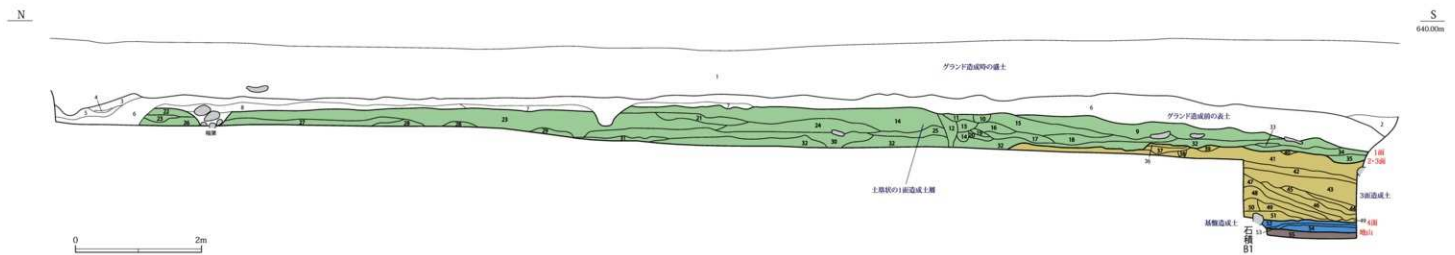


第 81 図　トレンチ断面図 (2)

東トレンチ東壁セクション

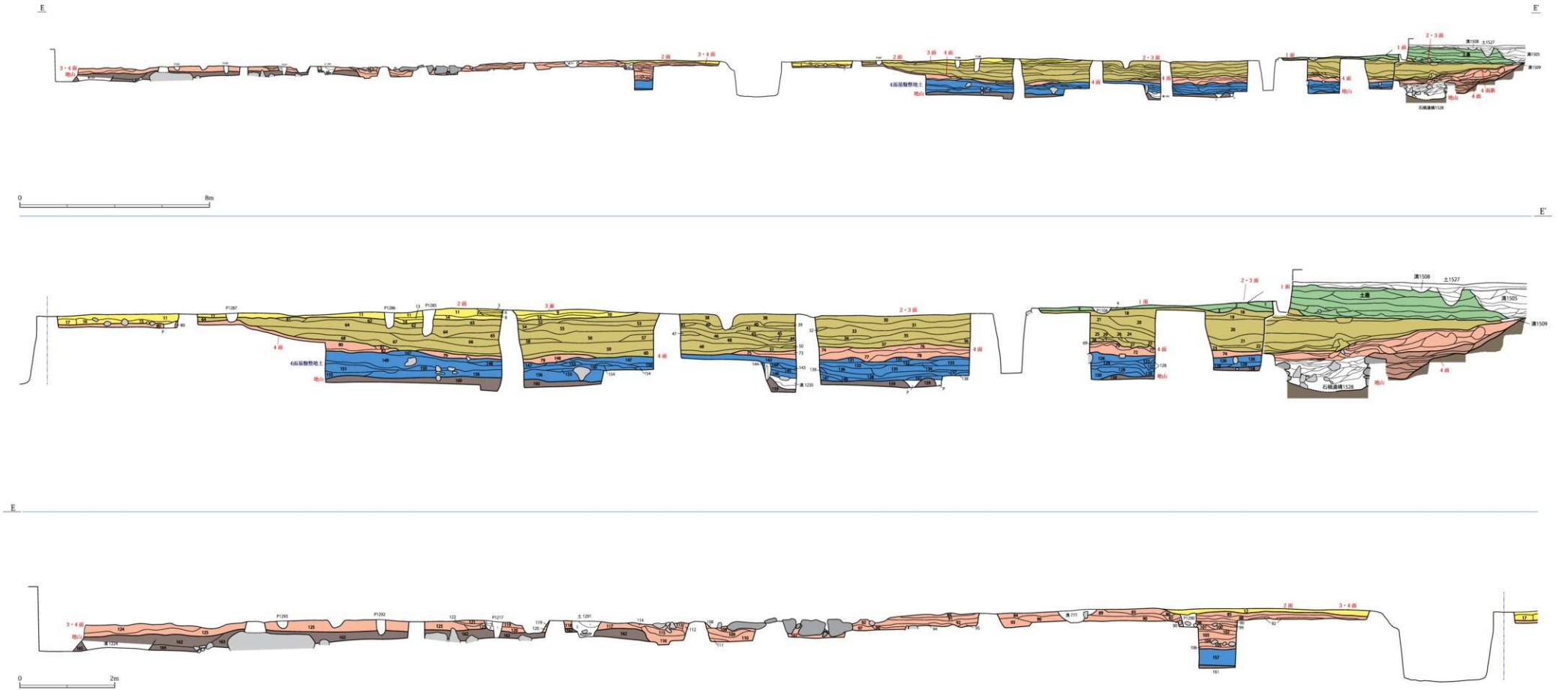


調査区東壁セクション



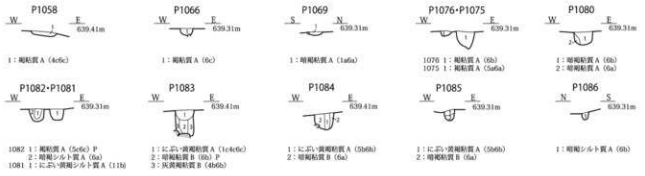
第 82 図　トレンチ断面図 (3)

Kトレンチ北壁セクション

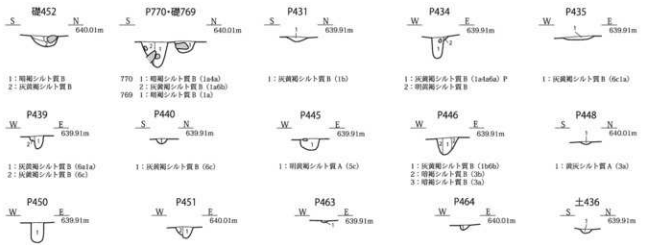


第 83 図　トレンチ断面図 (4)

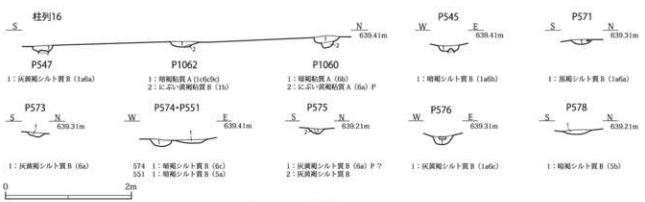
2 面平面図③



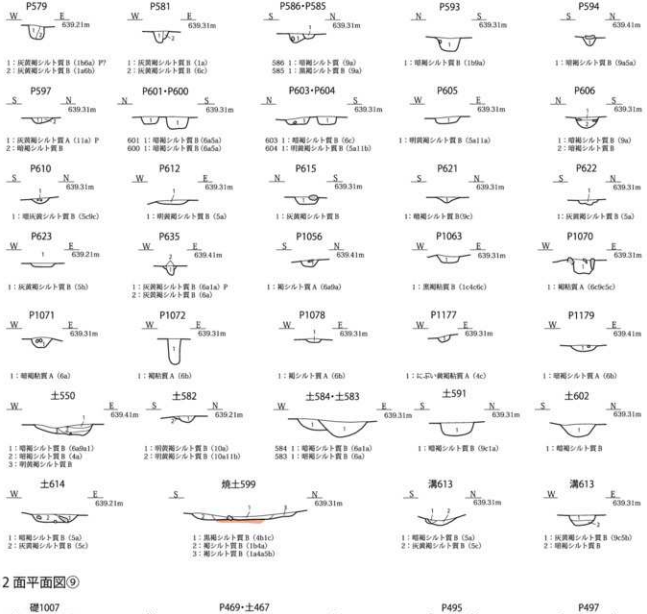
2 面平面図⑫



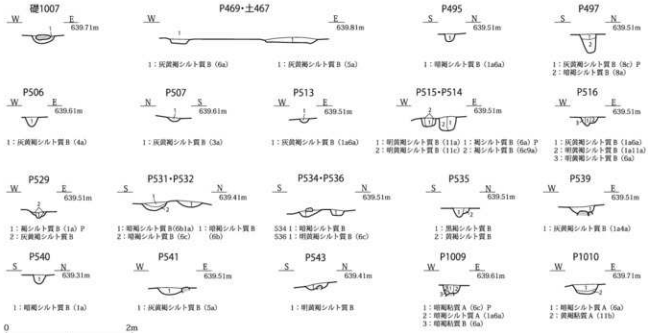
2 面平面図④



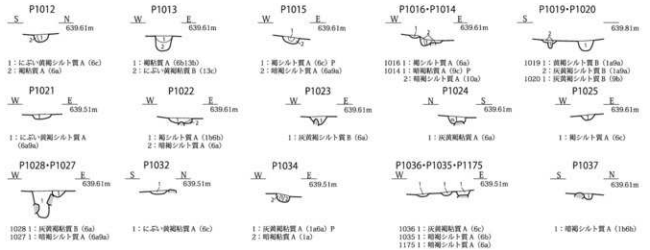
第 84 図　遺構断面図 (1)



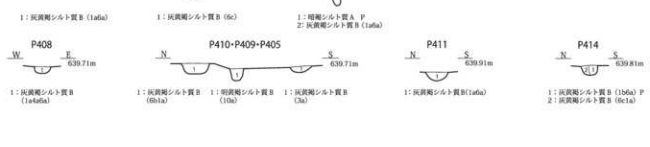
2 面平面図⑨



第 85 図　遺構断面図（2）

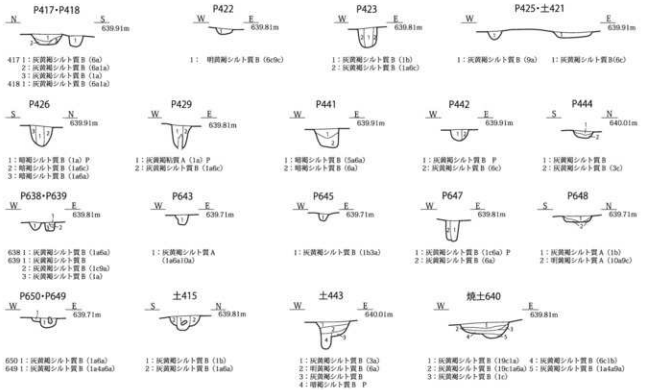


2面平面図⑬



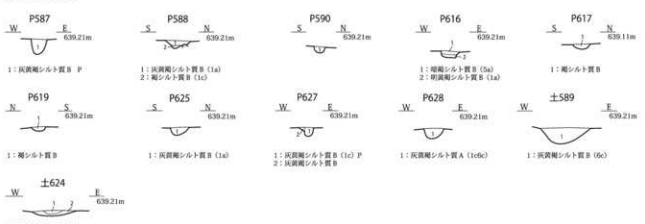
0　2m

第86図　遺構断面図（3）



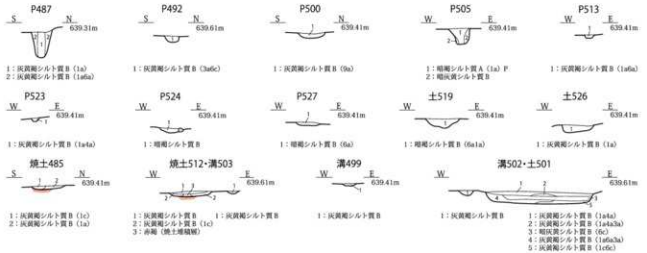
2 面平面図⑯

2 面平面図⑤

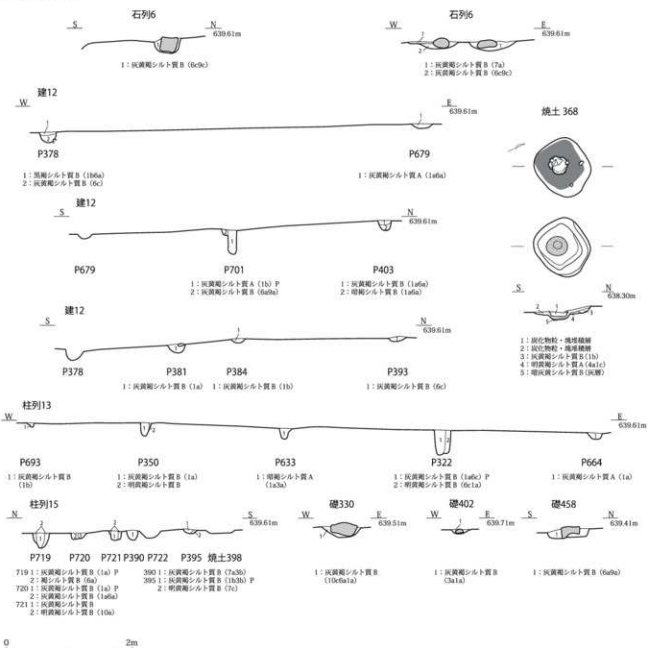


2 面平面図⑩

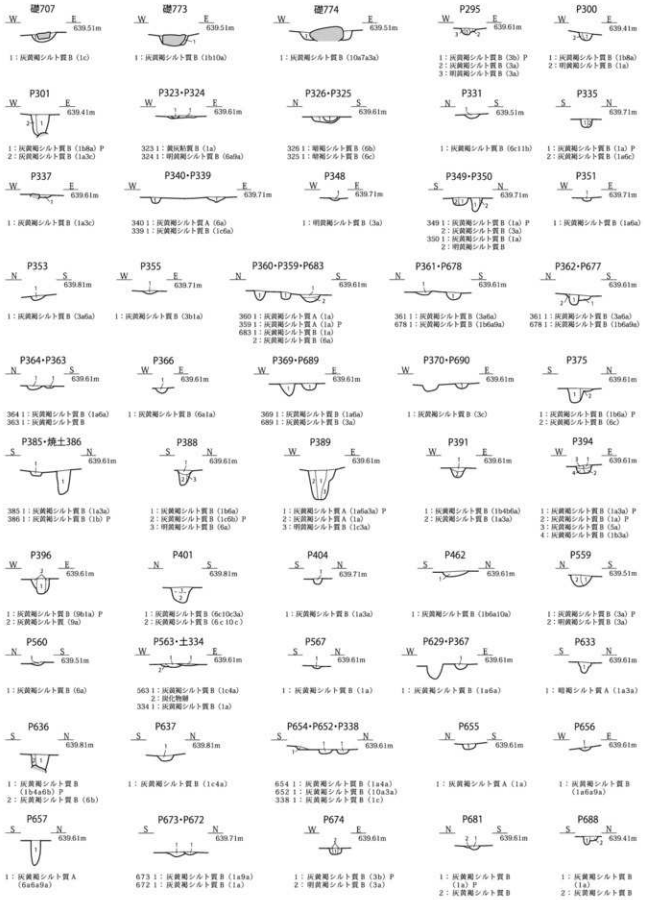
第 87 図　遺構断面図 (4)



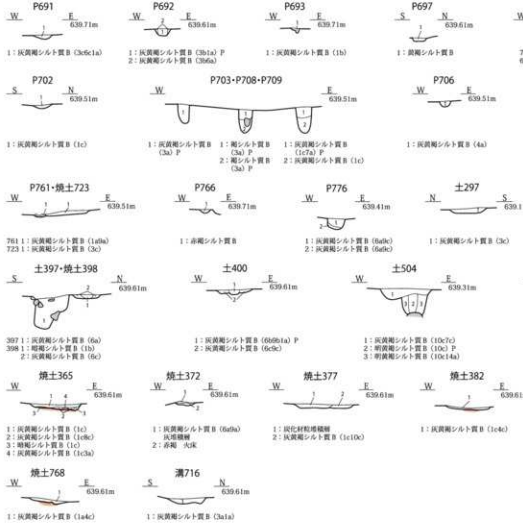
2 面平面図⑭



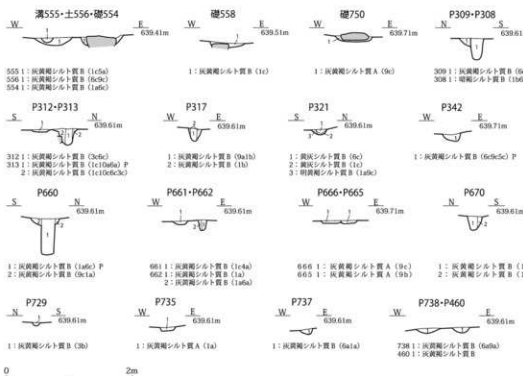
第 88 図　遺構断面図（5）


礎707
W E 639.51m
1：灰黄褐シルト質B（1c）
礎773
W E 639.51m
1：灰黄褐シルト質B（1b10a）
礎774
W E 639.51m
1：灰黄褐シルト質B（10a7a3a）
P295
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（3b）P
2：灰黄褐シルト質B（3a）
3：明黄褐シルト質B（3a）
P300
W E 639.41m
1：灰黄褐シルト質B（1b8a）
2：明黄褐シルト質B（1a）
P301
W E 639.41m
1：灰黄褐シルト質B（1b8a）P
2：灰黄褐シルト質B（1a3c）
P323・P324
W E 639.61m
323 1：黄灰粘質B（1a）
324 1：明黄褐シルト質B（6a9a）
P326・P325
N S 639.61m
326 1：暗褐シルト質B（6b）
325 1：暗褐シルト質B（6c）
P331
N S 639.51m
1：灰黄褐シルト質B（6c11b）
P335
S N 639.71m
1：灰黄褐シルト質B（1a）P
2：灰黄褐シルト質B（1a6c）
P337
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（1a3c）
P340・P339
W E 639.71m
340 1：灰黄褐シルト質A（6a）
339 1：灰黄褐シルト質B（1c6a）
P348
W E 639.71m
1：明黄褐シルト質B（3a）
P349・P350
S N 639.71m
349 1：灰黄褐シルト質B（1a）P
2：灰黄褐シルト質B（3a）
350 1：灰黄褐シルト質B（1a）
2：明黄褐シルト質B
P351
W E 639.71m
1：灰黄褐シルト質B（1a6a）
P353
N S 639.81m
1：灰黄褐シルト質B（3a6a）
P355
W E 639.71m
1：灰黄褐シルト質B（3b1a）
P360・P359・P683
N S 639.61m
360 1：灰黄褐シルト質A（1a）
359 1：灰黄褐シルト質A（1a）P
683 1：灰黄褐シルト質B（1a）
2：灰黄褐シルト質B（6a）
P361・P678
N S 639.61m
361 1：灰黄褐シルト質B（3a6a）
678 1：灰黄褐シルト質B（1b6a9a）
P362・P677
N S 639.61m
361 1：灰黄褐シルト質B（3a6a）
678 1：灰黄褐シルト質B（1b6a9a）
P364・P363
N S 639.61m
364 1：灰黄褐シルト質B（1a6a）
363 1：灰黄褐シルト質B
P366
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（6a1a）
P369・P689
W E 639.61m
369 1：灰黄褐シルト質B（1a9a）
689 1：灰黄褐シルト質B（3a）
P370・P690
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（3c）
P375
S N 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（1b6a）P
2：灰黄褐シルト質B（6c）
P385・焼土386
S N 639.61m
385 1：灰黄褐シルト質B（1a3a）
386 1：灰黄褐シルト質B（1b）P
P388
S N 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（1b6a）
2：灰黄褐シルト質B（1c6b）P
3：明黄褐シルト質B（6a）
P389
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質A（1a6a3a）P
2：灰黄褐シルト質A（1a）
3：明黄褐シルト質B（1c3a）
P391
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（1b4b6a）
2：灰黄褐シルト質B（1a3a）
P394
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（1a3a）P
2：灰黄褐シルト質B（1a）P
3：灰黄褐シルト質B（5a）
4：灰黄褐シルト質B（1b3a）
P396
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（9b1a）P
2：灰黄褐シルト質（9a）
P401
N S 639.81m
1：灰黄褐シルト質B（6c10c3a）
2：灰黄褐シルト質B（6c10c）
P404
S N 639.71m
1：灰黄褐シルト質B（1a3a）
P462
S N 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（1b6a10a）
P559
N S 639.51m
1：灰黄褐シルト質B（3a）P
2：明黄褐シルト質B（3a）
P560
N S 639.51m
1：灰黄褐シルト質B（6a）
P563・土334
W E 639.61m
563 1：灰黄褐シルト質B（1c4a）
2：炭化物層
334 1：灰黄褐シルト質B（1a）
P567
S N 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（1a）
P629・P367
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（1a6a）
P633
S N 639.61m
1：暗褐シルト質A（1a3a）
P636
S N 639.81m
1：灰黄褐シルト質B（1b4a6b）P
2：灰黄褐シルト質B（6b）
P637
S N 639.81m
1：灰黄褐シルト質B（1c4a）
P654・P652・P338
S N 639.61m
654 1：灰黄褐シルト質B（1a4a）
652 1：灰黄褐シルト質B（10a3a）
338 1：灰黄褐シルト質B（1c）
P655
N S 639.61m
1：灰黄褐シルト質A（1a）
P656
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（1a6a9a）
P657
S N 639.61m
1：灰黄褐シルト質A（6a6a9a）
P673・P672
S N 639.71m
673 1：灰黄褐シルト質B（1a9a）
672 1：灰黄褐シルト質B（1a）
P674
W E 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（3b）P
2：明黄褐シルト質B（3a）
P681
N S 639.61m
1：灰黄褐シルト質B（1a）P
2：灰黄褐シルト質B
P688
S N 639.41m
1：灰黄褐シルト質B（1a）
2：灰黄褐シルト質B
0 2m

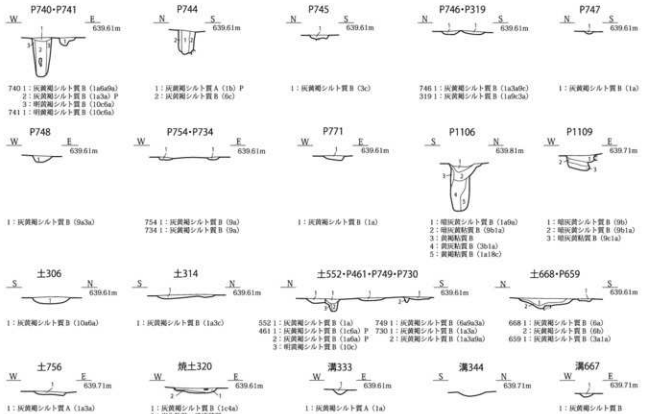
第89図　遺構断面図（6）



2 面平面図⑰



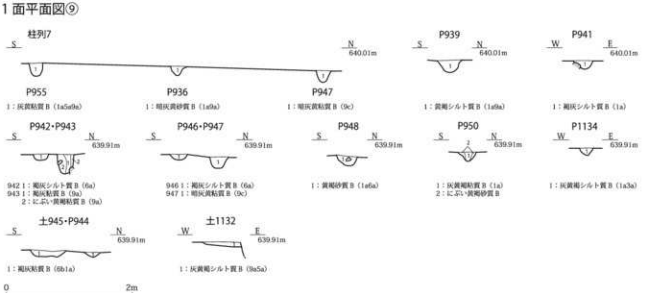
第 90 図　遺構断面図 (7)



2 面平面図⑮

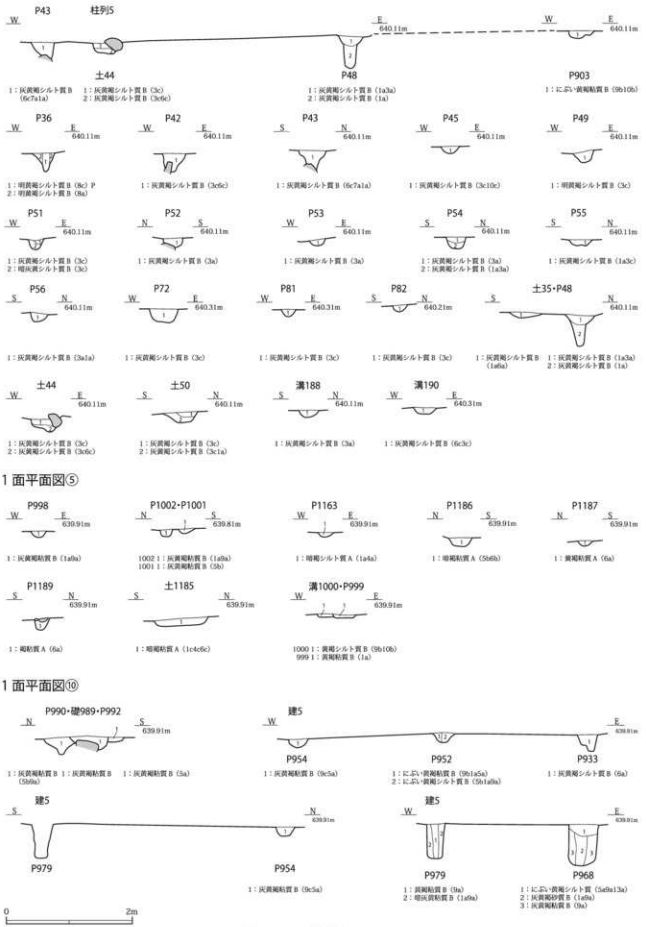
1 面平面図⑭

1 面平面図⑨



第 91 図　遺構断面図 (8)

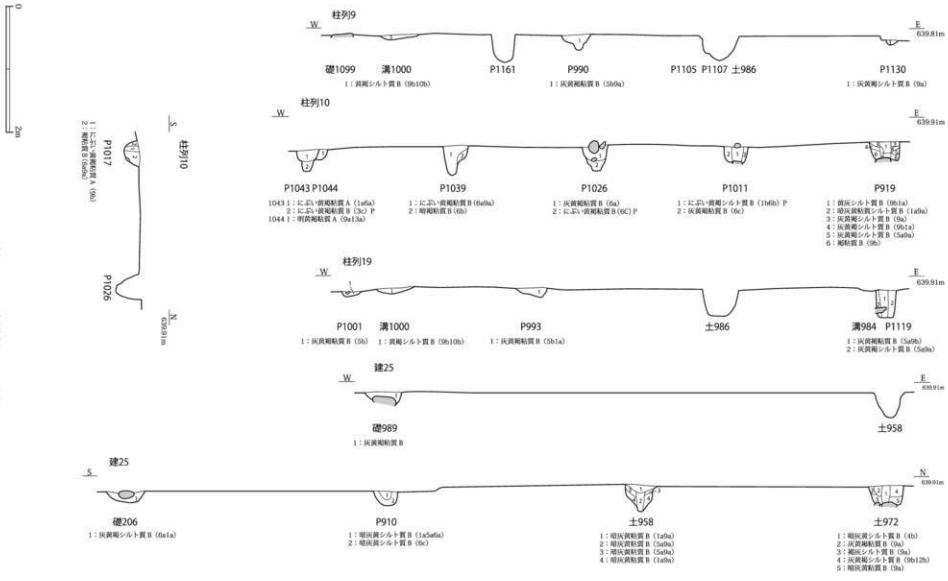
1 面平面図⑮



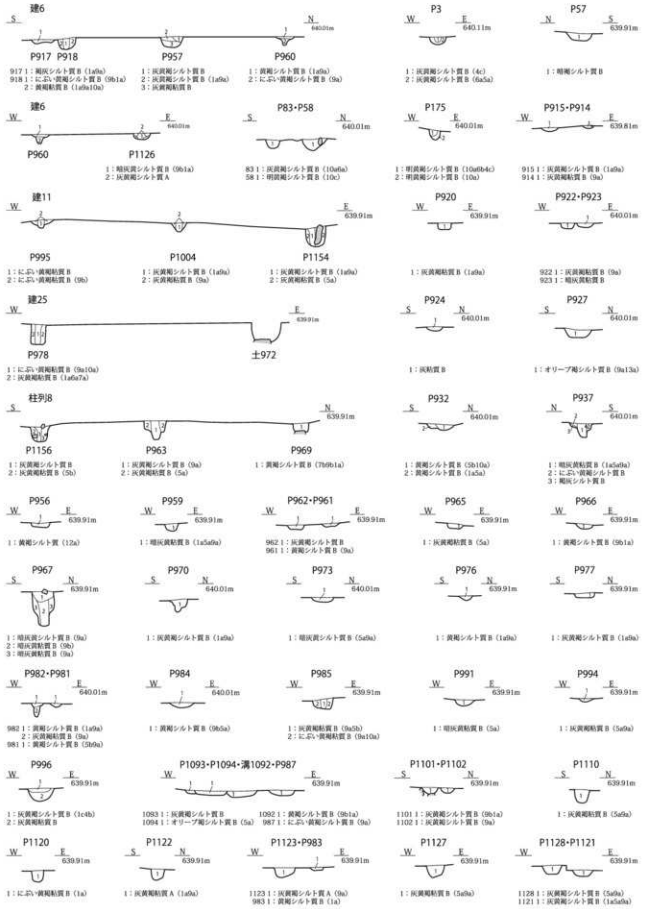
1 面平面図⑤

1 面平面図⑩

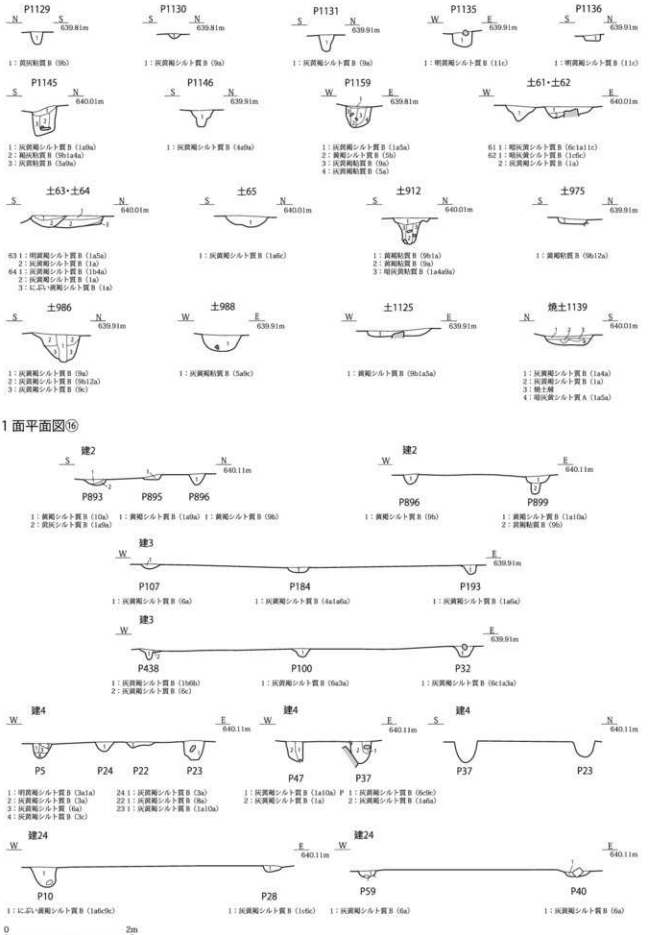
第 92 図　遺構断面図 (9)



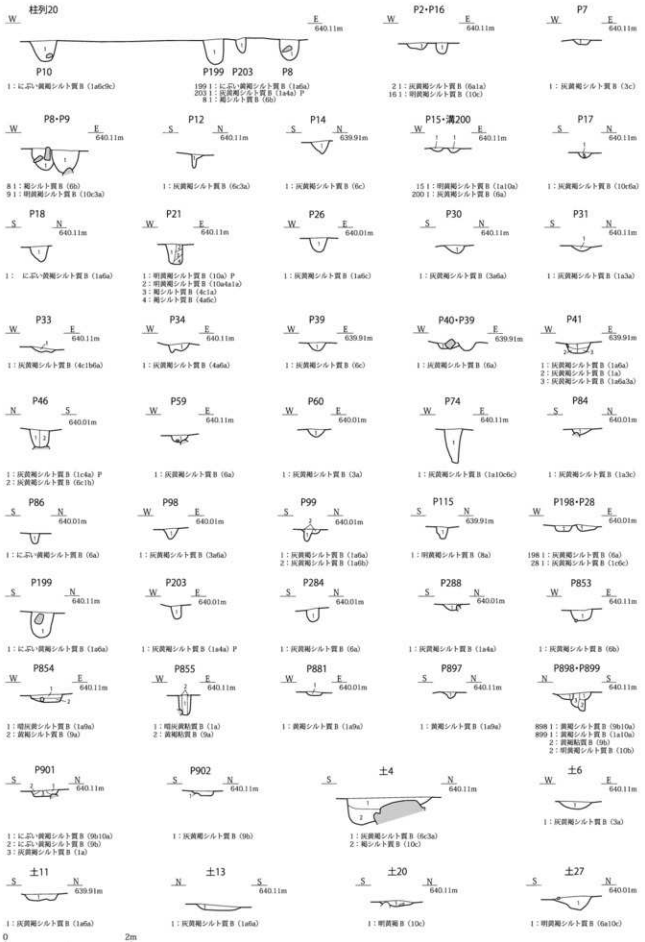
第93図　遺構断面図（10）



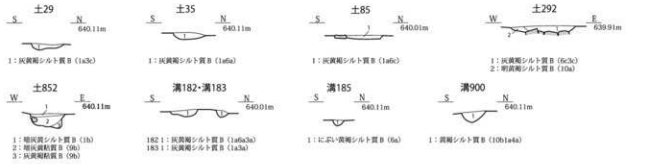
第 94 図　遺構断面図 (11)


P1129
639.81m
1：灰黄粘質Ｂ（9b）
P1130
639.81m
1：灰黄褐シルト質Ｂ（9a）
P1131
639.91m
1：灰黄褐シルト質Ｂ（9a）
P1135
639.91m
1：明黄褐シルト質Ｂ（11c）
P1136
639.91m
1：明黄褐シルト質Ｂ（11c）
P1145
640.01m
1：灰黄褐シルト質Ｂ（1a9a）
2：褐灰粘質Ｂ（9b1a4a）
3：灰黄粘質Ｂ（5a9a）
P1146
639.91m
1：灰黄褐シルト質Ｂ（4a9a）
P1159
639.81m
1：灰黄褐シルト質Ｂ（1a5a）
2：黄褐シルト質Ｂ（5b）
3：灰黄褐粘質Ｂ（9a）
4：灰黄褐粘質Ｂ（5a）
±61・±62
640.01m
61 1：暗灰黄シルト質Ｂ（6c1a11c）
62 1：暗灰黄シルト質Ｂ（1c6c）
2：灰黄褐シルト質Ｂ（1a）
±63・±64
640.01m
63 1：明褐シルト質Ｂ（1a5a）
2：灰黄褐シルト質Ｂ（1a）
64 1：灰黄褐シルト質Ｂ（11a4a）
2：灰黄褐シルト質Ｂ（1a）
3：にぶい黄褐シルト質Ｂ（1a）
±65
640.01m
1：灰黄褐シルト質Ｂ（1a6c）
±912
640.01m
1：灰褐粘質Ｂ（9b1a）
2：灰褐粘質Ｂ（9a）
3：暗灰黄粘質Ｂ（1a4a8a）
±975
639.91m
1：黄褐粘質Ｂ（9b12a）
±986
639.91m
1：灰黄褐シルト質Ｂ（9a）
2：灰黄褐シルト質Ｂ（9b12a）
3：灰黄褐シルト質Ｂ（9c）
±988
639.91m
1：灰黄褐粘質Ｂ（5a9c）
±1125
639.91m
1：黄褐シルト質Ｂ（9b1a5a）
焼±1139
640.01m
1：灰黄褐シルト質Ｂ（1a4a）
2：灰黄褐シルト質Ｂ（1a）
3：焼土層
4：暗灰黄シルト質Ａ（1a5a）
1面平面図⑯
建2
640.11m
P893
P895
P896
1：黄褐シルト質Ｂ（10a）
2：灰黄シルト質Ｂ（1a9a）
1：黄褐シルト質Ｂ（1a0a）
1：黄褐シルト質Ｂ（9b）
建2
640.11m
P896
P899
1：黄褐シルト質Ｂ（9b）
1：黄褐シルト質Ｂ（1a10a）
2：黄褐粘質Ｂ（9b）
建3
639.91m
P107
P184
P193
1：灰黄褐シルト質Ｂ（6a）
1：灰黄褐シルト質Ｂ（4a1a6a）
1：灰黄褐シルト質Ｂ（1a6a）
建3
639.91m
P438
P100
P32
1：灰黄褐シルト質Ｂ（11d6b）
2：灰黄褐シルト質Ｂ（6c）
1：灰黄褐シルト質Ｂ（6a3a）
1：灰黄褐シルト質Ｂ（6c1a3a）
建4
640.11m
P5
P24
P22
P23
1：明黄褐シルト質Ｂ（3a1a）
2：灰黄褐シルト質Ｂ（3a）
3：灰黄褐シルト質（6a）
4：灰黄褐シルト質Ｂ（3c）
24 1：灰黄褐シルト質Ｂ（3a）
22 1：灰黄褐シルト質Ｂ（8a）
23 1：灰黄褐シルト質Ｂ（1a10a）
建4
640.11m
P47
P37
1：灰黄褐シルト質Ｂ（1a10a）
2：灰黄褐シルト質Ｂ（1a）
P 1：灰黄褐シルト質Ｂ（6c6c）
2：灰黄褐シルト質Ｂ（1a6a）
建4
640.11m
P37
P23
建24
640.11m
P10
P28
1：にぶい黄褐シルト質Ｂ（1a6c9c）
1：灰黄褐シルト質Ｂ（1c6c）
建24
640.11m
P59
P40
1：灰黄褐シルト質Ｂ（6a）
1：灰黄褐シルト質Ｂ（6a）
0
2m

第 95 図　遺構断面図 ⑿

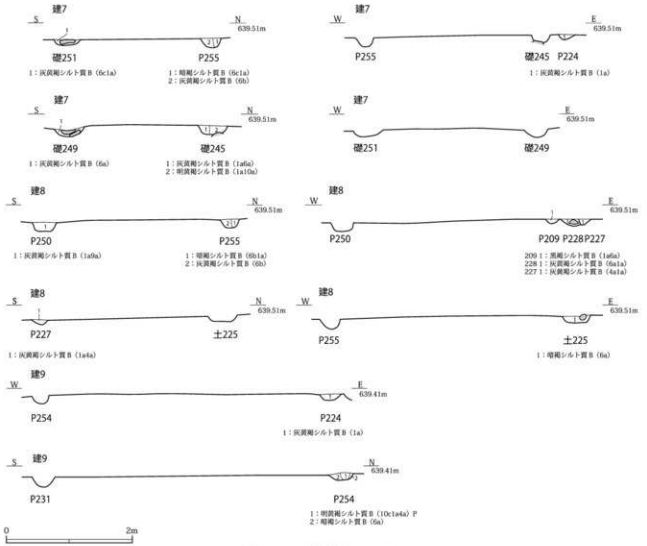


第 96 図　遺構断面図 (13)

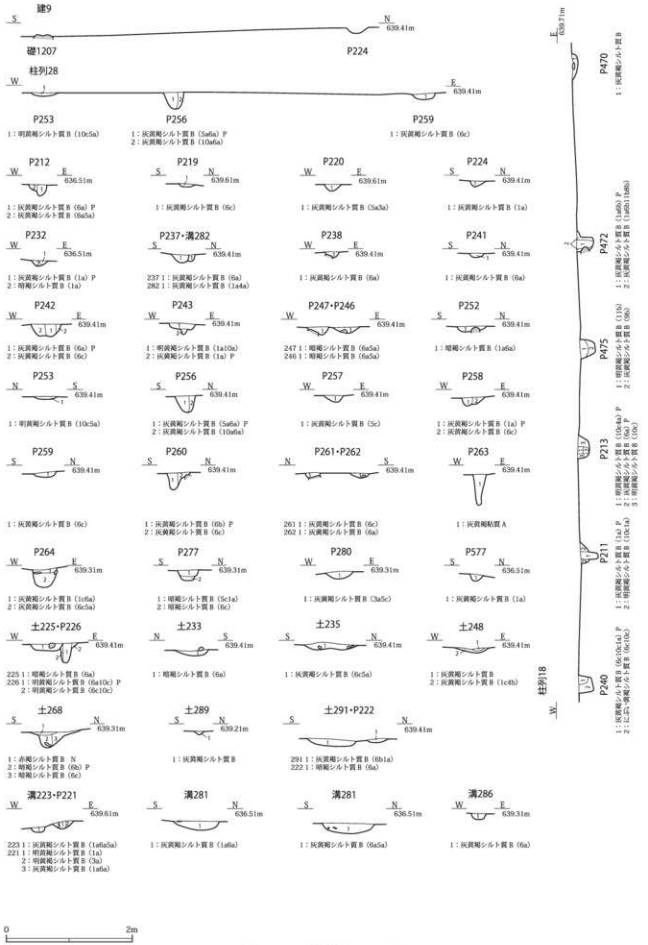


1面平面図②

1面平面図⑥

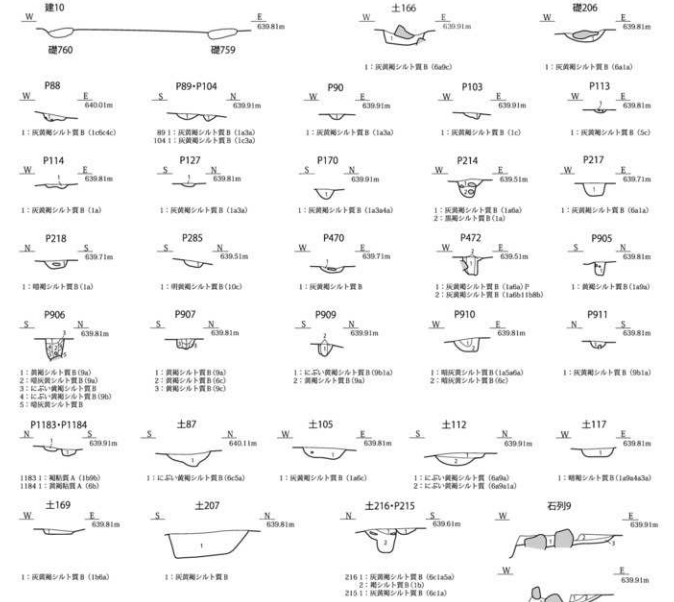


第97図　遺構断面図 (14)

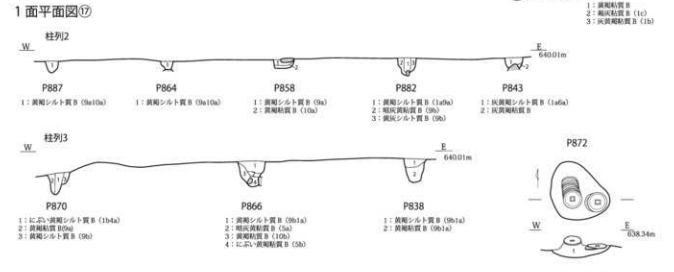


第98図　遺構断面図 (15)

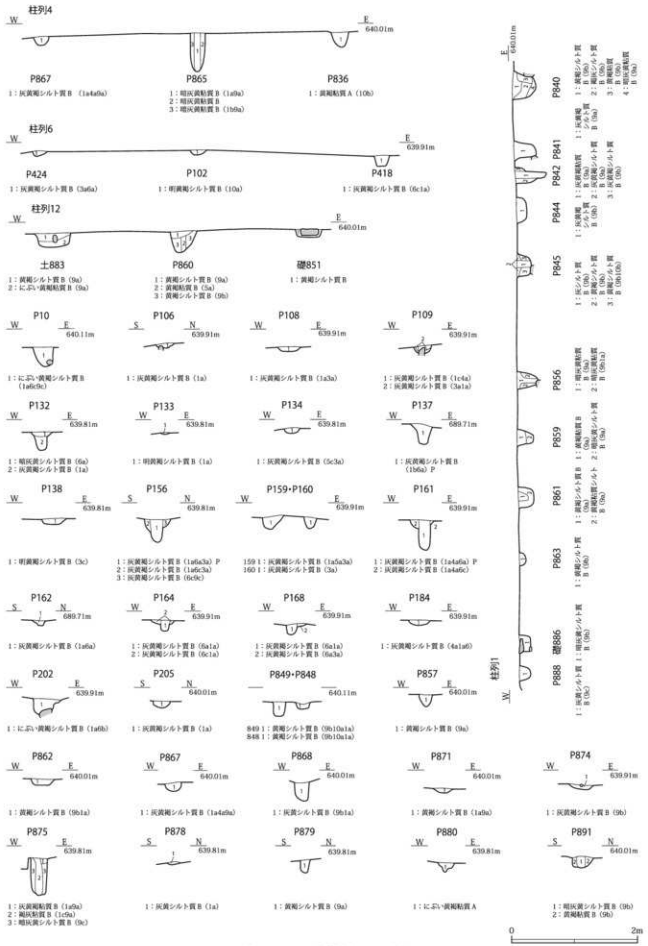
1面平面図⑪



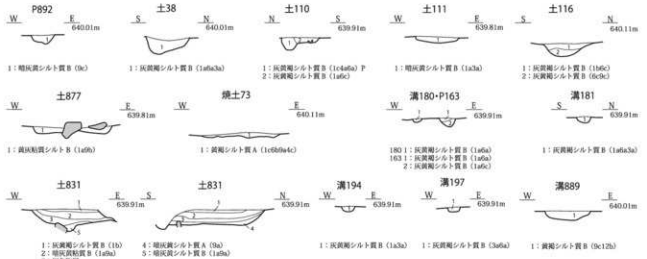
1面平面図⑰



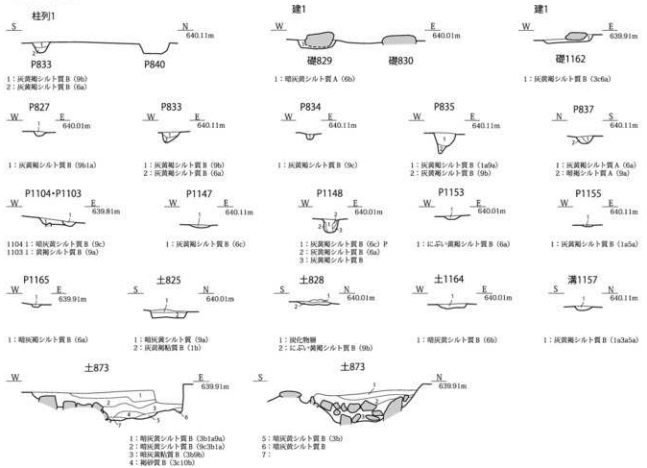
第99図　遺構断面図 ⑯



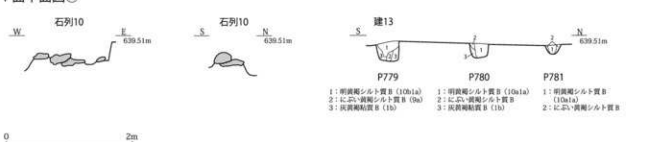
第 100 図　遺構断面図 (17)



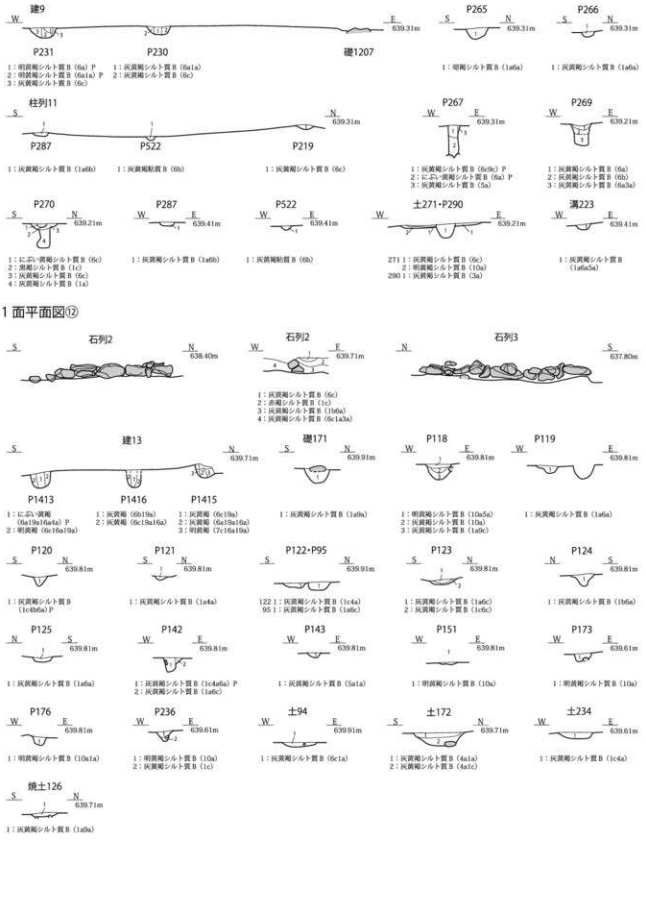
1 面平面図⑳



1 面平面図⑦

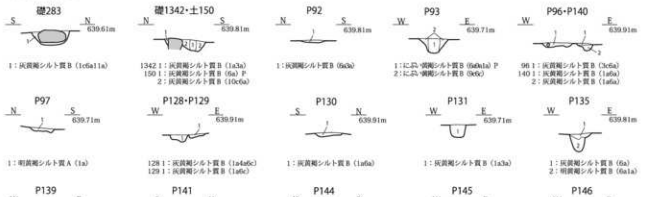


第 101 図　遺構断面図 ⑱



第 102 図　遺構断面図 ⑲

1 面平面図⑱



1：灰黄褐シルト質B（1c6a11a）

1342 1：灰黄褐シルト質B（1a3a）
150 1：灰黄褐シルト質B（6a）P
2：灰黄褐シルト質B（10c6a）

1：灰黄褐シルト質B（6a3a）

1：にぶい黄褐シルト質B（6a0a10a）P
2：にぶい黄褐シルト質B（5b6c）

96 1：灰黄褐シルト質B（3c6a）
140 1：灰黄褐シルト質B（1a6a）
2：灰黄褐シルト質B（1a6a）

1：明黄褐シルト質A（1a）

128 1：灰黄褐シルト質B（1a4a6c）
129 1：灰黄褐シルト質B（1a6c）

1：灰黄褐シルト質B（1a6a）

1：灰黄褐シルト質B（1a3a）

1：灰黄褐シルト質B（6a）
2：明黄褐シルト質B（6a1a）

1：灰黄褐シルト質B（1b6a）
2：明黄褐シルト質B（3a）

1：灰黄褐シルト質B（1a6a）

1：灰黄褐シルト質B（10c6a）

1：明黄褐シルト質B（6a）

1：明黄褐シルト質B（10b）

147 1：暗灰黄シルト質B（6a）
148 1：明黄褐シルト質B（3a）
2：灰黄褐シルト質B（1c）

1：灰黄褐シルト質B（1a6b）
2：灰黄褐シルト質B（1a）

1：灰黄褐シルト質B（10a3a4a）

1：灰黄褐シルト質B（6a0a1a）
2：灰黄褐シルト質B（1a3a）P

1：灰黄褐シルト質B
（1c6a6a）

1：炭化材（黄褐シルト質を含む）

1：暗灰黄シルト質B（1b）

1：黄褐シルト質B（9a）

823 1：暗灰黄シルト質B（9a）
808 1：灰黄シルト質B（1a6a）

1：灰黄褐シルト質B（1c）
2：明黄褐シルト質A（1a）

152 1：灰黄褐シルト質B（9c1a）
153 1：灰黄褐シルト質B（1c6a）

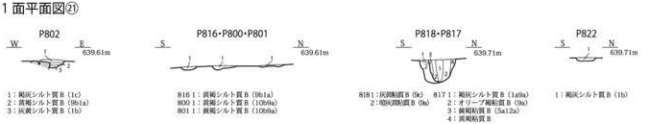
1：褐灰シルト質B（1b9a）

1：黄褐シルト質B（9a10a）
2：黄褐シルト質B（9a）

1：黒褐シルト質B（1c4a9）

1：明黄褐シルト質B（10a）

1 面平面図㉑



1：暗灰黄シルト質B（1c）
2：黄褐シルト質B（9b1a）
3：灰黄シルト質B（1b）

816 1：黄褐シルト質B（9b1a）
800 1：黄褐シルト質B（10b6a）
801 1：黄褐シルト質B（10b9a）

818 1：灰黄褐シルト質B（5c）
2：明灰褐シルト質B（9a）

817 1：褐灰シルト質B（1a0a）
2：オリーブ褐シルト質B（9a）
3：黄褐粘質B（5a12a）
4：黄褐粘質B

1：褐灰シルト質B（1b）

1：暗灰黄シルト質B（4a）
2：明灰黄粘質B
3：黄褐シルト質B（1a）

1089 1：焼土層
2：明灰黄シルト質B（1a9a）
1090 1：黄灰粘質B（1a9a）

0　2m

第 103 図　遺構断面図 ⑳

第6表　土層一覧

土層番号	土色	土質	締り	混入物・層	性格	備考
調査区東壁セクション						
1					グラウンド造成時の盛土	
2					グラウンド造成時の盛土	
3					グラウンド造成前表土	
4					グラウンド造成前表土	炭化物層
5					グラウンド造成前表土	
6					グラウンド造成前表土	耕作土
7	4	シルト	B	5(～0.3㎝)b	グラウンド造成前表土	
8	4	シルト	B	9c,10b	グラウンド造成前表土	
9	4	シルト	B	9b,1a,5a	1面造成土	土塁状造成土
10	4	シルト	B	9c	1面造成土	土塁状造成土
11	4	シルト	B	9c	1面造成土	土塁状造成土
12	4	シルト	B	9c,8b	1面造成土	土塁状造成土
13	4	シルト	B	9c,8b	1面造成土	土塁状造成土
14	4	シルト	B	9c,8a	1面造成土	土塁状造成土
15	4	シルト	B	9c,5b,20b,1a	1面造成土	土塁状造成土
16	4	シルト	B	9c	1面造成土	土塁状造成土
17	4	シルト	B	9c,8b	1面造成土	土塁状造成土
18	4	シルト	B	9c,1a	1面造成土	土塁状造成土
19	16	シルト	B	9c	1面造成土	土塁状造成土
20	4	シルト	B	8c,9c	1面造成土	土塁状造成土
21	4	粘質	B	9 c	1面造成土	土塁状造成土
22	4	シルト	B	5(～0.2㎝)c,8c,9b,1a	1面造成土	土塁状造成土
23	4	シルト	B	8c,9c	1面造成土	土塁状造成土
24	4	シルト	B	8c,9c,5(～0.2㎝)b	1面造成土	土塁状造成土
25	4	シルト	B	8c,9c,1b	1面造成土	土塁状造成土
26	4	シルト	A	12c	1面造成土	土塁状造成土
27	6	シルト	B	9c	1面造成土	土塁状造成土
28	4	シルト	A	9c	1面造成土	土塁状造成土
29	4	シルト	A	9c,12b	1面造成土	土塁状造成土
30	4	シルト	B	9c,8b	1面造成土	土塁状造成土
31	16	シルト	B	9b	1面造成土	土塁状造成土
32	4	シルト	B	9c,1a	1面造成土	土塁状造成土
33	4	シルト	B	9c,8b	1面造成土	土塁状造成土
34	6	シルト	B	9c,1a	1面造成土	土塁状造成土
35	6	シルト	B	1a,9a	1面造成土	土塁状造成土
36	7	シルト	B	8b	3面造成土	
37	8	シルト	B	9b	3面造成土	
38	18	シルト	B	9b	3面造成土	
39	4	シルト	B	8c,9b	3面造成土	
40	4	シルト	B	1a,9a	3面造成土	
41	4	シルト	B	9c,12b	3面造成土	
42	4	シルト	B	9b,1a	3面造成土	
43	20	粘質	B	7c,9c	3面造成土	
44	9	粘質	B	15a	3面造成土	
45	8	粘質	B	9c	3面造成土	
46	4	粘質	B	9c,10b	3面造成土	
47	8	粘質	B	9c,15b	3面造成土	
48	7	粘質	B	15b	3面造成土	
49	4	粘質	B	15c	3面造成土	
50	8	粘質	B	9c,12a	3面造成土	
51	20	粘質	B	9b	3面造成土	
52	19	粘質	B		4面基盤造成土	石積B基盤土
53	10	粘質	B		4面基盤造成土	
54	21	粘質	B	15b	4面基盤造成土	
55	21	シルト	B		地山	
東トレンチ東壁セクション						
1					グラウンド造成時の盛土	
2					グラウンド造成時の盛土	
3	22	シルト	B	6c,5b,1a	グラウンド造成前表土	
4	5	シルト	A	5b,1a,6a	グラウンド造成前表土	
5	8	シルト	B	17c,21c,5b,6b,1a	グラウンド造成前表土	
6	5	シルト	B	17c,21c,5b,6b,1a	グラウンド造成前表土	
7	18	粘質	B	17c,5b,1a	グラウンド造成前表土	
8	18	シルト	A	17c,6b,5a,22a	グラウンド造成前表土	
9	18	シルト	A	1a,5a,6a	グラウンド造成前表土	
10	18	シルト	A	6b,1a,4a,5a	グラウンド造成前表土	
11					グラウンド造成前表土	
12					グラウンド造成前表土	
13	18	シルト	B	1a,5a,6a	グラウンド造成前表土	
14	7	粘質	A	6c,23a	グラウンド造成前表土	漆喰混層
15	18	シルト	B	6c,5b,1a,4a	1面造成土	土塁状造成土
16	18	シルト	B	5c,6b,1a	1面造成土	土塁状造成土
17	18	シルト	B	1c,5a,6a	1面造成土	土塁状造成土
18	4	シルト	B	24b,1a	1面造成土	土塁状造成土
19	18	シルト	B	5c,6b,1a	1面造成土	土塁状造成土
20	6	粘質	B	1b,6b,4a,5a	1面造成土	土塁状造成土
21	6	シルト	B	6c,1a,21a	1面造成土	土塁状造成土
22	8	シルト	A	5b,21a	1面造成土	土塁状造成土
23	4	シルト	A	10b,5a	1面造成土	土塁状造成土
24					1面造成土	土塁状造成土
25	18	シルト	A	10c,6b,1a,5a	1面造成土	土塁状造成土
26	6	シルト	A	5c,4b,1a,6a	1面造成土	土塁状造成土
27	4	シルト	B	5b,10b	1面造成土	
28	23	シルト	A	6b	1面造成土	
29	6	シルト	A	1b,5b,6b,4a	1面造成土	
30	6	シルト	A	1b,5b,6b,4a	1面造成土	
31	6	シルト	B	9b,1a	1面造成土	
32	4	シルト	B	9c,1a	1面造成土	
33					1面造成土	
34	7	シルト	B	16c	1'面造成土	
35	18	シルト	A	5b,1a,6a	1'面造成土	
36	24	シルト	B	9b,1a	3面造成土	
37	8	シルト	A	11c,6b	3面造成土	
38	4	シルト	B	8b,9a	3面造成土	
39					3面造成土	砂礫層
40	4	シルト	B	8c,9b	3面造成土	
41	4	シルト	B	8a	3面造成土	
42	4	シルト	B	8b,9b	3面造成土	
43	16	粘質	B	1a,3a,9a	3面造成土	
44	8	シルト	A	9b	3面造成土	
45	7	シルト	A	10c,6b,1a,5a	3面造成土	
46	7	シルト	A	10b,1a	3面造成土	
47	7	シルト	A	6c,1b,23b,4a,	3面造成土	
48	19	粘質	B	9c	3面造成土	
49	4	粘質	B	10b	3面造成土	
50	19	粘質	B	9c	3面造成土	
51	19	シルト	B	9c	3面造成土	
52	19	粘質	B	9b	3面造成土	
53	19	粘質	B	9c	3面造成土	
54	22	粘質	B	12b	3面造成土	
55	7	粘質	B	10c	3面造成土	
56	19	粘質	B	3b,9b,10b	3面造成土	
57	4	粘質	B	10c,1a	3面造成土	
58	4	粘質	B	10b	3面造成土	
59	7	粘質	B	12b	3面造成土	
60	22	シルト	B	9b	3面造成土	
61	4	粘質	A		3面造成土	鉄分層
62	6	粘質	B	1a,3a,9a	4面造成土	
63	8	シルト	B	9a	4面造成土	
64	6	シルト	B	1a,5a,9a	4面造成土	
65	6	シルト	B	1c	4面造成土	
66	16	粘質	B	9b,1a	4面造成土	
67	25	粘質	B	9b,1a	4面造成土	
68	9	シルト	A	25c,14b	4面造成土	
69	10	粘質	B	10b	4面造成土	
70	13	粘質	A		4面造成土	
71	13	粘質	B		4面造成土	
72	13	粘質	B	10b	4面造成土	
73	26	粘質	A		4面造成土	
74					地山	
75	21	粘質	A		地山	
76					地山	
77	15	シルト	A		地山	
78	9	シルト	A	14c	地山	
東トレンチ東壁セクション遺構						
溝1158						
1	6	シルト	B	9c,5(風化した砂岩)a		
2	6	シルト	B	9c,5a		
3	6	シルト	B	3a,9a		
4	6	シルト	B	9c		
5	6	シルト	B	3a,9a		
土728						
1	6	シルト	A	5c,6b,1a,4a,9a		
2	4	シルト	B	9b,1a		
3	8	シルト	B	5c,7b,6a		
4	16	粘質	B	3c,5c		
5	16	粘質	B			
6	16	粘質	B	3c		
7	16	粘質	B	9c		
P826	22	シルト	B	6c,1a		
Aトレンチ南壁セクション						
1					グラウンド造成時の盛土	
2					グラウンド造成時の盛土	
3					グラウンド造成時の盛土	
4					グラウンド造成時の盛土	
5					グラウンド造成前表土	
6					グラウンド造成前表土	
7					グラウンド造成前表土	
8					グラウンド造成前表土	
9					グラウンド造成前表土	
10					グラウンド造成前表土	
11					グラウンド造成前表土	
12					グラウンド造成前表土	
13					グラウンド造成前表土	
14					グラウンド造成前表土	
15					グラウンド造成前表土	
16					グラウンド造成前表土	
17					グラウンド造成前表土	
18					グラウンド造成前表土	
19					グラウンド造成前表土	
20					グラウンド造成前表土	
21					グラウンド造成前表土	
22					グラウンド造成前表土	
23					グラウンド造成前表土	
24					グラウンド造成前表土	
25					グラウンド造成前表土	
26					グラウンド造成前表土	
27	5	粘質	A	5c,1b	グラウンド造成前表土	
28	4	シルト			グラウンド造成前表土	礫層
29	5	砂質	B		グラウンド造成前表土	
30	7	シルト	B	5c,6b	グラウンド造成前表土	
31	5	シルト	B	1b	グラウンド造成前表土	
32					グラウンド造成前表土	礫層
33	5	粘質	B	6b	グラウンド造成前表土	
34	4	シルト	B		グラウンド造成前表土	
35	4	粘質	A	3c,6c	グラウンド造成前表土	
36					1面を覆う造成土	
37					1面造成土	
38					1面造成土	
39					1面造成土	
40					1面造成土	
41					1面造成土	
42					1面造成土	
43					1面造成土	

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
44					1 面造成土	
45					1 面造成土	
46					1 面造成土	
47					1 面造成土	
48					1 面造成土	
49					1 面造成土	
50					1 面造成土	
51					1 面造成土	
52					1 面造成土	
53	5	シルト	B	6b	1 面造成土	西壁 25 と対応
54	4	シルト	B	9c,5b	1 面造成土	西壁 24 と対応
55	16	シルト	B	9c	1 面造成土	
56	5	シルト	B		1 面造成土	
57	5	シルト	B	5c,9b,1a	1 面造成土	
58	5	シルト	B	9c	1 面造成土	
59	4	粘質	B	8c	2 面造成土	
60	6	B	B	6c,5b	2' 面造成土	
61	18	シルト	B	1b,5a,6a	2' 面造成土	
62	6	粘質	B	26c	2' 面造成土	
63	18	粘質	B	26c,6a	2' 面造成土	
64	8	粘質	B	1b	2 面造成土	
65	18	粘質	B	9b	2 面造成土	
66	8	粘質	B	9c,1b	2 面造成土	
67	5	シルト	B	1b	2 面造成土	
68	8	シルト	B	5b,6b	2' 面造成土	
69	8	シルト	B	5c	2' 面造成土	西壁 26 と対応
70	8	シルト	B	1a,6a	2' 面造成土	
71	8	シルト	B	5b	2' 面造成土	
72	18	シルト	B	1b,6b	2 面造成土	
73	18	シルト	B	1c	2' 面造成土	
74	18	粘質	B	26c,5b,1a	2' 面造成土	
75	8	シルト	B	5c,9c	2' 面造成土	
76	19	シルト	B	9c,1b,5b	2' 面造成土	
77	4	シルト	B	5c	2' 面造成土	
78	4	シルト	B	5c,3b	2' 面造成土	
79	7	シルト	B	3b,5a	2' 面造成土	
80	8	シルト	B	6c	2' 面造成土	
81	8	シルト	B	5c	2' 面造成土	
82					2' 面造成土	
83	8	シルト	B	5b,6b	2' 面造成土	
84	6	シルト	B	1c	2' 面造成土	
85	7	シルト			2' 面造成土	礫層
86	18	シルト	B	5c	2' 面造成土	
87	7	シルト	B	5b,7b	2' 面造成土	
88	18	シルト	B	1a	2' 面造成土	
89	18	シルト	B	5b	2' 面造成土	
90	8	シルト	B	1a	2' 面造成土	
91	18	シルト	B	5b,6b	2' 面造成土	
92	4	粘質	b	5c,8c	2' 面造成土	
93	18	粘質			2' 面造成土	礫層・消耗層
94	17	粘質	B		2' 面造成土	
95	18	シルト	B	6c,5b	2' 面造成土	
96	8	シルト	B	5c,3b	2' 面造成土	
97	4	粘質			2' 面造成土	礫層
98	8	粘質	B	1c	2' 面造成土	炭層
99	4	シルト	B		2' 面造成土	
100	8	シルト	B	5b,6a	2' 面造成土	
101	5	シルト	B	5c	2' 面造成土	
102	8	シルト	B	3c	2' 面造成土	
103	8	砂質	B	3c	2' 面造成土	
104	9	粘質	B	6a	2' 面造成土	
105	8	シルト	B	6b	2' 面造成土	
106	10	粘質	B	5b	2' 面造成土	
107	8	シルト	B	5b,6b	2' 面造成土	
108	9	シルト	A	5b,9b	2' 面造成土	西壁 27 と対応
109	9	シルト	B	5c	2' 面造成土	
110	18	シルト			2' 面造成土	礫層
111	10	粘質	B	1c	2' 面造成土	
112	8	シルト	B	5b	2' 面造成土	
113					2' 面造成土	礫層
114					2' 面造成土	礫層
115	7	シルト	B	5c,10b	2' 面造成土	
116	18	粘質	B	23c,5b,6b	2' 面造成土	
117	18	シルト	B	5b	2' 面造成土	
118	4	粘質	B	5c,10b	2' 面造成土	
119	7	シルト	B	3c,5c,9c	2' 面造成土	
120	7	シルト	B	5b	2' 面造成土	
121	7	シルト	B	3c,9c,5b	2' 面造成土	
122	19	シルト	B	6c,5b	2' 面造成土	
123	8	シルト	B	1b,6b	2' 面造成土	
124	9	シルト	A	6b	3 面石積前空間堆積土	
125	8	シルト	B	1b,15b	3 面石積前空間堆積土	
126	8	シルト	B	1b,15b,3a	3 面石積前空間堆積土	
127	20	シルト	B	3c,14c	3 面石積前空間堆積土	混合層
	13	粘質	A	3c,15c	3 面石積前空間堆積土	
128	8	粘質	B	5b	3 面石積前空間堆積土	
129	8	シルト	B	5c	3 面石積前空間堆積土	
130	8	粘質	B	1b	3 面石積前空間堆積土	
131	8	粘質	A	6a	3 面石積前空間堆積土	
132	8	粘質	B	3c,5c	3 面石積前空間堆積土	
133	10	シルト	B	5b,6a	3 面石積前空間堆積土	
134	8	シルト	B	3c,5b	3 面石積前空間堆積土	
135	19	粘質	A		3 面石積前空間堆積土	
136	13	粘質	A	6c,1b,7b	3 面石積前空間堆積土	
137	18	シルト	B	1c,15c	3 面石積前空間堆積土	
138	10	シルト	B	1b,8b,15b	3 面石積前空間堆積土	
139	8	シルト	B	5b,1a	3 面石積前空間堆積土	
140	8	シルト	B	1c,2a,14a	3 面石積前空間堆積土	
141	10	シルト	A		3 面石積前空間堆積土	
142	19	粘質	A	14c	3 面石積前空間堆積土	
143	10	シルト	B	15b,2a	3 面石積前空間堆積土	

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
144	10	シルト	B	2a	3 面石積前空間堆積土	
145	10	シルト	B	15a	3 面石積前空間堆積土	
146	10	シルト	B	6b,27a	3 面石積前空間堆積土	
147	8	粘質	B	12c	3 面石積前空間堆積土	
148	8	シルト	B	1b,14b	3 面石積前空間堆積土	
149	8	シルト	B	6c,1b	3 面造成土（石積 B2 段階）	
150	18	シルト	A	9b	3 面造成土（石積 B2 段階）	
151	9	シルト	A	9c,6b,1a,4a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
152	9	シルト	A	1a,4a,9a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
153	18	シルト	A	6c,1a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
154	9	シルト	A	9c	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
155	9	シルト	A	23c,6b	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
156	9	シルト	A	6a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
157	9	シルト	A	6a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
158	10	シルト	A	9a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
159	9	シルト	A	9b,1a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
160	9	シルト	A	6c,1a,4a,5a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
161	9	粘質	A	1a,6a,9a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
162	9	粘質	A	6a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
163	18	粘質	A	6c,1a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
164	8	粘質	A	1b,6a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
165	4	シルト	B	6c	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
166	18	シルト	A	9b,1a	3 面造成土（石積 B3 裏込）	
167	4	粘質	B	9c,10b	3 面造成土（石積 B2 段階）	
168	7	シルト	B	10c,5b,6b,23a	3 面造成土（石積 B2 段階）	
169	8	シルト	B	6b	3 面造成土（石積 B2 段階）	
170	19	粘質	A	9c,5b	3 面造成土（石積 B2 段階）	
171	8	粘質	B	6b,23a	3 面造成土（石積 B2 段階）	
172	24	粘質	B	6c,10c,23a	3 面造成土（石積 B2 段階）	
173	4	粘質	B	9c,10b	3 面造成土（石積 B2 段階）	
174	7	粘質	A		3 面造成土（石積 B2 段階）	鉄分層
175	16	粘質	B	9c	3 面造成土（石積 B2 段階）	
176	8	粘質	A	6b	3 面造成土（石積 B2 段階）	
177	12	粘質	A	15b,1a,2a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
178	8	シルト	B	1a,3a,6a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
179	8	シルト	B	1c,2a,3a,14a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
180	19	シルト	B	5c,3b	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
181	8	シルト	B	2a,3a,14a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
182	8	シルト	B	2c,15a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
183	8	シルト	B	5c,14a,15a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
184	13	粘質	A	5c,13c,2a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
185	8	シルト	B	3c,14c,5b,1a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
186	8	シルト	B	3c,14b,1a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
187	8	粘質	A	3c,15c,14b,13a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
188	13	粘質	A	1a,2a,13a,15a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
189	13	砂質	B	3a	3 面石積前空間堆積土	石積 B2 段階
190	5	シルト			4 面造成土	礫層
191	18	シルト	B		4 面造成土	
192	9	シルト	B	6c	4 面造成土	
193	9	シルト	B	5c	4 面造成土	西壁 33 と対応
194	10	粘質			4 面造成土	礫層
195	10	シルト	A	1b,5b	4 面造成土	
196	23	粘質	B	9c	4 面造成土	西壁 39 と対応
197	10	シルト	B	6b,5a,27a	4 面基盤造成土	
198	10	粘質	A	6b	4 面基盤造成土	
199	10	粘質	A	6a	4 面基盤造成土	
200	10	シルト	B	5a,27a	4 面基盤造成土	
201	16	粘質	A	6a	4 面基盤造成土	
202	16	粘質	A	6a	4 面基盤造成土	
203	16	シルト	B	3c,12c	4 面基盤造成土	
204	26	粘質	A	2a,5a	4 面基盤造成土	
205	12	シルト	A		4 面基盤造成土	
206	6	粘質	A	5c	4 面基盤造成土	
207	10	粘質		2a,5a	4 面基盤造成土	
208	10	粘質		2a	4 面基盤造成土	
209	9	粘質	A	6a	4 面基盤造成土	
210	21	粘質	A		4 面基盤造成土	
211	10	粘質	A	15a	4 面基盤造成土	
212	10	粘質	B		地山	
213	10	シルト	B	5c	地山	
214	10	シルト	A	5b	地山	西壁 44 と対応
215	5	シルト	A	5a	地山	西壁 48 と対応
216	10	シルト	A	5b,6b,1a	地山	
217	10	粘質	A	27a	地山	
218	6	粘質	A	5c	地山	
219					地山	
220	17	粘質	A		地山	
221	10	粘質	A	5a	地山	

A トレンチ南壁セクション遺構

溝 1247	10	シルト	B	6b		

調査区西壁セクション

1					グラウンド造成時の盛土	
2					グラウンド造成時の盛土	
3	9	粘質	B	1a,4a,5a,6a	グラウンド造成時の盛土	
4	18	シルト	A	5b,6b,1a	グラウンド造成前表土	
5	5	粘質	A	5c,1b,6a	グラウンド造成前表土	
6	7	シルト	B	5c,6b,1a	グラウンド造成前表土	
7	18	粘質	A	6c,5b,1a,4a	グラウンド造成前表土	
8	9	粘質	A	9c,6b,1a,4a	グラウンド造成前表土	
9	9	シルト	A	9c,1a,4a,5a	グラウンド造成前表土	
10	9	シルト	A	5b,9b,1a	グラウンド造成前表土	
11	18	粘質	A	6c,9b,1a	グラウンド造成前表土	
12	8	シルト	B	5c,1a,4a,9a	グラウンド造成前表土	
13	9	シルト	A	9c,6b,1a,4a,5a	グラウンド造成前表土	
14	18	シルト	A	9c6a	グラウンド造成前表土	
15	7	シルト	A	6a	グラウンド造成前表土	
16	9	シルト	A	5c,1a,4a,6a,9a	グラウンド造成前表土	
17	8	シルト	B	5c,1a,4a,9a	グラウンド造成前表土	

土層番号	土色	土質	締り	混入物・礫	性格	備考
18	5	シルト	A	6b,1a	グラウンド造成前表土	
19	18	粘質	A	6b,1a,4a	グラウンド造成前表土	
20	4	粘質	A	3c,5c,1a	グラウンド造成前表土	
21	5	シルト	A	5c,9b,1a	グラウンド造成前表土	
22	18	シルト	A	5b	グラウンド造成前表土	
23	9	粘質	A	5b,1a,4a,9a	グラウンド造成前表土	
24	4	シルト	B	9c,5b,1a,4a	1 面造成土	南壁 54 と対応
25	16	シルト	B	9c,5b,1a,4a	1 面造成土	南壁 55 と対応
26	8	シルト	B	5c,9c,1a,4a	2 面造成土	南壁 69 と対応
27	9	シルト	A	5b,9b,4a	2 面造成土	南壁 108 と対応
28	9	シルト	A	1a,4a,9a,10a	2 面造成土	礫層
29	9	砂質			2 面造成土	礫層
30	9	シルト	A	5c,1a,6a	2 面造成土	
31	9	シルト	A	5c,1a,4a,9a	4 面造成土	
32	5	シルト	B	9b,5a	4 面造成土	南壁 190 と対応
33	9	シルト	B	5c	4 面造成土	南壁 193 と対応
34	10	粘質	B	9c,4a	4 面造成土	南壁 194 と対応
35	10	シルト	B	5(小粘礫)a	4 面造成土	
36	10	シルト	B	5(こぶし大)b	4 面造成土	
37	9	シルト	B	5c,1a	4 面造成土	
38	9	シルト	B	5b,1a	4 面造成土	
39	10	シルト	A	1b,5b,6a	4 面造成土	南壁 196 と対応
40					4 面造成土	
41	10	シルト	A	5a,6a	4 面造成土	
42	9	シルト	A		4 面造成土	
43	9	シルト	A	6b	4 面造成土	
44	10	シルト	A	5b,1a,6a	地山	南壁 214 と対応
45	10	シルト	A	5a	地山	
46				9a	地山	礫層
47	5	シルト	A	5c	地山	
48	5	シルト	A	5a	地山	南壁 215 と対応
土1316	10	シルト	A	5a,6a	地山	
土1317	10	シルト	A	5a,6a	地山	
土1318	10	シルト	A	5a,6a	地山	
P1319	10	シルト	A	5a,6a	地山	
P1320					地山	
P1321					地山	
土1322	10	シルト	B	6b	地山	
土1323	10	シルト	A	5a,9a	地山	
P1324	10	シルト	A	5a,9a	地山	
土1325	10	シルト	A	9a	地山	
P1326	10	シルト	A	5a	地山	
土1327	10	シルト	A	5a,9a	地山	
P1328					地山	
P1329					地山	
土1330	10	シルト	A	5a	地山	

B トレンチ西壁－F トレンチ東壁セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・礫	性格	備考
1					グラウンド造成時の盛土	
2					グラウンド造成時の盛土	
3	8	シルト	B	5a	グラウンド造成時の盛土	表土
4	5	シルト	B	5c,9c	グラウンド造成時の盛土	
5	5	シルト	B		グラウンド造成時の盛土	
6	7	シルト	A	5a,7a	グラウンド造成時の盛土	
7	5	シルト	A	5c,9c	グラウンド造成時の盛土	
8					グラウンド造成時の盛土	
9	8	シルト	A	5a	グラウンド造成時の盛土	
10	18			3a	グラウンド造成前表土	
11	18	シルト	A	6a	グラウンド造成前表土	
12	18			1a,3a	グラウンド造成前表土	
13	17			3c	グラウンド造成前表土	
14	18			1a,3a	グラウンド造成前表土	
15	18	シルト	B	5c,9c	グラウンド造成前表土	
16	18			3c,5a	グラウンド造成前表土	
17	18			5b	グラウンド造成前表土	
18	18			3c,1a	グラウンド造成前表土	
19					グラウンド造成前表土	
20	18	シルト	B	5c,9c	グラウンド造成前表土	
21	18			1a,3a	グラウンド造成前表土	
22	18			1a,6a,7a	グラウンド造成前表土	
23	18			3c	グラウンド造成前表土	
24	18				グラウンド造成前表土	
25	18			3b	グラウンド造成前表土	
26	18			6a	グラウンド造成前表土	
27	18			21b	グラウンド造成前表土	
28	18			21c	グラウンド造成前表土	
29	18			5c	グラウンド造成前表土	
30	18			1a,3a	グラウンド造成前表土	
31	18			3b,1a,4a	グラウンド造成前表土	
32	8	シルト	B	11a	グラウンド造成前表土	
33					グラウンド造成前表土	
34	8	シルト	B	1a,4a	グラウンド造成前表土	
35					グラウンド造成前表土	
36	4	シルト	A		グラウンド造成前表土	
37	7	シルト	B	3a,5a	グラウンド造成前表土	
38	8	シルト	B	1a,6a	グラウンド造成前表土	
39	7	シルト	B	5a	グラウンド造成前表土	
40	18	シルト	B	3b	グラウンド造成前表土	
41	7	シルト	B		グラウンド造成前表土	
42	8	シルト	B	3c	グラウンド造成前表土	
43	8	シルト	A	7a	グラウンド造成前表土	
44	8	シルト	A	5a	グラウンド造成前表土	
45	4	シルト	A	1a,5a	1 面造成土（土塁南空間）	
46	18	シルト	B	4b,1a,5a	1 面造成土（土塁南空間）	
47	18	粘質	B	5c,1b,4b	1 面造成土（土塁南空間）	
48	18	粘質	B	9c,1a,4a	1 面造成土（土塁南空間）	
49	4	シルト	B	5b	1 面造成土（土塁南空間）	
50	4	シルト	B	9a	1 面造成土（土塁南空間）	
51	18	シルト	B	1b	1 面造成土（土塁南空間）	
52	6	シルト	B	1a,4a	1 面造成土（土塁南空間）	
53	8	シルト	B	5a	1 面造成土（土塁南空間）	
54	6	シルト	B	1a,9a	1 面造成土（土塁南空間）	
55	8	粘質	B	9b,1a	2 面造成土（土塁南空間）	
56	8	粘質	B	1b,9b	2 面造成土（土塁南空間）	
57	4	シルト	B	9b,1a,5a	2 面造成土（土塁南空間）	
58	8	粘質	A	9b,1a	2 面造成土（土塁南空間）	
59	8	シルト	B	6b,1a	2 面造成土（土塁南空間）	
60	8	シルト	B	1b	2 面造成土（土塁南空間）	
61	26			9a	2 面造成土（土塁南空間）	炭化物層
62	23	シルト	B	1a,9a	2 面造成土（土塁南空間）	
63	8	粘質	A	1b,5a,9a	2 面造成土（土塁南空間）	
64	18	粘質	B	1c	2 面造成土（土塁南空間）	
65					2 面造成土（土塁南空間）	
66	8	粘質	A	5(大礫)b,1a,9a	2 面造成土（土塁南空間）	
67	8	粘質	A	1b	2 面造成土（土塁南空間）	
68	8	粘質	A	1a,5a	2 面造成土（土塁南空間）	
69	8	粘質	A	9a	2 面造成土（土塁南空間）	
70	8	粘質	A	9a	2 面造成土（土塁南空間）	
71	18	シルト	A	3a,5a	1' 面造成土	
72	18	シルト	B	3c,10a	1' 面造成土	
73	18	シルト	B	5c	1' 面造成土	
74	18	シルト	A	6b	1' 面造成土	
75	8	シルト	B	5c,9c,1a	1' 面造成土	
76	8	シルト	B	5b	1' 面造成土	
77	8	シルト	B	5c	1' 面造成土	
78	8	シルト	A	1a,9a	1' 面造成土	
79	8	シルト	B	1a	1' 面造成土	
80	8	シルト	B	23b,1a	1' 面造成土	
81	8	シルト	A	5c,7c	1' 面造成土	
82	7	シルト	B	6b	1' 面造成土	
83	8	シルト	B	9c	1' 面造成土	
84	7	シルト	A	1a	1' 面造成土	
85	8	シルト	B	5c,9c,1b	1' 面造成土	
86	19	シルト	B	3c,5c	1' 面造成土	
87	19	シルト	B	6c	1' 面造成土	
88	19	シルト	B	3c,5c	1' 面造成土	
89	19	シルト	B	3c,5c	1' 面造成土	
90	30	シルト	B	1a,9a	1 面造成土	
91	6	シルト	B	1a	1' 面造成土	
92	6	シルト	B	5b,9b,1a	1' 面造成土	
93	6	シルト	B	9b,1a	1' 面造成土	
94	8	シルト	B	1a,9a	1' 面造成土	
95	8	シルト	B	1b,9b	1' 面造成土	
96	16	シルト	B	1a	1' 面造成土	
97	8	シルト	B	6a	1' 面造成土	
98	7	シルト	B	10b	1' 面造成土	
99	8	シルト	B	1b,6a	1' 面造成土	
100	8	シルト	B	9c	1' 面造成土	
101	7	シルト	B	5a	1' 面造成土	
102					1' 面造成土	
103	7	シルト	B	1a,6a	2' 面造成土	
104	7	シルト	B		2' 面造成土	
105	7	シルト	B	5a	2' 面造成土	
106	7	シルト	B	6c	2' 面造成土	
107	7	シルト	B	1c,4b	2' 面造成土	
108	7	シルト	B	5c,4b	2' 面造成土	
109	8	シルト	B	1b,7a	2' 面造成土	
110	8	シルト	B	1a,5a,9a	2' 面造成土	
111	5	シルト	B	9a	2' 面造成土	
112	7	シルト	B	1a,6a	2' 面造成土	
113	7	シルト	B	5c	2 面造成土	
114	8	シルト	B	1a,5a,9a	2' 面造成土	
115	23			4c	2' 面造成土	
116	18			5(小礫)a	2' 面造成土	
117	18			9c	2' 面造成土	
118	9	粘質			2' 面造成土	
119	4	シルト	B		2 面造成土	
120	7	シルト	B		2 面造成土	
121	4	シルト	B	9b	2 面造成土	
122	30			9b,1a	2 面造成土	
123	4	シルト	B	1a,9a	2 面造成土	
124	4	シルト	B	9a	2 面造成土	
125	18	シルト	B	9b	2' 面造成土	
126	30	シルト	B	9b,1a,5a	2 面造成土	
127	4	シルト	B	9b,1a	2' 面造成土	
128	18	シルト		9c	2' 面造成土	
129	19	粘質	B	5b	2' 面造成土	
130	8	シルト	B		2' 面造成土	
131	10	粘質	B	9b	2' 面造成土	
132	18	シルト			2' 面造成土	風化した砂岩層
133	5	シルト	B	5c	2' 面造成土	
134	8	粘質	B	5a,9a	2' 面造成土	
135	5	シルト	B	5a	2' 面造成土	
136	8	砂質	B	6a	2' 面造成土	
137	24	シルト	B	9c	2' 面造成土	
138	8	シルト	B	9c,3a,5a	2' 面造成土	
139	8	シルト	B	3a,5a	2' 面造成土	
140	8	シルト	B	8b,3a,5a	2' 面造成土	
141	8	シルト	B	3c,5b	2' 面造成土	
142	8	シルト	B	3b,5(～5 cm)b,1a	2' 面造成土	
143	8	シルト	B	5(～10 cm)c,3b,1a	2' 面造成土	
144	12	粘質	A	3a	3 面石積前空間堆積土	
145	9	シルト	B	1a,2a,6a	3 面石積前空間堆積土	
146	9	砂質	B	28c,2a	3 面石積前空間堆積土	
147	10	粘質	B	2a,12a,28a	3 面石積前空間堆積土	
148	10	シルト	B	5(～4 cm)b,9a	3 面石積前空間堆積土	
149	8	シルト	B	3b	3 面石積前空間堆積土	
150	8	シルト	B	9a	3 面石積前空間堆積土	
151	23	粘質		27a	3 面石積前空間堆積土	
152					3 面石積前空間堆積土	
153	7	シルト	B	5c	4 面造成土	
154	8	シルト	B	9a	4 面造成土	

土壙番号	土色	土質	締り	混入物・壁	竹筋	備考
155	8	シルト	B	1a,5a,9a	4 面造成土	
156	8	シルト	B	8b,1a	4 面造成土	
157	8	シルト	B	9c,1b	4 面造成土	
158	8	シルト	B	9c,1a	4 面造成土	
159	8	シルト	B	9c,1b,14a	4 面造成土	
160	8	シルト	B	7c,5a,9a	4 面造成土	
161	8	シルト	B	9c,5a,27a	4 面造成土	
162	8	シルト	B	10a,27a	4 面造成土	
163	8	シルト	B	3c	4 面造成土	
164	8	シルト	B	5b,9b,14a,27a	4 面造成土	
165	8	シルト	B	15b,27a	4 面造成土	
166	8	シルト	B	9b,1a,27a	4 面造成土	
167	8	シルト	B	1a,3a,6a	4 面造成土	
168	8	シルト	B	1a	4 面造成土	
169	8	シルト	B	1a,9a	4 面造成土	
170	8	シルト	B	5c,6a	4 面造成土	
171	8	シルト	B	9b,1a	4 面造成土	
172	8	シルト	B	1a	4 面造成土	
173	8	シルト	B	1a,6a	4 面造成土	
174	8	シルト	B	9b	4 面造成土	
175	8	シルト	B	1a,5a,14a	4 面造成土	
176	8	粘質	B	9a,14a,27a	4 面造成土	
177	7	シルト	B	1c,9a	4 面造成土	
178	8	シルト	B	5a,9a	4 面造成土	
179	7	シルト	B	5c	4 面造成土	
180	8	シルト	B	5c,9a	4 面造成土	
181	8	シルト	B	1b	4 面造成土	
182	8	シルト	B	1b,6a	4 面造成土	
183	17	シルト	B	5c,9c	4 面造成土	
184	9	シルト	B	5b	4 面造成土	
185	7	シルト	B	1a,10a	4 面造成土	
186	8	シルト	B	9c,1b	4 面造成土	
187	17	シルト	B	5a,9a	4 面造成土	
188	8	シルト	B	5c	4 面造成土	
189	5	砂質	B	5c,6c,10c	4 面造成土	
190	8	シルト	B	4a	4 面造成土	
191	9	シルト	B	3a	4 面造成土	
192	5	シルト	B		4 面造成土	
193	1.8	粘質	B		4 面造成土	
194	4	粘質	B		4 面造成土	
195	4	シルト	B	9b,1a,5a	4 面造成土	
196	30	シルト	B	9b,1a	4 面造成土	
197	18	シルト	B		4 面造成土	
198	8	シルト	B	5a,9a	4 面造成土	
199	18	粘質	B		4 面造成土	
200	18	粘質	A		4 面造成土	
201	30	粘質	A		4 面造成土	
202	8	シルト	B	9a	4 面造成土	
203	8	シルト	B	5c	4 面基盤造成土	
204	8	シルト	B	9a	4 面基盤造成土	
205					4 面基盤造成土	
206	8	シルト	A	5a,10a	4 面基盤造成土	
207	8	シルト	B	9b,27a	4 面基盤造成土	
208	8	シルト	B	1a,3a	4 面基盤造成土	
209	4	シルト	B	9b,10b	4 面基盤造成土	
210	10	シルト	B	9b,1a,3a	4 面基盤造成土	
211	9	シルト	B	14c	4 面基盤造成土	
212	4	シルト	B	9b,10b	4 面基盤造成土	
213	21	シルト	A	5a,9a,1 5a 22a,27a	4 面基盤造成土	
214	26	シルト	A	15b,9a	4 面基盤造成土	
215	10	シルト	A	15b,1a,2a	4 面基盤造成土	
216	10	シルト	A	2c,15c,1a	4 面基盤造成土	
217	13	砂質	B	5b,8a	4 面基盤造成土	
218	9	シルト	B	5a,6a	地山	
219	9	シルト	B	5c	地山	
220	9	シルト	B	1a	地山	
221	9	シルト	B	5c,1a	地山	
222	8	シルト	B		地山	
223	8	シルト	B		地山	
224	8	シルト	B	5c,3a	地山	
225	8	シルト	B	9c	地山	
226	8	シルト	B	9a	地山	
227					地山	
228	8	シルト	B		地山	
229	8	シルト	B	3a	地山	
230	8	シルト	B	3a,6a	地山	
231	8	シルト	B	5c,3a	地山	
232	8	シルト	B	1b,6b	地山	
233	12	砂質	B		地山	
234	12	砂質	A	1a	地山	
235					地山	

B トレンチ西壁～F トレンチ東壁セクション

1 住					
1	8	粘質	A	8a	
2	8	シルト	B	8b	
右河 1					
1	8	シルト	B	3a,9a	
2	8	シルト	B	1a	
3	8	シルト	B	1a,3a,9a	
＋ 207					
1					
2	8	シルト	B		
＋ 466	9	シルト	B		
＋ 1260	8			5c,1b,4a	
＋ 1269	18	シルト	B	5a,6a	
P1257	8	シルト	B	6a	
P1258					
1	8	シルト	B	4c,1a	
2					
3					

土壙番号	土色	土質	締り	混入物・壁	竹筋	備考
4						
P1262	8	シルト	B	1b,6a		
P1264	9	シルト	B	3b,6a		
P1269						
1	7	シルト	B	8c		
2	7	シルト	B	8c,5a		

K トレンチ北壁セクション

1	4	シルト	B	9c,1a	1 面造成土	土壙状造成土
2	8	シルト	B	9c,1a	1 面造成土	
3	8	シルト	B	9a,12a	1 面造成土	
4	4	シルト	B	1a,9a	1 面造成土	
5	18	シルト	B	11b	2 面造成土	
6	18	シルト	B	9b	2 面造成土	
7	8	シルト	B	9c,1b	2 面造成土	
8	7	シルト	B		2 面造成土	
9	8	シルト	B	6b	2 面造成土	
10	7	シルト	B		2 面造成土	
11	6	シルト	B	11b	2 面造成土	
12	18	シルト	B	5a	2 面造成土	
13	7	シルト	B	9c,10b	2 面造成土	
14	8	シルト	B	11b	2 面造成土	
15	18	シルト	B	9b	2 面造成土	
16	18	シルト	B	5c	2 面造成土	
17	5	シルト	B		2 面造成土	
18	4	シルト	B	9b,10a	3 面造成土	
19	18	シルト	B	7b,12b	3 面造成土	
20	24	粘質	B	9c,12b,13a	3 面造成土	
21	4	粘質	B	5b,12a	3 面造成土	
22	7	粘質	B	1a	3 面造成土	
23	7	粘質	B	3c,12b	3 面造成土	鉄分朝
24	24	シルト	A	6c,7b,13a	3 面造成土	
25	24	シルト	A	8c	3 面造成土	
26	24	シルト	A	6c,3b	3 面造成土	
27	7	粘質	B	3c,12b	3 面造成土	鉄分朝
28	7	粘質	B	3c(27 より濃い),12b	3 面造成土	鉄分朝
29	7	粘質	B	12b,3a	3 面造成土	
30	18	粘質	B	9c,12b	3 面造成土	
31	24	粘質	B	9c,10b	3 面造成土	
32	4	粘質	B	9b	3 面造成土	
33	7	シルト	B	10c	3 面造成土	
34	18	粘質	B	9c	3 面造成土	
35	8	シルト	B	7c	3 面造成土	
36	7	シルト	B	10b	3 面造成土	
37	4	シルト	A	2c	3 面造成土	鉄分朝
38	18	シルト	B	9c	3 面造成土	
39	7	シルト	B	7b,12b	3 面造成土	
40	27	粘質	B	9b	3 面造成土	
41	19	シルト	B	9b	3 面造成土	
42	4	粘質	B	9c,12b	3 面造成土	
43	7	粘質	B	12b	3 面造成土	
44	8	粘質	B	9c	3 面造成土	
45	18	粘質	B	9c	3 面造成土	
46	8	粘質	B	9c	3 面造成土	
47	24			10a	3 面造成土	
48	18	粘質	B	9c	3 面造成土	
49	7	粘質	B	5b	3 面造成土	
50	4	粘質	B		3 面造成土	
51	4	粘質	A		3 面造成土	
52	19	粘質	B	9b,10b	3 面造成土	
53	24	シルト	A	9b,10b	3 面造成土	
54	19	シルト	B	9b,10b	3 面造成土	
55					3 面造成土	
56	4	粘質	B	9b,12b	3 面造成土	
57	4	粘質	B	5c	3 面造成土	
58	4	シルト	B	9b	3 面造成土	
59	18	粘質	B	5c,9b	3 面造成土	
60	4	粘質	B	5c	3 面造成土	
61	5	シルト	B	5b	3 面造成土	
62	5	シルト	B	9c	3 面造成土	
63	19	粘質	B	9b,10b	3 面造成土	
64	19	シルト	B	9b,10b	3 面造成土	
65	4	粘質	B	5b	3 面造成土	
66	7	粘質	B	10b	3 面造成土	
67	22	粘質	B	5b,9b	3 面造成土	
68	4	シルト	A	5c,8b,15a	3 面造成土	
69	13	粘質	A	11b	4 面造成土	
70	25	粘質	B	3b	4 面造成土	
71	7	粘質	B	3b,13b	4 面造成土	
72	25	粘質	B	3b,10a	4 面造成土	
73	13	粘質	A	12b	4 面造成土	
74	17	粘質	A	15c,1b,6b	4 面造成土	
75	17	粘質	A	15c,6b,11b	4 面造成土	
76	13	粘質	A	13c,6a	4 面造成土	
77	13	粘質	A	7c,6a	4 面造成土	
78	13	粘質	A	6a,7a	4 面造成土	
79	13	シルト	B	6a	4 面造成土	
80	9	シルト	A	6b,1a,5a	4 面造成土	
81	9	粘質	A	13c,1a,5a,6a	4 面造成土	
82	9	シルト	A	3c,5a,6a	4 面造成土	
83	4	シルト	B	5b	4 面造成土	
84	18	シルト	B	5c	4 面造成土	
85	5	シルト	B	5c	4 面造成土	
86	9	シルト	B	5b	4 面造成土	
87	8	シルト	B	9c	4 面造成土	
88	24	シルト	B	10b	4 面造成土	
89	4	シルト	B	10b	4 面造成土	
90	9	シルト	B		4 面造成土	
91	18	シルト	B	5b	4 面造成土	
92	8	シルト	B		4 面造成土	
93	10	シルト	B	5b	4 面造成土	

土層番号	土色	土質	締り	混入物・礫	性格	備考
94	9	シルト	B		4面造成土	
95	9	シルト	B	6b	4面造成土	
96	7	シルト	B		4面造成土	
97					4面造成土	
98	8	シルト	B	5a,9a	4面造成土	
99	8	シルト	B	5(風化した砂岩)c	4面造成土	
100	8	シルト	B	4a,5a,9a	4面造成土	
101	18	シルト	B	1a,9a	4面造成土	
102	10	シルト	A	5a,9a	4面造成土	
103	10	シルト	A	5a	4面造成土	
104	8	粘質	B	5b,9a	4面造成土	
105	10	粘質	B	5a	4面造成土	
106	8	粘質	B	7c	4面造成土	
107	10	粘質	B	1b	4面造成土	
108	18	シルト	B		4面造成土	
109	4	シルト	B	5b	4面造成土	
110	10	砂質	B	5b	4面造成土	
111	10	粘質	B	6c	4面造成土	
112	8	シルト	B	5c,9c	4面造成土	
113	18	シルト	B	9c	4面造成土	
114	8	シルト	B	5b	4面造成土	
115	10	シルト	A		4面造成土	
116	10	粘質	A	9a	4面造成土	
117	10	シルト	A		4面造成土	
118	8	シルト	B	1c	4面造成土	
119	18	シルト	B	5b	4面造成土	
120	8	シルト	B	6a	4面造成土	
121	18	シルト	B	9b	4面造成土	
122	4	シルト	B	19a	4面造成土	
123	8	シルト	B	1b,19b	4面造成土	
124	9	シルト	B	5b,9b	4面造成土	
125	10	シルト	B	5b	4面造成土	
126	21	粘質	B	9a	4面基盤造成土	
127	21	シルト	B	9a	4面基盤造成土	
128	28	シルト	B		4面基盤造成土	
129	26	粘質	B	15b	4面基盤造成土	
130	21	シルト	B	1b,13b	4面基盤造成土	
131	10	シルト	B	1a,2a,6a,15a	4面基盤造成土	
132	9	シルト	B	2b,15b,1a,6a	4面基盤造成土	
133	10	シルト	B	2b,15b,1a,6a	4面基盤造成土	
134	10	シルト	B	15c,1a,2a	4面基盤造成土	
135	9	シルト	B	15b,1a,2a	4面基盤造成土	
136	10	シルト	B	2b,15b,1a,6a	4面基盤造成土	
137	9	シルト	B	1a,2a,15a	4面基盤造成土	
138	13	シルト	B	1a	4面基盤造成土	
139	13	シルト	B	1c	4面基盤造成土	
140	9	粘質	B	1b,2a,15a	4面基盤造成土	
141	9	シルト	B	1a,2a	4面基盤造成土	
142	10	シルト	B	1c,2b,15a	4面基盤造成土	
143	13	シルト	B	1c,11b,2a	4面基盤造成土	
144	13	シルト	B	11b,1a,2a	4面基盤造成土	
145	9	粘質	B	1c,2a	4面基盤造成土	
146	9	粘質	B	15b,1a,2a	4面基盤造成土	
147	10	シルト	A	1a,2a,15a	4面基盤造成土	
148	10	シルト	A	15b,1a,2a	4面基盤造成土	
149	9	シルト	A	15c,1a,2a	4面基盤造成土	
150	10	シルト	A	1c,15b,2a	4面基盤造成土	
151	10	シルト	A	15c,1a,2a,5a	4面基盤造成土	
152	9	シルト	A	4b,15b,1a,3a	4面基盤造成土	
153	13	シルト	B	9b,1a	4面基盤造成土	
154	9	粘質	A	6c,2b,1a	4面基盤造成土	
155	13	シルト	B	9b,1a	4面基盤造成土	
156	9	シルト	B	1a,2a,5a,15a	4面基盤造成土	
157	23	粘質	A		4面基盤造成土	
158	28	粘質	B	6a	地山	
159	9	粘質	A	1a,2a	地山	
160	9	粘質	A	2a	地山	
161	26	シルト			地山	
162	10	シルト	A	6b	地山	
163	10	シルト	A	1b	地山	
164	10	シルト	A	5b,6b	地山	漸移層
165	29				地山	

Kトレンチ北壁セクション遺構

土層番号	土色	土質	締り	混入物・礫	性格	備考
溝777	30	シルト	B			
溝1224	9	シルト	A	6b		
P1217						
1	18	シルト	B			
2	18	シルト	B	1b		
3	10	シルト	B	6c		
4	9	シルト	B	6a		
P1285	18	シルト	B	9c,12b,1a,4a		
P1287	18	シルト	B			
P1290	18	シルト	B	5b,9b		
P1291						
1	8	シルト	B			
2	9	シルト	B	1b,9b		

G－G'（石積A）セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・礫	性格	備考
1	18	シルト	B		1面造成土	
2	4	シルト	B		2面造成土	
3	18	シルト	B		2面造成土	
4	7	粘質	B	10b	2面造成土	
5	7	シルト	B	5c	2'面造成土	
6	8	シルト	B	1a,5a,9a	2'面造成土	
7	18	シルト	B	9b,5a	2'面造成土	
8	19	粘質	B	9c	3面造成土	
9	7	粘質	B	10b	3面造成土	
10	24	粘質	B	10c	3面造成土	
11	7	粘質	B	7c	3面造成土	
12	4	シルト	B	9c	3面造成土	
13	4	粘質	B	9c5b	3面造成土	
14	18	粘質	B	9c	3面造成土	
15	7	粘質	A		3面造成土	
16	25	粘質	B	9c	3面造成土	
17	18	シルト	B	9c,5b	3面造成土	
18	4	粘質	A	10c	3面造成土	
19	4	粘質	A		3面造成土	
20	18	シルト	B	5b,9a	4面造成土	
21	18	シルト	B	5b,6b	4面造成土	
22	8	シルト	B	5a	4面造成土	
23	8	シルト	B	9a	4面造成土	
24	8	シルト	B	9b,1a	4面造成土	
25	8	シルト	B	5a,9a	4面造成土	
26	8	シルト	B	9a	4面造成土	
27	8	シルト	B	1a,9a	4面造成土	
28	8	シルト	B	9a	4面造成土	
29	8	シルト	B	1a	4面造成土	
30	8	シルト	B	6b,1a	4面造成土	
31	8	シルト	B	9c,1a	4面造成土	
32	8	シルト	B	7c,5a,9a	4面造成土	
33	8	シルト	B	9aq	4面造成土	
34	8	シルト	B	5c,9c	4面造成土	
35	10	シルト	B	1b,9b	4面造成土	
36	18	シルト	B	9c	4面造成土	
37	18	シルト	B	1c	4面造成土	
38	18	シルト	B	9c	4面造成土	
39	8	シルト	B	3c,1b	4面造成土	
40	10	シルト	B	9c,1b	4面造成土	
41	10	粘質	B	15c	4面造成土	
42	8	シルト	B	15b	4面造成土	
43	18	シルト	B	6c	4面造成土	
44	10	シルト	B	6b	4面造成土	
45	10	シルト	B	9b	4面造成土	
46	4	粘質	A	9c	4面造成土	
47	13	粘質	B		4面造成土	
48	18	シルト	B	5c,6c	4面造成土	
49	5	シルト	B	5c	4面造成土	
50	9	シルト	B	5a,9a	4面造成土	
51	18	シルト	B	5b,9a	4面造成土	
52	5	シルト	B	5c,6b	4面造成土	
53	9	シルト	B	1a,5a	4面造成土	
54	5	シルト	B	6c,5b	4面造成土	
55	9	シルト	B	5b,1a	4面造成土	
56					4面造成土	
57	9	シルト	B	5b,6a	基盤造成土	
58	10	シルト	B	1b,5a	基盤造成土	
59	10	シルト	B	5b,6b	基盤造成土	
60	10	シルト	B	5b	基盤造成土	
61	9	シルト	B	5c	基盤造成土	
62	21	粘質	A		基盤造成土	
63	13	粘質	A	13c	基盤造成土	
64	21	粘質	A		基盤造成土	
65	21	粘質	A	5a	基盤造成土	
66	13	粘質	A	1b	基盤造成土	
67	10	粘質	A	15a	基盤造成土	

H－H'（石積B1）セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・礫	性格	備考
1	6	シルト	A	6c,1a	3面造成土	M-M'2層と対応
2	6	シルト	A	6c,8c,11c	3面造成土	M-M'3層と対応
3	6	シルト	A	6c,11c,8a	3面造成土	M-M'4層と対応
4	6	シルト	A	6c,8c,11a	3面造成土	M-M'8層と対応
5	6	シルト	A	15b	3面造成土	M-M'9層と対応
6	6	シルト	A	6c,11b,8a	3面造成土	M-M'5層と対応
7	6	シルト	A	15a	3面造成土	M-M'10層と対応
8	6	シルト	A	3c,15b	3面造成土	M-M'11層と対応
9	9	粘質	A	6b	3面造成土	M-M'12層と対応
10	31	粘質		29b,16a,3a	4面基盤造成土	
11	21	粘質		30(極小)8.1a	4面基盤造成土	
12	26	シルト		29c,1a,16a	4面基盤造成土	
13	17	粘質	B		4面造成土	
14	32	粘質		1c,30a	4面基盤造成土	
15	28	粘質		15c,1a	4面基盤造成土	
16	28	粘質		1c,30a	4面基盤造成土	
17					4面基盤造成土	
18					4面基盤造成土	

I－I' セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・礫	性格	備考
1	17	シルト	B		グラウンド造成前表土	
2					グラウンド造成前表土	
3	16	シルト	A	6c,14a	2面造成土	
4	10	シルト	A	6a	2面造成土	
5	16	シルト	A	6c,7b	3面造成土（石積B2段階）	
6	10	シルト	A	6c	3面造成土（石積B2段階）	
7	10	シルト	A	6c	3面造成土（石積B2段階）	
8	9	シルト	A	6c,13c	3面造成土（石積B2段階）	
9	9	シルト	A	6c,13b	3面造成土（石積B2段階）	
10	8	シルト	A	6c	3面造成土（石積B2段階）	
11	10	粘質	A	6c,14c	3面造成土（石積B3裏込）	
12	17	粘質	A	15c,6a	3面造成土（石積B3裏込）	
13	10	シルト	A	6a	3面造成土（石積B3裏込）	
14	10	粘質	A	14b	3面造成土（石積B3裏込）	
15	10	粘質	A	3c,6c,15a	3面造成土（石積B3裏込）	
16	13	粘質	A	3b,6b	4面基盤造成土	
17	10	粘質	A	1b	4面基盤造成土	

M－M'（石積B1）セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・礫	性格	備考
1	17	シルト	A	1a,6a	1面造成土	
2	6	シルト	A	6c,1a	3面造成土	H-H'1層と対応
3	6	シルト	A	6c,8c,11c	3面造成土	H-H'2層と対応
4	6	シルト	A	6c,11c,8a	3面造成土	H-H'3層と対応
5	6	シルト	A	6c,11b,8a	3面造成土	H-H'6層と対応

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
6	5	シルト	A	11b,15b,6a	3面造成土	
7	6	シルト	A	6c,11a	3面造成土	
8	6	シルト	A	6c,8c,11a	3面造成土	H-H'4層と対応
9	6	シルト	A	15b	3面造成土	H-H'5層と対応
10	6	シルト	A	15a	3面造成土	H-H'7層と対応
11	6	シルト	A	3c,15b	3面造成土	H-H'8層と対応
12	9	粘質	A	6b	3面造成土	H-H'9層と対応
13	8	粘質	A	6a	3面造成土	
14	9	粘質	A	6b,15b	3面造成土	
15	4	シルト	A	3c,15a	3面造成土	鉄分層
16	13	シルト	A	11b,3a	3面造成土	
17	13	シルト	A	3b,11a	3面造成土	
18	13	シルト	A	11a	3面造成土	
19	9	シルト	A	15b	3面造成土	
20	13	シルト	B	1a	3面造成土	
21	13	粘質	B	2b,1a,15a	4面基盤造成土	
22	10	粘質	A	15c,2a	4面基盤造成土	
23	17	シルト	B		地山	
24	3	砂質	B		地山	
25	17	粘質	B		地山	

N－N'（石積 B3）セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
1	31	粘質		29b,1a,3a,16a	4面基盤造成土	
2	26	シルト		29c,1a,16a	4面基盤造成土	
3					4面基盤造成土	
4	12	粘質		30b,1a	4面基盤造成土	
5	32	粘質		1c,30a	4面基盤造成土	
6	28	粘質		15c,1a	4面基盤造成土	
7	28	粘質		1c,30a	4面基盤造成土	
8	35	粘質			4面基盤造成土	
9	21	粘質		1b,31b	4面基盤造成土	

Q－Q'（石積 A・B1）セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
1	8	シルト	B	6c,1a	3面造成土	
2	7	シルト	B	10c,14a	3面造成土	
3	12	粘質	A	12c	4面造成土	
4	10	粘質	A	1a,15a	4面造成土	
5	8	粘質	A	1a,2a,15a	4面基盤造成土	

S－S'（石積 A）セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
1	18	シルト	B		1面造成土	
2	7	シルト	B			
3	4	シルト	B	9b,1a	2'面造成土	
4	5	シルト	B	5c	2'面造成土	
5	18	シルト	B	5b	2'面造成土	
6	5	シルト	B	5c	2'面造成土	
7	18	シルト	B	5c	2'面造成土	
8	5	粘質	B	1c,5a	2'面造成土	炭層
9	8	シルト	B	3a,5a	2'面造成土	
10	8	シルト	B	3c,5a	2'面造成土	
11	23	シルト	B	1b,5a,9a	2'面造成土	
12	8	シルト	B	5(～10㎝)c,3b,1a	2'面造成土	
13	6	シルト	A	5(～6㎝)c	3面石積前空間堆積土	
14	6	シルト	A	5c,1a,9a	3面石積前空間堆積土	
15	6	シルト	A	5b,9a	3面石積前空間堆積土	
16					3面石積前空間堆積土	
17	18	シルト	B	9c	4面造成土	
18	18	シルト	B	5b,6b	4面造成土	
19	18	シルト	B	5c,6b	4面造成土	
20	18	シルト	B	6c	4面造成土	
21	18	シルト	B	6c	4面造成土	
22	8	シルト	B	1b	4面造成土	
23	8	シルト	B	9c	4面造成土	
24	9	シルト	B	5b	4面造成土	
25	9	シルト	B	5a,6a	4面造成土	
26	9	シルト	B	6b,5a	4面造成土	
27	9	シルト	B	9c	4面造成土	
28	9	シルト	B	5b,6b	4面造成土	
29	9	シルト	B	10c,6b	4面造成土	
30	10	粘質	A	6a	4面基盤造成土	
31	21	シルト	B	3a,27a	4面基盤造成土	
32	21	シルト	A	5a,9a,15a,22a,27a	4面基盤造成土	
33	6	シルト	A		4面基盤造成土	
34	26	シルト	A	15b,9a	4面基盤造成土	
35	34				4面基盤造成土	
36	4	シルト	A	5b	地山	

T－T'（石列 8 南北面）セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
1	8	シルト	B	5a,9a	4面造成土	
2	8	シルト	B	5b,9b	4面造成土	
3	9	シルト	B	9a	4面造成土	
4	8	シルト	B	9c,5a	4面造成土	
5	10	シルト	B	1a,5a,9a	4面造成土	
6	10	シルト	B	9b,5a	4面造成土	
7	10	シルト	B	9c,5a	4面造成土	
8	10	シルト	B	5b,9b	4面造成土	
9	8	粘質	B	1a	4面造成土	
10	8	シルト	B	5c,1a,9a	4面造成土	
11	18	粘質	B		4面造成土	
12	18	シルト	B	5c	4面造成土	
13	18	シルト	B	5b	4面造成土	
14	8	シルト	B		4面造成土	
15	9	シルト	B	5b,6b	4面造成土	
16	7	シルト	B	1a,6a	4面造成土	
17	8	シルト	B	9b,5a	4面造成土	
18	8	シルト	B	9a	4面造成土	
19	8	シルト	B	5(10㎝)a,9a	4面造成土	
20	4	シルト	B	9c	4面造成土	
21	21	シルト	B	5(～2㎝)c,1a	4面造成土	
22	8	シルト	B	5(～2㎜)b,9a	4面造成土	
23	8	シルト	B	9b,1a	4面造成土	
24	8	粘質	B	9b,5a	4面造成土	
25	4	シルト	B	10b	4面造成土	
26	8	粘質	B	9a	4面造成土	
27	6	粘質	B	1a,9a	4面造成土	
28	8	シルト	B	1a,5(～1㎝)a	4面造成土	
29	8	シルト	B	5b,6b	4面造成土	
30	33	シルト	B	5(～8㎝)b	4面造成土	
31	8	粘質	B	5c,1a	4面造成土	
32	8	粘質	B	5(風化砂岩)c	4面造成土	
33	10	粘質	B	5b,1a,9a	4面造成土	
34	8	シルト	B	1c,9a	4面造成土	
35	8	粘質	B		4面造成土	
36	8	粘質	B	1a,9a	4面造成土	
37	8	シルト	B	1a	4面造成土	
38	8	シルト	B	5a,9a	4面造成土	
39	23	シルト	B	1a,5a,9a	4面造成土	
40	10	シルト	B	5(～0.5㎝)a	4面造成土	
41	18	シルト	B	9b,5a	4面造成土	
42	5	シルト	B	9b,5a	4面造成土	
43	8	シルト	B	5(～1㎝)b	4面造成土	
44	8	シルト	B		4面造成土	
45	8	シルト	B	5(～5㎝)b,9a	4面造成土	
46	8	シルト	B	5a,9a	4面造成土	
47	8	シルト	B	5a,9a	4面造成土	
48	8	シルト	B	9b,1a,5a	4面造成土	
49	8	シルト	B	5b	4面造成土	
50	8	シルト	B	5a,9a	4面造成土	
51	23	粘質	B	9c	4面基盤造成土	
52	23	粘質	B	1a,9a	4面基盤造成土	
53	8	粘質	B	1b	4面基盤造成土	
54	8	シルト	B	9c,5b	4面基盤造成土	
55	8	粘質	B	9b	4面基盤造成土	
56	16	粘質	B	15a	4面基盤造成土	
57					地山	
58					地山	
59	18	砂質	A	9a,10a	地山	
60	21	シルト	A		地山	
61	26	砂質	A		地山	

T－T'（石列 8 南北面）セクション遺構

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
土1228	23	粘質	A			
P1227	8	粘質	A			

U－U'（石積 A）セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
1	18	シルト	B	5b	4面造成土	
2	8	粘質	B	5a	4面造成土	
3	10	シルト	B	5a,9a	4面造成土	
4	7	シルト	B	10c,5a	4面造成土	
5	8	シルト	B	5b,9a	4面造成土	
6	7	シルト	B	5a,10a	4面造成土	
7	8	シルト	B	5b,1a,9a	4面造成土	
8	18	シルト	B	5b,1a,9a	4面基盤造成土	

V－V'（石積 A）セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
1	9	シルト	B	9c	4面造成土	
2	5	シルト	B	5b,9b	4面造成土	
3	7	シルト	B	5b	4面造成土	
4	5	シルト	B	5c	4面造成土	
5	4	シルト	B	5b,9b	4面造成土	
6	4	シルト	B	5c	4面造成土	
7	5	シルト	B	5c,9a	4面造成土	
8	9	シルト	B	5c,9b	4面造成土	
9	9	シルト	B	5b,9a	4面造成土	
10	9	シルト	B	5c	4面造成土	
11	10	シルト	B	9c,5b	4面造成土	
12	9	シルト	B	5b,9b	4面造成土	
13	5	シルト	B	9c,5b	4面造成土	
14	9	シルト	B	5b,9b	4面造成土	
15	9	シルト	B	6b	4面造成土	
16	8	粘質	B	1a,5a	4面造成土	
17	9	シルト	B	5c,9b,1a	4面基盤造成土	
18	10	シルト	B	5a	4面基盤造成土	
19	10	シルト	A	3b,5a,6a	4面基盤造成土	
20	10	粘質	A	1b,5a	4面基盤造成土	
21	10	シルト	A	5b,1b,10b	4面基盤造成土	
22	9	砂質	B	5b	4面基盤造成土	
23	9	シルト	A	1a,6a	地山	
24	10	シルト	B	6c	地山	
25	4	砂質	A	5a	地山	

K－K'（石列 4）セクション

土層番号	土色	土質	締り	混入物・量	性格	備考
1	8	シルト	B		4面造成土	
2	7	シルト	B		4面造成土	
3	10	粘質	B	1b	4面造成土	
4	18	シルト	B		4面造成土	
5	5	シルト	B	5b	4面造成土	
6	10	砂質	B	5b	4面造成土	
7	10	粘質	B	6c	4面造成土	